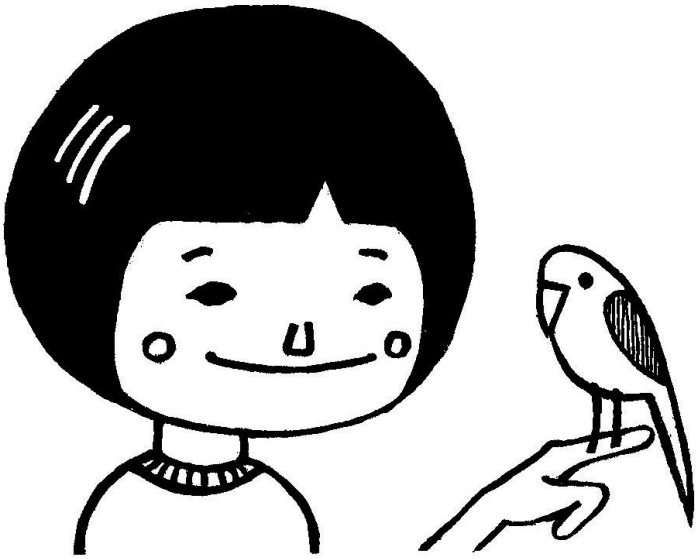
平成２８年度

つくしの実践

第３７集



一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る

～将来に結びつく個別の指導計画を

中心としたPDCAサイクルの再構築～

千葉県立つくし特別支援学校

は　じ　め　に

平成２８年度つくし特別支援学校の研究のまとめ「つくしの実践」第３７集をお届けします。

一昨年度から、「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る。～個別の指導計画から授業へ～」を掲げ、実態の把握と、その上で作成する個別の指導計画をどのように授業づくりに反映させるかが課題であることを確認し、３カ年計画で取り組んできたところです。

３年計画とはいうものの、２年目である昨年度は、思いがけず、１学期中、新設の矢切特別支援学校が本校に同居する事態となり、当初の予定通り研究を進められる状況ではないと判断いたしました。そこで、昨年度に関しては、授業実践への取り組みそのものではなく、話し合いを中心に、本研究の理念を共有する取り組みを行うこととしました。

個別の指導計画を作成するに当たり、大切にすべきは、子どもの状況が、今どうなのかという実態把握、アセスメントだと思います。様々な教育的ツールを活用し、客観的に把握をすることはもちろん、教師の経験と勘に裏打ちされた「見取り」も大切にしたいと考えました。ベテランの経験と勘をいかに急増している若手に伝えていくか、そこが、今の教育界の喫緊の課題の一つと言えます。個別の指導計画を作成するにあたって考慮すべき事柄を検討し、作成する際の段取りや参考にすべき資料等をフローチャートにまとめるという作業をする中で、ベテランの経験と若手の新鮮な視点を融合させることを意識したグループセッションを繰り返し、つくしなりの子どもたちの見取りを考えていく方法論「つくしメソッド」を曲がりなりにも確立し、学部ごとにフローチャートをまとめることができました。

今年度はそうした成果を踏まえて、「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る　～将来に結びつく、個別の指導計画を中心としたPDCAサイクルの再構築～」をテーマに、個別の指導計画等の作成過程の見直しを学部ごとに行うとともに、実際に授業展開をする中で、個々の子どもたちの見取りがどう生かされていたかを検証する形で研究を進めてきました。「つくしメソッド」の前提である学部や世代を超えたグループセッションを学部研究会ごとに持ち、授業を柱に子どもたちのことを語り合うセッションを行いました。子どもの学びをどう的確に支えるか、もちろん到達点などないに等しい取り組みですが、教員個々の取り組みが重なり、想いが響き合って広がっていくことを期待しています。全職員で語り合い、見えてきたものは、必ずや今後のつくしの方向性を確かなものにしてくれるであろうと信じています。

３年計画とはいえ、学校の大変革期にあたり、紆余曲折を経て決してスムーズな取り組みとは言えなかった今回の研究ではありますが、このような形でその営みを報告できることを、とても喜ばしく思います。御一読の上、忌憚のない御意見を寄せていただくとともに、御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

なお、今年度の研究を進めるに当たり、松戸市在住であり元文部省教科調査官、都立青鳥養護学校長、帝京大学教授、現全国特別支援教育推進連盟理事長　大南英明先生、並びに千葉県立袖ケ浦特別支援学校教頭　井上昌士先生には、個別の指導計画・支援計画を柱に今後の特別支援教育の展望も含め御指導、御助言を頂きました。心より感謝とお礼を申し上げます。

平成２９年３月

校長　　佐　藤　　弘　行

目次

○はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
○本校の教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
○第一章　全校
　Ⅰ　全校テーマ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　Ⅱ　全校テーマについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　Ⅲ　研究の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　Ⅴ　来年度に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
○第二章　小学部
　Ⅰ　小学部の生活　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
　Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
　Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
　Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
　Ⅴ　参考資料・付録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
○第三章　中学部
　Ⅰ　中学部の生活　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３
　Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
　Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
　Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６
　Ⅴ　参考資料・付録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４
○第四章　高等部
　Ⅰ　高等部の生活　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８４
　Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
　Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
　Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
○終わりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１０
○研究同人　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１１

本校の教育

平成２８年度学校教育目標及び学校経営方針、経営の重点

１ 学校教育目標

児童生徒一人一人の持つ力を引き出し、*主体的な学習活動を支え*、*自立に向け*て「生きる力」を育む。

（確かな学力）
(1) 基礎基本の定着を図るとともに、自ら学び、思考し、表現する力を育む。
（豊かな心）
(2) 自らを律し、人と協調し、思いやる心、感動する心など豊かな人間性を育む。
（健やかな体）
(3) たくましく生きるための健康や体力を育む。
（キャリア教育）
(4) 自分でできることを増やし、自立や社会参加に*向け*、望ましい生活習慣や態度を育む。

２ 目指す児童生徒像

つくしの子 ⇒ 自ら学び、思考し、主体的に行動する子
仲間を思いやる心を持ち一緒に活動する子
健康で明るく生き生きと生活する子 ⇒ 自立に向かって努力する子

３ 学校経営の基本方針

(1) すべては子どもたちのためにとの認識の下、長期的な見通しを踏まえ、真摯に教育活動に取り組む。
(2) 一人一人の教育的ニーズをくみ取り、専門性の高い教育の充実に努める。
(3) 平成２８年度学校教育指導の指針に則り、「生きる力」の育成に努める。
(4) 児童生徒・保護者・地域に信頼される、安全・安心な学校づくりに努める。

４ 経営の重点

(1) 学校経営・教育課程
①学校教育目標の具現化を図る教育課程を編成し、実施する。
・障害の状態や特性及び発達の段階並びに地域の実態を的確に把握しそれを踏まえた教育課程の編成
②組織マネジメントを生かした機動的な学校運営を進める。
・機能的な校務分掌の編成と、機動力のある学校運営
・校内研修や若年層教員の活性化による教職員の資質・能力の向上、活力ある教育活動の推進
③防災、安全管理、不祥事防止を徹底する。
・危機管理マニュアルの改善、防災避難訓練、引渡訓練等の徹底
・安全管理の徹底のよる学校事故の防止と、事故発生時の迅速かつ組織的な対応

・不祥事防止研修の計画的な実施等による教職員の意識の向上と不祥事の防止

④開かれた学校づくりを推進する。

・学校だよりの発行、授業公開、学校公開、ウェブページの定期的な更新による学校情報の公開

・開かれた学校づくり委員会や学校評価アンケートを踏まえた学校経営の改善

⑤交流および共同学習を推進する。

・学校間交流の充実と、保護者の希望を踏まえた居住地校交流の実施

⑥新生つくし特別支援学校として教育課程の見直しを図る。

・自立活動の充実、校外宿泊学習の精選と充実等、教育課程を適切に編成する。

(2)学習指導

①自ら学び、思考し、表現する力を育むため、指導内容、方法の改善に努める。

・わかりやすい授業、よりよい指導・支援をめざした工夫と改善

②個別の指導計画に基づき指導に取り組むとともに、評価を的確に行い、指導の質的改善を図る。

・的確なアセスメントに基づく個別の指導計画の作成と指導実践の充実

・信頼性、妥当性のある学習評価による実態の再評価、目標の再設定など、ＰＤＣＡサイクルによる指導の改善

③教材教具、補助具等の工夫、開発、整備に努める。

④ＩＣＴを活用した教育活動を充実する。

(3)道徳教育・人権教育

①道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図り、全教職員が協力して道徳教育を推進する。

②障害の状態や特性及び発達の段階に応じ、一人一人に応じた指導を行う。

③一人一人のかけがえのない生命、人権を尊重し、児童生徒同士、教職員と児童生徒の関係など、心豊かな人間関係を作る。

(4)体育・健康・安全教育の充実

①学校教育活動全体を通じて、体育・健康に関する指導を行うとともに、障害の状態や特性及び発達の段階を的確に把握し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育む。

③安全な生活や行動をとることができるように、個に応じて危険を予測し回避する能力の育成に努める。

④望ましい食生活を送ろうとする態度を育成する。

⑤食育に加え、食の機能面も視野に入れ、計画的、組織的な指導に努める。

(5)生徒指導の充実

①確かな児童生徒理解を踏まえ、一人一人の人格を尊重し、個性の伸長、社会的資質や行動力の向上を図る。

②組織的対応のための体制を整備するとともに、家庭、地域社会と連携し家庭の教育力、地域の教育力を生かす。

③いじめ防止基本方針に基づき、生徒指導体制を運用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。

④児童生徒、保護者に相談窓口を周知するとともに、教育相談体制を整備する。

(6)キャリア教育の推進、進路指導の充実

①キャリア教育の視点から小・中・高等部１２年間の教育活動をとらえ直す。

・学校生活全体を通して、健康、基本的生活習慣、社会性を育成

②一人一人に応じた計画的な進路指導を推進する。

③家庭および関係機関と連携のもと、個別の移行支援計画を作成し、適切な運用を図る。

(7)教育環境の整備

①学校の教育環境の整備については、選択と集中を旨とし、効率よく進めるようにするとともに、一層の環境の美化を推進する。

②施設、設備、備品等の計画的な整備、更新に努める。

(8)家庭・地域との連携・センターとしての役割

①保護者の授業参観の計画的実施や、個別の教育支援計画、個別の教育計画の提示により、児童生徒の教育についての認識を共有し、連携の下に指導を進める。

②関係市教育委員会、小・中学校、高等学校等と連携し、地域の特別支援教育を推進する。

③町内会、自治会との連携や学校行事への招待等を通して、地域の学校として親しまれるとともに地域のなかで役割を果たせる学校を目指す。

(9)研究・研修活動の推進

①個別の指導計画を基に、評価を生かし反映できる授業作りを追求する。

②授業の実践研究を深め、指導力を高める。

③昨年度の研究成果を踏まえ、学部を超えた話し合いを通して全校一丸となった研究・研修活動を進める。

④児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び発達の段階に応じた指導の研修に努める。

第一章　全校

Ⅰ　全校テーマ　・・・・・・・・・・・　７

Ⅱ　全校テーマについて　・・・・・・・・・・・　７

Ⅲ　研究の方法　・・・・・・・・・・・　８

Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・　８

Ⅴ　来年度に向けて　・・・・・・・・・・・　９

Ⅰ　全校テーマ

「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る
～将来に結びつく、個別の指導計画を中心としたPDCAサイクルの再構築～」

Ⅱ　全校テーマについて

１　はじめに

本校では一昨年度、「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る」とし、三年計画で研究を進めてきた。一昨年度は副題を「～個別の指導計画から授業へ～」として、個別の指導計画と授業の関連性について授業研究を中心に行った。昨年度は研究主題を引き継いだ上で、副題を「～個別の指導計画を中心としたPDCAサイクルをフローチャートにまとめよう～」として、講師招聘を伴う研究授業を行わず、我々教師の実践を省察し、さらに「café　Tsukushi」と称した語り合いの場を設定し「児童生徒の見取り」や「日々の授業での悩み」「児童生徒の将来を見据えた指導・支援」など日々の実践の振り返りとともに、そこに存在する、先生方の想いも含めてフローチャートにしてまとめた。

２　問題と目的

（１）　これまでの研究成果と課題

一昨年度の研究において、長期目標から年間計画、そして個別の指導計画から授業実践というつながりを各学部で意識できたが、一人一人の実態を捉える資料としては、記載項目を整理していく必要があるという課題が残った。

さらに、昨年度の研究において各学部の話合いの中では、他学部の教育活動や考え方について改めて知ったことも多く、各学部間におけるつながりの薄さについて問題提起されるとともに、小学部・中学部・高等部における12年間のつながりを考えていく必要性、そして、卒業後の生活を見据えて、その児童生徒の人生をイメージすることや保護者との信頼関係を築く重要性などにおいても、再確認する場となった。

さらに、教師自身が「性」「自立活動」「強度行動障害」など様々な分野について研さんをしていく必要性、学年間、学部間での引継ぎの難しさや、他校から進学してくる生徒の引継ぎについての問題などもあげられた。

そこでは「引継ぎのときにどのような情報を引き継ぐことが必要なのか？」という話題から派生し、「本校の個別の教育支援計画、個別の指導計画に記載すべき、必要な情報とは？」という問題提起がされた。このことから、これらの項目・書式について、もっと分かりやすく、さらに児童生徒の状態像などが明確になるように再検討する必要性について提案し、研究活動の柱の一つとして位置付けていくことが確認された。

（２）研究の目的

児童生徒の 12 年間や高等部卒業後の生活を考えながら「見取り」や「見立て」を行うための「専門性・知識」を研修や授業研究の中で高めつつ、それらを駆使して得られた情報を集約すべき、個別の教育支援計画を中心とした各種書類の整備を行うこととし、３年間のまとめとする。

Ⅲ　研究の方法

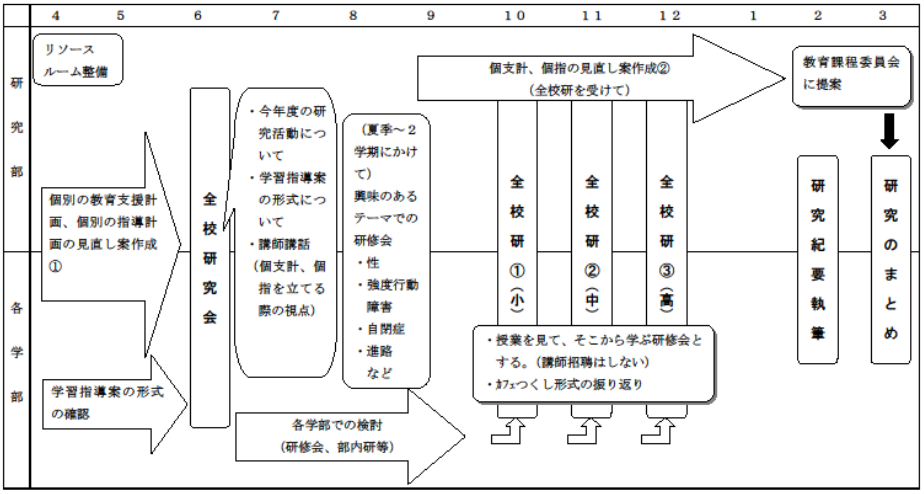
1　個別の教育支援計画および、個別の指導計画の書式・項目・内容等の検討（研究部～各学部）
→講師（袖ヶ浦特別支援学校教頭　井上昌士先生）を招へいし、個別指導計画の立て方から学ぶ。

2　各学部で検討された書式や項目・内容で試行する。

3　各学部で授業を含めた案の検討。

4　全校研において、個別の教育支援計画から個別の指導計画の流れを整備したものから授業に生かすという視点で、授業の例を示す。
→各学部で振り返りを行い、部の案として研究部に提案する。
→研究部で各学部のすり合わせを行い、教育課程委員会に提案する。

今年度の研究の流れ



Ⅳ　結果と考察

1　書式の検討の初めに

書式の検討を行うにあたり、講師に袖ケ浦特別支援学校教頭　井上昌士先生を招へいし、指導計画の変更に当たって大切にすべきことについて、講演いただいた。（※資料１）

講師の助言を基に、研究部で「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の整備の方法について研究部で検討を行った。「個別の教育支援計画」については、児童生徒の日常生活や今後の支援、外部とのつながりなどを記載するもので、内容が多岐にわたるものである。今回は個別の指導計画と授業との関連性という視点であるため、支援計画の内容で、個別の指導計画にも記載が必要なものについては残し、その他については、「このような情報が掲載されているとよい」という意見を集約するのみにとどめ、「個別の指導計画」の整備に努めた。

2　各学部での取組

学部ごとに本校の個別の指導計画について、問題点や改善点があるか、また、どのように変更していきたいか等のアンケートをとり、それを基に各学部で指導計画の試案を作成した。各学部の試案については各章に詳細を掲載した。

3　取組を経て

各学部とも、二学期に全校研究会を実施し、新たな「個別の指導計画」の案と、授業との関連性について検討を進めた。

全校研究会の場では、「授業について」と「個別の指導計画について」の検討、さらに、小学部から高等部までのつながりを意識した協議の柱を用意して、話合いを行った。そこでは、忌憚なく意見

が言えるように、できるだけ小集団での話合いにし、協議を深めていった。

小学部では、本人と保護者の「現在・将来の願い」を入れることにより、より思いをくみ取った個別の指導計画を作成することができた。さらに、「好きなこと・苦手なこと」を記入することで、児童の姿が具体的に伝わりやすくなり、引継ぎの際に活用されることが期待される。また、授業研究会において、個別の指導計画の目標を指導案に記入することで、授業と個別の指導計画の関連をより意識して日々の授業に取り組めるようになった。

中学部では、教育課程上の目標とつながりをもたせつつ、項目や観点の内容を整理した「個別の指導計画（案）」の作成を行った。それと並行して、授業づくりを通して各教科における指導目標や指導方法の検討も行った。このようにすることで、授業と「個別の指導計画」の双方におけるポイントを関連付けながら確認し、学部として各教科への取組に関する課題点や改善点などを検討することができた。

高等部では、「生徒の実態の幅が大きく、高等部全体として現行のもの以外で、一つの書式に当てはめることが困難である」などの理由から、今回は新たな「個別の指導計画」を提案するまでは至らなかった。しかし、現行の「個別の指導計画」において授業との関連性を検討し、PDCA サイクルがなされるための授業づくりには何が必要なのかを検討することができた。そして、個別の指導計画の項目一つ一つについて考えるきっかけになった。

個別の指導計画を見直し、整備することで、児童生徒像を見出し、その児童生徒の実態からの目標設定、授業、実践、評価、次の課題というサイクルの重要性が確認でき、今年度のテーマ「一人一人の個性を大切にした授業の在り方を探る～将来に結びつく、個別の指導計画を中心とした PDCA サイクルの再構築～」に迫ることができたといえる。

Ⅴ　来年度に向けて

今年度は、個別の指導計画と授業づくりの視点から検討を進めてきた。個別の指導計画については、「児童生徒の実態像をつかみ、目標を立て、指導に当たり、評価をし、また児童生徒に戻していく」という視点で作成していくことが確認された。つまり、個別の指導計画は、目標ありきではなく、授業を行い、児童生徒がその授業で何を学び、何ができるようになったか（＝評価）を明確にしていくことが重要であるということが言える。

そのためには、児童生徒が「やりたい」と思い、「やった」「できた」がわかりやすい授業になるような実践をしていく必要がある。「『やりたい』や『分かる』『やった』『できた』という気持ちを大切にした授業は、児童生徒のキャリア発達を促す」とある（尾崎　2008）。これは、今までの特別支援教育の中でも大切にしてきたことである。ここで再度原点に戻り、授業の在り方について考え、検討していきたいと考える。

そこで、研究テーマは、

「児童生徒一人一人の育ちを支える授業づくり」

とし、三年計画で行っていきたい。多様な個性をもつ児童生徒たちが、授業を通して充実した日々を送れるような研究になるようにしたい。

（資料１）

全校研修会「個別の指導計画を作成する際の視点
～自立活動、合理的配慮の記載の検討」

講師　千葉県立袖ヶ浦特別支援学校　教頭　井上昌士先生

より抜粋

・つくし特別支援学校の研究テーマ「一人一人の個性を大切にした授業の在り方を探る～将来に結びつく、個別の指導計画を中心としたＰＤＣＡサイクルの再構築～」は、壮大な研究テーマだなあ、という印象。

＜個別の指導計画の意義＞

・個別の指導計画は100％の学校で作成しているが、その活用は悩ましい。十分に活用しているとは言えない。文科省は、個別の指導計画の作成は求めているが、活用の基準は設けていない。活用の仕掛けを作る必要がある。

・今回の研究は、個別の指導計画を中心にいろいろな面を再構築した結果、子どもの教育活動がどう変わったかを検証するものになる。

＜個別の指導計画を作成する目的は＞

・個別の指導計画を作成する目的は、①指導効果の客観性を保証するため②指導の妥当性を検証するため③指導の記録を残すため④情報の共有を図るため⑤より質の高い実践に向けた検討を行うため。

・記録をしっかりと残すことが大切で、記録には文章、音声、映像などいろいろある。記録を残す、情報を共有するのには役立っている。客観性、妥当性を検討したことはあるか。同じ教材を使っても、昨年との違いは何なのか。何よりも指導の構造を明確にすることが大事。引継ぎの写真は一瞬芸を残すのではなく、どのようにできたかを明記すべき。

＜日本以外の個別の指導計画は＞

・海外に目を向けると、同じＩＥＰでも異なるものがある。Ｐがアメリカでは＜プログラム＞で、一定期間後の到達点を表し、契約、契約書としての法的なもの。イギリスでは＜プラン＞で、目標として、目指していく方向性を示している。

・日本の個別の指導計画はアメリカ型とイギリス型の両方が入っている。アメリカ型の書式でイギリス型の内容だと言える。

＜どう変えて行くか＞

・残念ながら、個別の指導計画が十分に活用されているとは言えない。書き過ぎ、文章が長い、どこに中心があるか分からないものも多い。初めはできるだけ少なく書き始める。目標は最も共有できるもの、方法は最初のものが最後までいくとは限らない、手立ても変化するものとして記す。評価は、できる、できないよりも、そのことができる環境について記す。

・追記できるようにすること。目標は修正、追加できるように、日付を加え、記録としての意味を含める、なぜ変化したのか、追加したのかの理由を加え、誰が書いたか、名前を加えるとよい。また個別の指導計画を支える補助資料や記録簿も必要になってくる。

・特別支援教育はチームティーチング。必要な情報が得られるか、共有すべき情報は何か、外部からも助言を求める。情報は細かくなるほど記録するのが辛くなる、どこを残してどこをカットするのか、あれもこれもでよいのか。記録は読んで、使ってこそ意味がある。

・子どもの記録、評価だけでなく、指導経過についてチームで協議すべき。個別の指導計画に記述された＜なぜ＞の部分が共有されないと、深めることができない。

・個別の指導計画は、短く記す、子どもの変化に応じて書き加える、複数の人で書く、理由を添える、子どもの評価だけでなく指導についての言葉も記す。

＜自立活動について＞

・自立活動は、教育課程の中でどう位置づけられているかを確認して検討することが必要。個別に指導の計画を作成するのが基本で、最初から集団での指導を前提とはしない。

・自立活動の指導は学校の教育活動全体を通して行うが、指導場面としては、①時間における指導、②合わせた指導、③各教科の中での指導がある。学校教育法では基本は教科であり、合わせた指導は指導の方法である。

・例えば羽目板のマッチングでも、時間の指導と捉えると、自立活動の区分で、心理的安定、人間関係、環境の把握など細かく 26 項目の中で考える。教科学習と捉えると、小学部の算数１段階で「数量の基礎」があり、具体物があることが分かる、個別化する、見分ける、分類するなど、算数の目標で、教科の目標を達成するためにいろいろな配慮や手立てをすることになる。

＜合理的配慮について＞

・合理的配慮の記述については、基礎的な環境整備の上に個々に対応する必要がある。合理的配慮とは結果保障を規定しない概念で、不利益を取り除くための配慮を用意すること。不利益とは何かを吟味すること。

・通常学級の教科学習には評価基準がある。知的障害教育には目標と内容はあるが評価基準はない。「３までのマッチングができる」と言うときに、どうなったらできると言えるのか。

・目標設定が大事。誰が見ても分かるもの。長期目標は抽象的なものでもよいが、日々の目標は具体的に。

第二章　小学部

Ⅰ　小学部の生活　・・・・・・・・・・・　１３

Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・　１５

Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・　１５

Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・　１６

Ⅴ　参考資料・付録　・・・・・・・・・・・　４０

Ⅰ　小学部の生活

１　学部目標

〈確かな学力〉　基礎的な知識を身につけ、考えて行動したり表現できる力を育てる。
〈豊かな心〉　身近な人たちと楽しく活動できる力を育てるとともに、豊かな感受性を育てる。
〈健やかな体〉　健康な体を育てる。
〈キャリア教育〉身の回りのことに自分から進んで取り組む力を育てる。

２　日課表

低学年　１．２．３年生　　（　　）内は重複学級の日課

時刻	曜日	月	火	水	木	金	(分)
９：００		登　校					
１０：００	１	日常生活の指導　[着替え・自立活動・課題別学習等]					６０
		日常生活の指導　[朝の会]					１０
１０：１０							５
１０：１５	２	全校集会 リズム運動 （自立活動）	体　育		リズム運動 （自立活動）	リズム運動 （自立活動）	３０
１０：５０							５
１０：５５	３	図画工作	ことば・かず		音楽	学級活動	４５
１１：４０							５
１１：４５	４	日常生活の指導　[給食・歯磨き]					６０
１２：４５		昼　休　み					２５
１３：１０	５	[学部集会] 自立活動 遊びの指導	学年集会	自立活動 遊びの指導	自立活動 遊びの指導	学級活動	４５
１３：５５	６	日常生活の指導　[着替え・帰りの会]					３０
１４：２５ １４：３０		下　校					

高学年　４．５．６年生　　（　　）内は重複学級の日課

時刻	曜日	月	火	水	木	金	(分)
９：００		登　校					
９：４５	１	日常生活の指導　[着替え・自立活動・課題別学習等]					４５
		日常生活の指導　[朝の会]					１５
１０：００							５
１０：０５	２	全校集会 学級活動	ことば・かず			音楽	４５
１０：５０							５
１０：５５	３	高学年体育	体育 （自立活動）			図工	４５
１１：４０							５
１１：４５	４	日常生活の指導　[給食・歯磨き]					６０
１２：４５		昼　休　み					２５
１３：１０	５	[学部集会] 自立活動 遊びの指導	自立活動 遊びの指導	自立活動 遊びの指導	学年集会	学級活動	４５
１３：５５	６	日常生活の指導　[着替え・帰りの会]					３０
１４：２５ １４：３０		下　校					

３　小学部の紹介

１２年間の学校生活の入り口に当たる小学部では、身辺自立を図るとともに、学校生活を含む実際の日常生活に必要な知識を身につけ、それらを扱う力をつける土台づくりとなる重要な時期である。身近な教師や仲間の中で、楽しく、のびのびと活動に取り組む中で経験の幅を広げ、学校生活、また社会生活において主体的な姿を育んでいくことにつながると考える。

授業づくりにおいては、実態把握を丁寧に行い、個別の指導計画を基に教師間で十分に話し合い、内容や目標を検討して実践している。学習グループについては、学級や学年を基本としているが、他学年の児童との関わりももてるように組織している。「ことば・かず」では、１年生と６年生はそれぞれの学年で２・３年生と４・５年生はそれぞれ２学年合同で、縦割グループでの学習を行っている。

主な活動　ーねらいを中心としてー

【日常生活の指導】
・学校生活の流れの中で衣服の着脱、排泄、食事などの基本的生活習慣を身につけるとともに、自分の力でできるような意欲や態度、技能を育てる。
・集団生活をする上で必要な挨拶、言葉遣い、時間や決まりを守るなどの指導・支援を行い、児童の日常生活の充実を図る。
・朝の会、帰りの会は、一日の始まりや終わりを意識し、生活に見通しをもって取り組めるようにするとともに、コミュニケーションの力を育てる。

【ことば・かず】
・児童一人一人の課題に応じ、学校生活を含む実際の日常生活に必要な、聞く・話す・読む・書く力や数量などの初歩的な知識を身につけ、それらを扱う力を育てる。
・教師や友達、物との関わりの中で、自分の要求や意思を身振りや言葉などで表現しようとしたり、相手の言葉や気持ちを理解しようとしたりする力を育てる。

【体育】
・サーキットやボール運動などの様々な体の動きを通して、一人一人に応じた調整力、筋力等を身につける。
・教師や友達と一緒に楽しみながら体を動かし、体力の向上を図る。

【遊びの指導】
・楽しさや面白さを十分に味わうことにより、遊びの経験を広げたり、深めたりして、身体活動を活発にし、意欲的な態度を育てる。

【生活単元学習】
・日頃の学習の成果を発表したり、公共の場で行動したりして生活経験を広げる。
・教師や友達と関わりながら見通しをもって意欲的に課題に取り組み、活動する喜びを味わう。

【図画工作】
・絵を描いたり、作品を作ったりなどの表現活動をする。
・はさみや筆などを使って作品づくりを行い、道具の操作に慣れる。
・いろいろな素材に触れ、親しんだり、楽しんだりすることを通して創造性を育てる。

【音楽】
・音楽に合わせた手遊びや歌などの表現活動を楽しむ。
・いろいろな楽器に親しみ、音色や演奏を楽しむ中で、楽器への興味や関心を高める。
・音楽に合わせた身体表現をする楽しさを味わい、表現しようとする気持ちを育てる。
・いろいろな曲やパネルシアターなどの鑑賞活動を通して、音楽の美しさや楽しさを味わう。

【自立活動】
・六つの区分の内容から、個々の児童が必要とする項目を選定し、具体的な指導内容を設定する。
・《課題別学習》一人一人の生活場面での課題や体の動き、コミュニケーション、認識などの課題に個別的に取り組む中で、自立や社会参加の基盤となる資質を養う。

【集会活動】
・楽しみながら季節の行事などを経験する。
・自分が発表したり、友達の発表を見たりして楽しむ。
・友達とダンスやゲームをして楽しむ。（低学年と高学年が交流できるように配慮する。）

【リズム運動】（低学年）
・リズムにのって基礎的な体の動かし方（寝返り、四這いなど）を身につける。
・集団の動きを見たり、曲を聞き分けたりして、自分から体を動かそうとする気持ちを育てる。

Ⅱ　学部研究の目的

１　昨年度までの研究

平成２６年度から今年度までの３年間は、全校テーマ「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る」のもと、授業と個別の指導計画の関連を洗い出しながら、一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探っていくこととなった。

本研究１年目の２６年度は「個別の指導計画を基本とした『ことば・かず』の授業づくり」というサブテーマを設定した。２３年度から２５年度までの３年間の研究で作成したチェック表を活用し、「ことば・かず」の授業づくりにおいて、実態把握から、長期・年間目標、個別の指導計画の目標、授業の内容までの流れを整理し共有するために、授業グループごとに各児童の長期・年間目標を一覧にしたり、各グループでの授業内容をまとめた「活動内容一覧表」を作成したりして、よりよい授業実践に向けて取り組んだ。

２年目の２７年度においては、講師招聘を伴う全校授業研究会を行わず、「café Tsukushi」と称した全校での語り合いの場を中心に「児童生徒の見取り」や「日々の授業での悩み」「児童生徒の将来を見据えた指導・支援」など教師の想いを伝える研究となった。その語り合いの中で、より日々の授業に生かせるよう、個別の教育支援計画や個別の指導計画の書式を見直していくことが確認された。

２　今年度の研究について

今年度は、研究テーマを「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る～将来に結び付く、個別の指導計画を中心とした PDCA サイクルの再構築～」として、個別の指導計画と授業を関連づけながら授業研究を行い、より授業に生かすことの出来る個別の指導計画の書式を検討していく。

（１）個別の指導計画を基本とした「朝の会」の授業づくり

授業研究として、日常生活の指導「朝の会」に焦点をあてる。朝の会は、①毎日必ず行っている授業であるため、振り返り・改善を行いやすいこと、②経験年数や専門分野に関わらずどの教師も MT として授業を行う機会があるため、研究を通して得たものを誰もが実践に生かしやすいことが焦点をあてた理由である。授業実践を通して、個別の指導計画との関連や教師の支援、教材・教具について話し合い、朝の会についての共通理解を深めていく。

（２）個別の指導計画の書式について

より授業に生かすことの出来る個別の指導計画の書式について検討する。新しい書式で個別の指導計画を作成し、それをもとに授業研究を行う。更に検討を重ね、小学部の考える新しい個別の指導計画の書式を作成する。

３　目的

○朝の会の授業実践を通して、個別の指導計画と授業の関連を共通理解しながら児童一人一人の個性を大切にした授業について考える。

○より授業に生かすことの出来る個別の指導計画の書式を作成する。

Ⅲ　学部研究の方法

１　授業研究

部内授業研究会　　６回　（１～５年各１学級、６年１学級教材紹介）　６月～１１月

全校授業研究会　　１回　　２年１組　１展開　１１月２４日（木）

２　個別の指導計画の見直し

個別の指導計画に関するアンケートの実施

新しい書式の作成

Ⅳ　結果と考察

１　朝の会について

（１）学部授業研究会

《指導案より》

①小学部１年２組

１　単元名「朝の会」

２　本時の目標

○今日の学習内容を知り、一日の活動に見通しをもったり、期待感をもったりする。
○挨拶や呼名に応えたり、自分の活動を行ったりする。
○友達や教師を意識し、やりとりをしながら関わりをもち、楽しんで参加をする。

３　本時の展開

時配	児童の活動	指導上の留意点	教材・教具等
1	○はじまりのあいさつ	・注目するようにサインと言葉で行う。	ホワイトボード プログラム
１８	○あいさつ	・一人ずつ挨拶をして、個々に応じた反応を促す。	
	○あさのうた	・気持ちが上がるように歌にサインをつけて盛り上げる。	歌詞カード
	○なまえ ・Ａは顔写真の上に数字カードを貼り、出席人数を発表する。	・名前を呼ぶ順番に配慮する。 ・児童の実態に応じて、提示するカードの枚数を変える。 ・友達の呼名の様子を見るようにする。	顔写真カード 名前カード 数字カード 日付･曜日カード
	○きょうのよてい ・Ｄは今日の日付と曜日をホワイトボードに貼る。 ・Ｂは天気の発表をする。 ・今日の予定を知る。	・手がかりとして日付と曜日は同色の縁取りテープを貼る。 ・窓から外を見るようにし、３枚の天気カードを提示する。 ・日課のカードを見せ、言葉やサインなどで説明を加えながら分かりやすく話をする。	天気カード 日課カード
	○こんだて ・献立を知る。 ・Ｅは今日のデザートをホワイトボードに貼る。 ・Ｃは今日のデザートを言葉で発表する。	・言葉とサインで献立を話す。 ・写真をＣに提示し、尋ねる。 ・絵カードを複数提示し一人ずつ選択をする。教師が児童の前で一緒に行い、身振りやくすぐりをする。	写真カード 絵カード ＣＤラジカセ
	○おたのしみ		
1	○おわりのあいさつ ・椅子を片付ける。 ・次の活動の準備をする。	・注目するようにサインと言葉で行う。	

４　評価

○日課表に注目したり、教師の話を聞いたりすることができたか。
○自分の活動を行うことができたか。

５　配置図

黒板

ホワイトボード　T１

E　D　C　B　A

T２　T３

＜個別の指導計画＞

・朝の会が指導場面となっている目標とその手立て

児童名	目標	手立て
A児	○今日の出席人数を数えて、数字カードを黒板に貼る。	○数を飛ばさないで数えるように、一人ずつ指さしながらゆっくりと一緒に数唱する。
B児	○朝の会で今日の天気を発表する。	○発表しやすく天気を絵カードで表す。選ぶ前に窓から外を見て確認をするように言葉をかける。
D児	○朝の会で日付を枠内に貼る。	○日にちを赤色、曜日を緑色と色を区別する。それに対応するカードも同色のテープで縁取りをする。

・朝の会に関する内容

	目標	手立て
A児	○黒板の日付を見て、日めくりカレンダーを破く。 ○集団の中で役割に応じた活動をする。	○黒板の数字と見比べることができるように大きく数字が書かれたカレンダーを黒板横にかけておく。 ○役割を意識できるように友達の前に出て貼ったり、発表したりをする場面を設定する。
D児	○呼名のときに自分の写真カードを所定の場所に貼る。	○やることが分かりやすいように友達の次に呼名をする。
E児	○名前を呼ばれたら写真カードを受け取り、ホワイトボードに貼る。	○カードを両手で持つように促し、教師はホワイトボードが正面にくるようにする。

＜授業のポイント＞

・児童が朝の会に気持ちが向くように、T１が「はじめます。」などの言葉かけをする。
・落ち着いて活動ができるように児童の座席に配慮し、教員が後ろにつく。
・児童の目線で見やすいように、ホワイトボードを使い、注目できるようにする。
・朝の会で使用する教材教具はホワイトボードの後ろに準備してその都度提示する。
・朝の会のなかで一人一人に活動があるように設定をする。個々に行った活動をみんなで共有できるようにT１は復唱したり褒めたりする。
・日課カードを話すときは発音や口の形に注目できるように、口元にカードを持ってきてはっきりと話す。
・楽しいことを友達同士で共有できるように「おたのしみ」を設け、手遊びなどを一緒に行う。

＜学部研究会協議会＞

〇授業者から

・１年生なので、ＭＴは教師が行って流れを作っている。
・使わないものは、隠している。
・見やすいように、ホワイトボードを使用している。
・日程カードを読むとき、口の形を見せて言葉を言ってからサインを見せている。
・一日を楽しく過ごせるよう、「おたのしみ」を入れている。
・今の席が落ち着くので席は固定している。
・最初は、机を前において児童が離席しないようにしていた。少しずつ今の形になり、今は机を使っていない。
・Ａ児の個別の指導計画の目標は、係として入れている。

〇参加者から

内容（教材）について

・ホワイトボードの情報量が多いと思った
・最後に「おたのしみ」があるので、頑張れてよいと思う。
・なぜ、手遊びをおたのしみとして選んだのか。

教師のかかわりについて

・児童が自分たちから集まってくるようになった。
・カードを目で追うようになった。
・役割や流れが、児童なりに分かっているようだ。
・自分でできることが増えることに喜びを感じているような児童もいる。
・教師のかかわりを重視していると思った。
・「おたのしみ」があって、教師とのかかわりを多くもっている。

児童について

・友達の方をよく見ていた児童がいた。
・１年３組は児童が日直をして進行している。そういうこともできるのではないか。

その他

・座席はまっすぐでなく、少し弧を描いていても良い。
・同じ１年生でも、学級によって全然違う。
・１年３組はコの字型に机を置いている。
・机があると、教師に注目できないと思った。
・（Ｑ）ことばとカードを見るのと、サインを別々にしていたが、そちらのほうが良いのか。
　→（Ａ）聾学校の幼稚部では、一つ一つをゆっくりと行う。そういうやり方があっても良い。
　　だんだんと同時にやるようになるといいと思う。自然な流れが一番良い。

②小学部３年１組

１　単元名　「朝の会」

２　本時のねがい

○一日の学習予定の話を聞いたり予定表を見たりして一日の見通しをもつ。
○自分の役割を果たし、着席などのルールを守る。
○友達と関わり合いながら一日の活動を始める。

３　本時の展開

時配	児童生徒の活動	支援上の留意点	資料/教具等
8	○始めのあいさつ ・日直は、言葉やサインであいさつをする。 ・日直は、会の進行に合わせ、プログラムカードを外す。	・T1 は、児童が模倣しやすいようにゆっくりサインをする。	プログラムボード
	○はじめのうた	・楽しい雰囲気になるよう、サインをつけて教師も大きな声で歌う。	歌詞カード
	○呼名 ・日直は、名前を呼んで写真カードを手渡す。 ・返事をしてカードを受け取りボードに貼る。	・T1 は、日直が名前を呼んだ後、児童を見ながら名前を呼び、日直にカードを渡す。 ・日直が名前を呼ぶことが難しいときは、T1 が呼び、日直にカードを渡す。 ・T2、T3 は、呼名された児童に返事をするよう体に触れたり言葉をかけたりする。	名前ボード 写真カード
5	○日にち・曜日 ・Ａは、カレンダーから日にちと曜日のカードを選ぶ。	・日にちが分かりやすいようにカレンダーの日にちと曜日に印を付けておく。	カレンダー
	○天気 ・Ｂは、外を見て天気を発表し、天気カードを選ぶ。	・晴れか曇りかなどで迷っているときは、２枚の天気カードから選ぶようにする。	天気カード
	○今日の予定 ・Ｃは、予定を読む。	・一日の見通しを持ちやすいように、絵カード、文字カード、場所カードを提示しておく。	絵、文字、場所のカード
	○献立 ・Ｄは、献立を読む。	・T1 は、Ｄが読んだ後、文字と線画を使って献立を発表する。	献立ファイル 献立ボード
	○あいさつ ・日直は、言葉やサインであいさつをする。	・T1 は、児童が模倣しやすいように大きくサインをする。	

４　評価

○それぞれの児童が役割を果たすことができたか。
○友だちに注目したり、名前カードの受け渡しで関わりを持ったりすることができたか。

＜個別の指導計画＞

	目標	手立て
A児	（係活動） ○カレンダー係。カレンダーから数字を選び貼る。	○選ぶ数字が分かるように、数字カードを並べてあるカレンダーに印をつける。
B児	（係活動） ○朝の会で、今日の天気のカードを貼る。	○窓から外の様子を見て確認するように伝える。
D児	（朝・帰りの会） ○順番カードを見て、相手に伝わる大きさで進行をする。	○日直のときはせりふカードを用意し、大きな声で言えたらその都度褒める。

＜授業のポイント＞

・落ち着いて参加できるように教室の掲示物は最小限にしている。
・名前ボードや予定表が見やすいように、座る場所に配慮する。
・暑いと不安定になる児童が多いので、気温に注意する。
・始まる前に絵本の読み聞かせを行い、自然な着席を誘う。
・隣の友達を意識できるよう、席は固定する。
・人数が多いので、集中できる時間を考えて児童の役割は精選して行うようにする。朝の会の中だけでなく、プログラム係、カード係、カレンダーボード係、名前ボード係を設けて、事前の準備を行っている。
・Ｔ１は、声の大きさに配慮する。
・児童がＴ１に注目できるように、他の教師は言葉かけや声の大きさに注意する。
・教師も集団の一人であることを意識する。
・児童が自分でできるよう、見守る姿勢で支援する。
・楽しい雰囲気が出るように、歌から始める。
・呼名で児童同士が一対一で関わる場面を設ける。

＜学部研究会協議会＞

○授業者から
・人数が多いので、待ち時間が長くならないようにしたいと思っている。呼名も、もう少し丁寧に行いたいが、あっさりと名前を呼んでカードを貼るようにしている。
・日直は、全員が交代で行っている。
・個別の指導計画では朝の会で目標を作成していなくても、他の項目の目標を朝の会に盛り込んでいる。

○参加者から
・（Q）ＳＴの座る場所は決まっているか。
→（A）ＳＴ２名と介助員さん１名の座る場所は決まっている。
・昨年は教師が進行していたが、今日、進行している姿を見て成長を感じた。
・昨年、A君に対しては、「５日」を「ごにち」ではなく、「いつか」と読むように指導していた。読めるようになってきているので、継続すると良いと思う。

③小学部４年２組

１　単元名　「朝の会」

２　本時の目標

○予定表を見たり、活動内容の話を聞いたりして、一日の活動の見通しをもつ。
○自分の役割を果たしたり、友達の活動に注目したりする。
○友達や教師を意識し、やりとりしながらかかわりをもつ。

３　本時の展開

時配	児童の活動	支援上の留意点	資料／教具等
1	○はじまりのあいさつ ・日直が号令をかける。	・サインを取り入れながら、発声を促す	足型マット 椅子 机 進行カード
１８	○朝のうた ○呼名 ・日直が順番を決める。 ・Ａが返事をした友達に、写真カードを渡す。 ・Ｂが人数を数える。 ○今日の日付け ・Ｅが日にちを読み上げる。 ○今日の天気 ・Ｃが天気を表現し、マークを選択する。 ○今日の予定 ・Ｄが発表する。 ○献立発表 ・Ｅが自分で書き上げたメニューを発表する。 ○下校方法の発表 ・Ｆが、ボードを見ながら読み上げる。 ○先生のはなし ・今日の学習のポイントや、季節に合わせた話を聞く。	・発声やサインを引き出すように歌いかける。 ・友達を意識できるように、写真カードへの注目を促す。また、返事をする様子が見やすいように姿勢を変えたり、Ｂとタッチするように促したりする。 ・特に２桁の数字に注目し、発表できるようにする。 ・窓の外に注目し、サインや発声での表現も大切にする。 ・読み上げる部分が分かりやすいように、棒を持って発表する。 ・発表する立ち位置が分かりやすいように、足型マットを置く。 ・読み上げることが難しい時は、ヒントを出し、発表できるようにする。 ・注目しやすいように、必要な時は具体物を提示しながら話す。	写真カード 人数ボード 日付カード 曜日カード お天気マーク 日課カード 棒 献立ノート 足型マット 下校ボード 足型マット 季節の素材 （必要に応じて）
1	○おわりのあいさつ ・日直が号令をかける。	・サインを取り入れながら、発声を促す。	

４　評価

○教師の話を聞いたり、予定表や下校ボードに注目したりすることができたか。
○自分の係に進んで取り組んだり、友達に注目したりできたか。
○カードの受け渡しなど、友達とやりとりすることができたか。

＜個別の指導計画＞

児童名	目　　標	手　　立　　て
A児	○朝の会で、自分から友達に写真カードを渡す。	○返事をした友達が分かるように、友達の方へと体を向ける。 ○他の児童には、A児へと手を挙げるなどの合図を送るように促す。
B児	○具体物を数えたり、物を操作したりする。	○自分の言葉で表出するように促す。ボードを使って、数えた人数を読み上げて発表できるようにする。
C児	○朝の会で今日の天気を発声やサインで発表する。	○発声や動作での自主的な表現を大切にして、なかなか表現しないときは、サインを教師が見せる。
D児	○日常生活で使う語彙を増やし、進んで表現する。	○文字やカードに注目できるように黒板の正面に立たせる。明瞭さにかけても、発表できたことを大切にする。
E児	○朝の会で、給食の献立を発表する。	○献立があらかじめ分かるように、献立を書く課題に取り組み、書いた物を発表する。 ○足マットを置いて、友達の方に体を向けて発表できるようにする。
F児	○いろいろな平仮名を読んだり、１０以上の数と数字のマッチングに取り組んだりする。	○足マットを置いて、友達の方に体を向けて発表できるようにする。 ○分からなかった時は、最初の文字を教師が伝え、考えるように促す。

＜授業のポイント＞

○朝の会の前に簡単な体操を取り入れ、朝の会の座位が整うように準備する。

○なるべく骨盤を起こし、体幹を伸ばした座位姿勢を維持できるように、必要な児童には補助具を活用する。また、足を置く位置の目安になるように足元にマットを置き、正面を向く姿勢を引き出す。

○一人、一役の係仕事を取り入れ、毎日、自分の役割を果たすとともに、友達の役割を認めていけるようにする。また、教師は一人一人の役割を認め、出来たことがわかるように伝えていく。

○繰り返しの活動のなかで、数字の理解を深めたり、発声が明瞭になったり、さらに自信をもって発表できるようになったりするなど、その時々の課題が果たせるように期待しながら取り組む。

○名前を呼ばれた友達に注目する、カードの受け渡しをするなどの活動を通して、友達とのやりとりができるようにする。

○「先生の話」のなかに、季節を感じるような話題に触れたり、行事の話を聞いたりする内容を取り入れていく。

＜学部研究会協議＞

○授業者から

・一人一役になるようにしている。担当の児童は、自分の役割を繰り返し果たすようにする。周りの児童の視線を担当の児童に集めるように支援する。

・座位を整え、朝の会に集中できるように、棒体操を取り入れている。

・姿勢は、前よりはよくなっている。椅子に滑り止めマットをつけたり、児童椅子の後方に木を入れたりしている。

・友達の役割を理解し、期待したり、待ったりできるようになってきている。

・日直でなくても進行を言ってしまう児童がいるので、支援のあり方を検討している。
・４月に比べ、友達や教師に注目するようになっている。
・個別の指導計画の目標から、朝の会の目標とリンクさせながら設定している。
・言葉やサイン、身振りで表現できるようになってきているのでそれも大事にしていく。

〇参加者から

内容（教材）について

・（Q）視覚支援は今後どうしていくのか。
　→（A）給食のメニューなどは視覚支援を入れていきたい。

〈教師の関わり〉

・ＭＴとＳＴの連携が取れている。
・「先生の話」よく注目している。ＳＴが言葉で児童にその時々の様子を返したらいいのではないか。

児童について

・日直より先に言ってしまう児童に対しては、ルールを示す、あるいは流して日直の児童に言うようにさせる。
・「しー。」とＳＴが近くで声をかける。
・声の大きさは「０（ゼロ）」→「だまる」だけでなく、「小さな声」でも良い。

その他

・（Q）座席が決まっていないのはなぜか。
　→（A）両サイドは決まっている。日直を全員が行っているので、日直の児童がいつも座っている席の空きを埋めたいという思いもある。

④小学部５年１組

１　単元名　「朝の会」

２　本時の目標

○学級の教師や友達を意識し、一日の活動に見通しをもつ。
○小集団の中で自分の役割を果たしたり、友達の活動に注目したりする。
○基本的な動作語の指示や呼名に気付き、応じる。

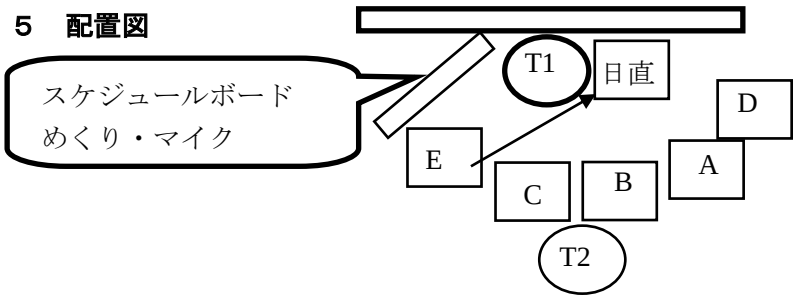
３　本時の展開

時配	児童生徒の活動	指導上の留意点	教材／教具等
1	１　朝の会の始まりを知る。 ○椅子を運び、席につく。	・T1 は児童が向かうべき場所が分かるように活動場所から呼び掛け、　T2 は児童を T1 に注目させる。	椅子 床のシール
１２	２　朝の会をしよう ○挨拶（日直） ○呼名（A児） ○今日の日にち（B児） ○今日の予定（C児・D児） ○献立発表（E児）	・「立つ」「座る」ことが分かるように身振りを併用して伝える。 ・友達の声に気付けるように状況に合わせてマイクを使用する。 ・友達同士の関わりが生まれるように日直が写真カードを手渡す。 ・貼る場所が分かるように矢印を示す。また、できたことが分かるようにみんなで拍手をする。 ・場所や活動が分かるように写真カードや活動に使用する道具で示す。 ・内容が分かるように内容を写真で示す。	活動のめくり マイク 写真カード カレンダー 予定表 献立表
1	３　次の活動を知る。 ○終わりの挨拶をする。 ○椅子を片付ける。	・T1 は椅子を片付けるように伝え、T2 はB児、C児に椅子を持つよう誘い掛ける。T1 はB児、C児の机の位置から呼び掛ける。	

４　評価

○友達の名前を呼んだり、予定表に注目したりする様子が見られたか。
○自分の係に自分から取り組んだり、友達に注目したりする様子が見られたか。
○「座る」「立つ」などの指示に応じたり、返事をしたりすることができたか。

５　配置図



＜個別の指導計画＞

・朝の会が指導場面となっている目標とその手立て

児童名	目標	手立て
A児	○友達の名前を覚えて言う。	○写真を用意し、毎日繰り返し行う。
C児	○「立ちます。」の号令に合わせて立ち、挨拶をする。	○毎日の朝の会、帰りの会で繰り返し取り組む。 ○本児の正面でイラストや身振りで指示を示し、応じたときには称賛する。
E児	○朝の会で司会として、言葉で次の活動を友達に伝える。	○次の活動が分かるように、朝の会の流れを示したスケジュールカードを用意する。 ○声が友達に聞こえるようにマイクを用意する。

・朝の会に関連する内容

児童名	目標	手立て
D児	○自分の気持ちや思いを言葉で伝える。	○やりたいことを伝えられるように、定型文や写真を提示しておく。 ○不安や緊張を感じているときには、言葉にして返したり、イラストで気持ちを選んだりできるようにする。

＜授業のポイント＞

・教師の指示や問い掛けに気付いたり、友達の活動に注目したりすることができるように、児童の配置は馬蹄形に設定し、教師との距離を近くした。
・友達の名前を呼ぶ、渡すなど友達同士のかかわりが生まれるようにした。
・児童からの表出を受け止め、言葉にして返し、教師からの一方通行ではない授業を目指している。
・指示の内容を理解し、できたことが分かるように床に印を付ける、色分けする、イラストで示すなど視覚的支援を取り入れている。

＜学部研究会協議会＞

○授業者から

・他害のある児童の隣にＴ２が座り、様子を見ながら他の児童も指導している。
・児童の集中時間に合わせて活動を進めている。
・Ａさんが注目しやすいように、児童とＴ１の距離を近くして今の形になった。児童同士が近いと、Ｔ２が言葉かけがしやすい。
・子どもたちの表出を受け止めて、言葉で返していきたい。
・Ｔ１が早口で反省している。
・前に注目することは難しい児童もいるため、Ｔ１、ボードと児童の距離を近くしている。
・席は、横に一列ではなく馬蹄形にしている。床にテープを貼って椅子を用意したり、片付けしたりすることを通して、初めと終わりを分かりやすくしている。
・４月からマイクを使っているが、遊んでしまうのでなくてもいいかもしれないと考えている。Ｃさんは、初めはマイクを見て怖がる様子があったが、今はマイクがあると話すようになった。
・Ｂ君が途中で発言した「意議あり。」は「体育ではなくプールに入りたかった。」という彼の思いの表れだと考える。Ｔ１は言葉のやりとりのきっかけにしていきたい。

○参加者から

・子どもたちが注目しやすいことや、Ｔ２の掌握の点から距離を近くして行っていた。

・カレンダーの場所は、みんなのそばの方が良いのではないか。後ろの黒板は、七夕飾りだけの方が良いのではないか。

・（Q）手元の顔写真、赤に見えたが、色に意図はあるのか。

→（A）ここに顔写真を貼るという意味で、ボードと色の関連はない。

・（Q）座ることのできなかった１年生が立派になった。子どもたちが役割をもっていたが、先生が主導していた。今後の展開をどう考えているか。

→（A）日直は、ＣさんとＢ君が交代で行っている。Ａさん、Ｄ君はＴ１がいなくても日直を行えるようにしたい。

・（Q）集団が落ち着いていて、集中している。ＡさんとＤ君は、カードを貼り役割を果たしていた。距離感も伝わりやすい距離だった。子どもたちの言葉を拾って丁寧に返していきたいが、言おうとしたことを他の児童に言われてしまったときはどうしているか。

→（A）Ｂ君とＣさんは、伝えたいことがたくさんある。Ｃさんが読めないとき、Ｂ君が先に言ってしまうこともある。友達の発言に注目できるようにＴ１は共有できる話題を示したり、話のルールを伝えたりしていきたい。どの子にも参加したことで新しいことを知ったり学んだりする朝の会にしていきたい。

《朝の会・帰りの会での教材設定》
⑤小学部６年１組

＜児童の実態や教材選定の理由＞

朝の会を行うときに、小学部として大切にしていることとして、「（一日の）見通しをもつこと」や「役割をもつこと」などがあげられている。その「役割」の内容は学級や児童の実態によって様々であるが、「日にちや天気の発表」、「司会進行」、「号令」など、友達や教師と「伝え合う」ことが必要な役割が多い。本校小学部には、知的障害に聴覚障害を併せ持つ児童生徒や、自閉的傾向のある児童生徒が多数在籍しており、音声言語と併せ、視覚的な情報を活用したコミュニケーション手段を用いている。ここでは、そのような環境のなかでも、児童同士が伝え合えることを目指し、活用されていた教材を紹介する。

＜対象学級の児童の実態や児童の役割について＞

本学級は、男子４名女子１名の計９名で構成している。コミュニケーション面では、簡単な会話ができる児童が１名、簡単なサインや音声言語を理解し、サインでのやりとりができる児童が３名、簡単な音声言語を理解し、指さしや快不快の感情表現で相手へ気持ちや要求を伝える児童が１名いる。そのうち２名は知的障害と聴覚障害を併せもち、補聴器を装用している。

今回紹介する教材は、「司会進行」の役割のために用いた教材である。教材を使用している対象児童は、簡単な音声言語は理解し行動することができるが、発語はなく、サインや指さしなどで自分の要求を伝えている児童２名である。２名ともイラストのマッチングは行うことができ、数字や平仮名のマッチングを練習している。

＜個別の指導計画との関連＞

<table>
<tr><th>児童名</th><th>目　　標</th><th>手　立　て</th></tr>
<tr><td rowspan="2">A児</td><td colspan="2">〈年間目標〉
・自分の気持ちや要求を適切な言葉で伝える。
・友達や教師とのやりとりを通して、関わりを広げる。</td></tr>
<tr><td>○タブレットを使って、朝の会と帰りの会の司会をする。</td><td>○カードを選ぶと発音をするソフトウェアと進行表を用意し、自分で同じ内容のスイッチに触れるようにする。</td></tr>
<tr><td>B児</td><td colspan="2">〈年間目標〉
・身振りや発声、カードなど、要求や意思の表現を増やす。</td></tr>
</table>

＜教材のポイント＞

○タブレット端末で、「コミュニケーション支援ソフトウェア」を使用している。スイッチを押すと、あらかじめ録音して登録した単語が発せられる。

○「コミュニケーション支援ソフトウェア」のスイッチには、ホワイトボードの「進行表」と同じものを使用し、児童が理解している数字やイラストを用いている。

○音声言語でのやりとりが難しい児童にも、今何をしているかが分かるように、「進行表」の「⇒（矢印）マーク」を動かしたり、音声言語と同時に教師や児童がサインで伝えたりする。

○自分が発した（スイッチを押して流れた）音声が友達へ伝わることで、相手へ「伝わった」という自信につながる。

（２）全校授業研究会　１１月２４日（木）　小学部２年２組

《指導案より》

1　題材名　「一日のはじまり、朝の会」

2　題材について

本題材は、一日の流れを確認し、見通しをもって生活を送るために大切な活動である。学級の友達や担任を意識したり、一日の予定を確認したりすることで、見通しをもち安心して学校生活を送ることができるようにしたい。また、毎日繰り返される活動を通して、それぞれの役割に自信をもち、それが自己肯定感となって一日を元気よくスタートできるようになってほしいと考えている。

（１）児童の様子

本学級は、男子２名女子２名の計４名で構成されている。４名中３名が重複障害をもっている。立つ・座る・集まるなどの簡単な日常的指示は、言葉でも全員ほぼ理解している。行動面については、１名はほぼ自立しているが、３名は、移動や排泄などについての支援が必要である。認知面については、身近な平仮名を読んだり、５までの数を数えたりできる児童が２名、絵と絵のマッチングができつつある児童が２名である。うち１名は補聴器を使用しており、言葉とサインをつなげていくことが課題の一つとなっている。また、もう１名は弱視と左半身麻痺があり、見やすさ、動きやすさに配慮する必要がある。

学級集団として２年目となり、自分から友達に関わろうとする姿も見られるようになってきた。みんなで一緒に歌ったり、名前を呼んだり、友達の活動を見たりすることで、お互いの良いところを意識したりまねしたりしてほしいと考えている。

（２）題材設定の理由

本題材「朝の会」は、日常生活の指導に位置づけられており、一日の中で一番初めに行う集団活動である。毎日同じ時間に行われ、同じ流れを繰り返すことができるため、「聞く」「話す」「次への期待や見通し」「役割」など、集団生活に必要な基礎的スキルを定着するのに有効な場面である。

本学級の「朝の会」は、「はじめのあいさつ」「うた」「なまえ」「かれんだー・てんき」「きょうのよてい」「きゅうしょく」「おたのしみ」「おわりのあいさつ」で構成されている。児童の実態に合わせて、言葉や文字だけでなく、絵やサインも合わせて提示している。後期から週交替で日直の役割も取り入れ、より友達を意識しながら活動することにも取り組み始めた。人前に立って表現することは、あまり得意ではなかった児童たちであったが、教師と一緒に決まった形の司会に取り組むという中で徐々に慣れ、今では自分の当番を期待したり、「今日は〇〇さんの番。」ということに納得したりする姿も見られるようなってきた。

活動の中にそれぞれの個別の指導計画の目標に沿って「平仮名や漢字を読む」「声を出す」「手を伸ばす」「サインで表現する」「数に親しむ」などの課題を設定した。毎日繰り返すことで、それらの力がついてきている。また、同じ活動でも少しずつ課題の段階を上げていくことができ、できたことを友達や教師と共有し、自信をもって取り組めることで、自己肯定感も育むことができると考えている。

一日のはじまりを友達と一緒に楽しく活動し、見通しをもって安心して学校生活を送ってほしい。

3　題材の目標

○一日の流れに見通しをもち、安心して学校生活を送る。
○自分の役割に積極的に取り組む。
○教師や友達と一緒に元気よく一日をスタートする。

4　本時について

（１）本時の目標

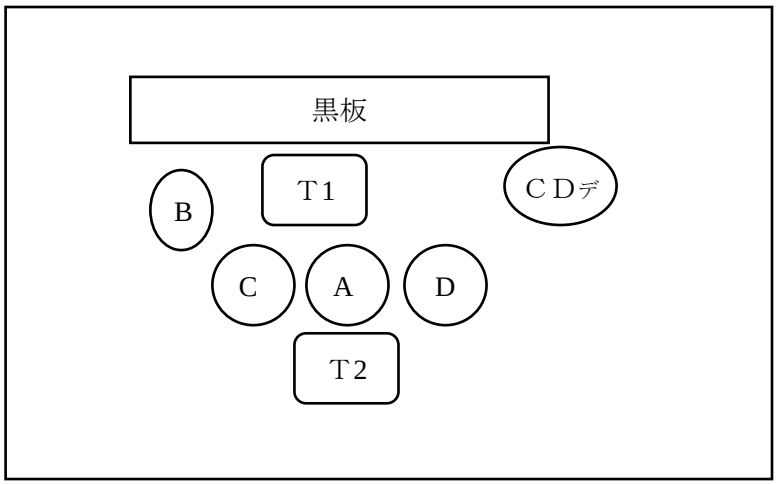
○一日の流れや活動を知る。
○返事をして写真カードを貼ったり、自分の役割に取り組んだりする。
○教師や友達と一緒に、名前を呼んだり歌ったりする。

（２）展開

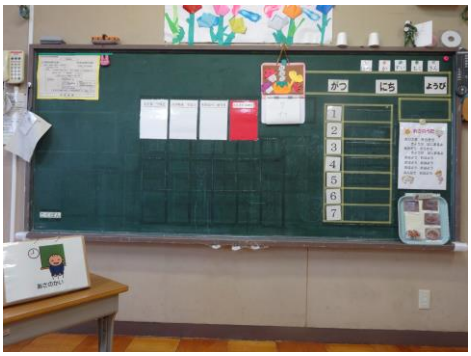
時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材教具
1	○「あいさつ」 ・日直がプログラムをめくる。 ・始まりの挨拶をする。	・注目が集まるように注目棒を使う。(T1) ・日直と一緒に、言葉とサインをつけて、ゆっくりはっきり行う。(T1)	注目棒 めくりプログラム
2	○「うた」 ・朝の歌を歌う。 ・曲に合わせて、「おはよう」 のやりとりをする。	・児童の声が出るように、最初は教師がリードするが、様子を見て声を小さくする。(T1・T2) ・自分の番であることが分かるようにマイクを向ける。(T1)	歌詞カード マイク
7	○「なまえ」 ・全員で友達の名前を呼ぶ。 ・呼ばれた児童は返事をして、呼名用顔写真カードを受け取り、自分の呼名用台紙に貼る。 ・名前と年齢を発表する。 Ａ：年齢と同じ「８」のカードを選ぶ。 Ｂ：質問をよく聞いて答える。 Ｃ：言葉と一緒に年齢の「８」を指で表現する。 Ｄ：口形をまねて発声する。	・呼ぶ児童の写真を全員に見せる。(T1) ・写真に注目したり、声を出したりするよう促す。(T2) ・はっきりと返事しやすいように、改めて教師が呼名する。(T1) ・Ｂには、カードを貼る位置が分かるよう、赤い台紙を用意する。台紙に注目しやすいように、一番に呼ぶ。 ・手を伸ばして貼るために、少し高い位置に台紙を用意する。 ・発表しやすいように教師とのやりとり形式にする。 ・立ち位置が分かるように、足形を用意する。 ・Ａ、Ｄは、年齢を数字でも確認できるよう「７・８」を選択するようにする。 ・日によって、質問の順番を逆にする。 ・前で手本を見せる。(T2)	呼名用顔写真カード 呼名用台紙 マイク 足型 年齢カード

	・人数の確認をする。	・名前のカードを用意する。 ・口を見せながらはっきり発音する。（T1・T2） ・A、Cには、指で数を表すよう支援する。（T2）	名前カード
3	○「かれんだー・てんき」 A：漢字に親しむ。 B：カレンダーを左手で引き破く。 C：数字や平仮名を読む。 D：天気をサインで表す。	・曜日や天気の漢字を提示する。 ・体が安定して左手を伸ばしやすいように、教師が右手を支える。（T1） ・日付や曜日の文字カードを用意する。 ・窓に天気とサインを示すカードを貼っておき、見るように促す。（T2）	日付曜日カード 日めくりカレンダー 天気カード
2	○「よてい」 ・今日の予定を確認する。 A：予定カードを読み上げる。	・読みやすいよう、１枚ずつカードを提示する。 ・サインもつけて知らせる。	予定用ブラックボード 予定カード
2	○「きゅうしょく」 ・今日の献立を聞く。	・メニューを「にく」「さかな」「やさい」などの分かりやすい言葉に置き換えて知らせる。	メニューカード
2	○「おたのしみ」 ・「すうじのうた」「ばすにのって」のうち、やりたいものに手を挙げる。	・やりたい方１つだけに手を挙げることを伝える。（T1）	選択用絵カード ＣＤデッキ
1	○「あいさつ」 ・終わりの挨拶をする。 A・C：机を元の位置に戻す。 D：呼名カードを片付ける。	・日直と一緒に、言葉とサインをつけて、ゆっくりはっきり行う。（T1） ・「机を戻してください。」と言葉をかける。（T2） ・片付けるかごを用意する。	かご

5　場の設定



＜教材の配置＞

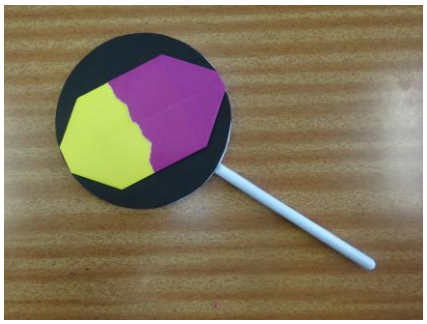


6　主な教材・教具

＜プログラム＞

＜日めくりカレンダー＞

＜注目棒＞



＜年齢選択カード＞

7　評価

○「今日の予定」を見たり聞いたりできたか。

○呼名に対して返事をしたり、個々の役割に取り組むことができたりしたか。

○友達の名前を呼んだり、歌ったりできたか。

《グループ協議より》

①個別の指導計画は、その児童がイメージできるものになっているか。

・イメージできる部分があった。
・児童を多少知っているので、じっくりと個別の指導計画を読んだ。児童がイメージできた。よく書き込まれていると思った。
・目標が分かりやすい。
・保護者の目線から見ても、小学部の時点から考えていくことが大切。
・「苦手なこと」「好きなこと」は、児童と関わる上で参考になる。
・４人の児童の書き方が異なっているが、統一した方が良い。

②個別の指導計画は、その児童の課題が明確で授業に生かすことができたか。

・子どもの課題が朝の会に生かされている。（その子に合った課題が朝の会に入っている。）
・朝の会の中でも、「課題別学習」の目標をふまえて内容を考えている。
・毎日の活動なので、自立活動の課題を生かすことができる。
・声を出すことが課題の児童には、発表の場が生かされている。
・朝の会で高いところに手を伸ばす活動があったが、朝の会で自立活動を盛り込む必要があるのか。日生ではどうか。
・朝の会を選んだ意味は、毎日積み重ねていけるからだが、どう授業に反映していくのか。
・個別の指導計画のどの部分が授業に生かされているのか、もう少し聞きたい。朝の会の評価はどうしているのか。
・個別の指導計画と朝の会を結びつけるのは難しい。

③本日の授業で小学部が朝の会で大切にしていることが生かされていたか。

・生活習慣やコミュニケーションを大事にして取り組んでいる。
・小学部段階では、子どもたちの活動、役割が大事。
・基盤となる活動として、大切だと思った。
・朝の会にじっくり必要な支援をしていくのを大切にしている。
・小学部が朝の会を大切にしていることが分かる。
・低学年、高学年で違った課題が大切になっていく。
・小学部にはお楽しみもある。成長に応じて朝の会も変わってくる。
・育ってほしいことが伝わる。流しがちになることが多いが、朝の会は大切だと思った。
・小学部は、一人一人の手立てがしっかりある。入学してまず座るところから始まり、一つ一つ積み重ねていく。
・身体の動きの視点でしっかり腕を伸ばして顔写真を貼ることがとても良かった。背筋を伸ばそうと言われなくても自然と伸ばすことができる。
・選択が難しい生徒がいるため、朝の会で選択するという場面が大切だと思った。
・自閉症の子が、見通しをもつことは大事。
・見通しなど、大切にしているところは、どの学部も一緒。基礎となる部分は、中学部も同じ。
・司会を行うことを楽しみにしている。
・重度の子でも返事がしっかりできる。
・小学部見ること→中学部伝え合うこと→高等部へとつながる。
・小学部にとって、つけてもらいたい力というのがベースになっている。中学部高等部を見越して、つけてもらいたい力も考えて組み立てられている。
・小学部段階で好きなこと、苦手なことを選択できるようにしておくことが高等部につながる。

④朝の会の活動から、中・高へと進学したときにどのようになってもらいたいか、イメージすることができたか。（キャリア教育の視点から）

・自己肯定感が、将来の成功体験のとき、期待感につながる。
・数字の年齢など「おたのしみ」の選択は、自己決定につながる。
・挨拶など毎日積み重ねることで、声量が大きくなるなど成長している。
・聞く力を重視している。みんなよく聞いていた。
・情報量が多いため、黒板の使い方など小学部からの積み重ねが大切。
・小学部段階で好きなこと、苦手なことを明確にしておくことが大切。
・朝の会は基本なので、小学部のうちから重点的にやってほしい。
・朝の会も、小・中・高の成長の中で変わっていく。
・呼名や写真カードを選択するなど、中学部につながっていくものもある。
・小学部からの積み重ねが大事。教師―子ども→子ども―子どものかかわりとつながっていく。中学部になると子ども主体の朝の会になる。
・子ども自身が自分の役割を理解して動く。→中高での作業での見通しをもつ力や人間関係の形成の基礎となる。
・小学部でやっている一人一役の係活動が、中高に行ったときに「みんなの話」などで発表できることにつながる。
・呼ばれて前に出てカードを貼るなど、小学部のうちからやって高等部で生きてくる。
・小学部からやっていると、積み重ねができているから、高等部になっても「始めるよ。」の一言で集まってくる。積み重ねは重要。
・高等部は、朝の会の時間が短いため、あっさりとしているが、小学部で時間をかけてしっかり積み重ねてきたことが生かされていると思う。
・高等部につながるものもある。朝の会の流れなど、通じるものもある。
・日課表カードが授業後に、外れていることがあるのが小学部には多い。カードの言葉が児童生徒の中でイメージ化できてきて、高等部になると貼りっぱなしでも大丈夫になることにつながる。
・小学部での予定や献立を目で見て理解する経験が、高等部での言葉の理解につながっている。
・積み重ねが生きている。絵カードでも理解できる。話さなくても指さしで友達とかかわりがもてる。
・国数などは課題別だが、朝の会だといろいろな実態差がある。いろいろな子がいるのがいい。一人一人に工夫しているのが良い。

（３）朝の会アンケート

＜小学部　朝の会について＞　　―　小学部　１３クラスでアンケートを実施―

（１）クラスで行っている朝の会のプログラムについてご記入ください。

〇全クラスで行っているプログラム

・始めの挨拶　・名前(呼名)　・日付、曜日（カレンダー）　・天気

・今日の予定　・献立（給食）　・終わりの挨拶

〇その他

・歌（１～４年　全クラス）　・お楽しみ（４クラス）　・下校方法（１）　・先生の話

（２）朝の会で大切にしていることに〇をつけてください。（複数可）

・一日の見通し（１３）　・友達を意識する（１０）　・見ること、注目（９）　・着席（９）

・係活動（８）　・座る姿勢（８）　・挨拶（７）　・待つこと（７）　・活動への期待（６）

・発表する力（６）　・認知的なこと（５）　・適切な時間で行う（３）　・達成感（２）・順番（１）

（その他、大切にしていること）

・一回集まって、一日が始まるという意識付け　・集団での活動に参加する

・自分の椅子の準備と片付けを自分でする　・主体的な行動

・発声、サイン、表出

（３）進行は誰が行っていますか？理由をご記入ください。

児童全員が順番（７）

（理由）

・全員が役割を持ち回りしてお互いを意識してほしい。　・毎日誰かが「主役」

・全員が主になること、注目されることを経験してほしい　・役割があるという意識付け

・２年になり朝の会に見通しがもてたから　・全員に経験させたい

・全員、めくりプログラムをめくりながら進行できる　・全員が同じ機会を持てる

・役割交代をする　・進行の役割を一人一人が果たせるように

決まった児童１名（５年　１、６年　１）

・役割が毎日変わることで混乱する児童がいる。
　まず、自分の席の場所や係の見通しをもってほしい。

・進行を係活動の一つとしている

決まった児童数２人が順番（５年　１、６年　２）

・１学期は全員が順番で行っていたが、
　特に一人で進行できるようになってほしい児童が二人いる。

・係活動として一人一人の役割が決まっていて、進行も係の一つだから。

・発表（サイン、言葉）が目標となっている

教師（１年　１）

・１年なので、朝の会をきっちりと行い、分かってもらいたい

（４）係活動を行っていますか？行っている場合、どんな係活動ですか？

行っている（１３）

（内容）
・今日の日直の発表　・今日の予定　。献立の発表　・日付や天気カードを貼る
・カレンダーめくり　・歌の指揮　・机の準備と片付け　・カードの片付け
・進行カードを貼る　・人数　・友達に名前カードを届ける　・一人一役
・項目ごとに発表する児童を決めている

（５）時間は全部で何分ぐらいですか？

１０分（２）１５分（５）２０分（５）２５分（１）

（６）児童用の机を使っていますか？椅子だけを使っていますか？理由をご記入ください。

机を使用（１年　１）

（理由）
・離席の防止と姿勢保持

児童に応じて机を使用（１年　２）

（理由）
・離席防止のため、児童によって机がある。他の児童は椅子座位の保持の練習
・机があると落ち着いて参加できる　・離席の防止と姿勢保持

椅子だけ使用（２～６年　９）

（理由）
・前に出る機会がある　・呼名や係活動のとき、前に出やすい　・特に必要ない
・前に出て発表する機会が多いので移動しやすい。進行カードを置くので日直は使用する
・机を使用したこともあったが、距離があることで注目できなかったり動線が複雑になったりした
・机を使う活動がない　・児童同士のやりとりがしやすい　・準備が早い

（７）座る席（座る順番）は決まっていますか？理由をご記入ください。

決まっている　（９）

（理由）
・掌握するため
・机を使っているため　・隣同士になるとふざける児童がいる　・実態に応じて
・児童同士の関係
・自分で椅子を運べる児童が増えたり係の順番が分かりやすくなったりする
・自分で椅子を定位置におけるように、床に名前、写真カードを貼っている
・特に理由はなく自然にそうなった、そのときの掌握の都合で変わることはある
・隣の児童が気にならないように　・相性

決まっていない（４）

（理由）
・こだわらない　・そのときでＳＴが付く児童が変わる　・児童の様子によって
・全員で進行するのでその日によって空席を作らないため（特定の児童のみ決まっている）
・いろいろな友達と関わりを増やす

２　個別の指導計画について

（１）個別の指導計画（案）

平成　年度　個別の指導計画（案）

１　現在・将来の生活への願い

本人	
保護者	

より保護者の思いを汲み取り、将来の姿について一緒に考えていけるよう、長期目標を「現在・将来の願い」として、本人と保護者のねがいを面談で話し合い、記入する。

２　年度当初の様子

健康	
生活	
コミュニケーション・社会性	
学習	
全体的に	

全体的にとその他を合わせて「全体的に」とする。
性格や特徴的なことを記入する。

好きなこと（余暇）	
苦手なこと（配慮事項）	

好きなこと（余暇）・苦手なこと（配慮事項）を記入する。

３　年間目標

年間目標
○生活に関すること ○学習に関すること ○身体・運動に関すること ○コミュニケーションに関すること

年間目標を記入する。

４　後期の目標と評価

領域 教科等	後期目標	手立て	後期の様子と課題
日常生活の指導			
ことば・かず			
図画工作			
音楽			
リズム運動			
体育			
課題別学習			
遊びの指導			
生活単元学習			
自立活動			
総合所見			

児童全員に自立活動を記入する。

（２）個別の指導計画（案）－全校研究会の意見を生かして－

平成　　年度　個別の指導計画（案）

１　現在・将来の生活への願い

本人	
保護者	

２　年度当初の様子

健康	○健康面について ・病気、薬について記入 ○身体に関することについて ・補装具、眼鏡、補聴器などについて記入
生活	○衣服の着脱 ○食事 ○排泄 ○その他
社会性	○コミュニケーション ○集団活動
学習	○ことば・かずについて ○図工・音楽について ○体育について ○その他
全体的に	

項目を入れた。

「コミュニケーション・社会性」を「社会性」だけにした。

好きなこと（余暇）	
苦手なこと（配慮事項）	

３　年間目標

年間目標
○生活に関すること ○学習に関すること ○身体・運動に関すること ○社会性に関すること

年度当初の様子とできるだけ項目を合わせた。
「健康」では目標は立てにくいので入れていない。
小学部は年度当初の様子で「学習」と「身体・運動」を分けていないが、年間目標では分けた。

４　後期の目標と評価

（１）案と同様

３　まとめ

（１）　今年度のまとめ

○児童の個性を大切にした授業と個別の指導計画との関連

部内研究会は、各学年一学級ずつ授業を行い全員でビデオを見ながら意見を交換した。授業と個別の指導計画の関連を意識しやすいように、朝の会の活動と関連する個別の指導計画の目標と手立てを略案に記入した。教師のかかわり方や教師間の連携、教材・教具についてなど具体的な意見交換が行われた。

各学級で朝の会に関するアンケートを行い、朝の会で大切にしていることや場の設定などについて確認した。実態に合わせた活動を各学級で行っているが、低学年では教師が行っている司会を高学年では決まった児童が係活動として毎日司会を行うようになるなど、学年が上がり児童が成長することによる朝の会の変化についても知ることができた。

全校研究会では、新しい書式の個別の指導計画を作成して提案し、協議の柱を設けてグループ討議を行った。児童一人一人に合わせた活動が丁寧に行われていた、新書式の「好きなこと、苦手なこと」は児童とかかわるうえで参考になる、個別の指導計画のどの部分が朝の会の授業に生かされているのかもう少し聞きたかったなど、様々な意見が出された。

これらの授業研究会を通して、児童一人一人の実態から担任が話し合い、個別の指導計画から朝の会の目標だけでなく、自立活動や課題別学習の目標とも結び付けて丁寧に係活動や友達との関わりの場面を設定していることが見えてきた。友達の活動を見て、自分もやろうとする姿が見られるようになったなどという児童の変化を見逃さず、丁寧に対応することで新しい活動に結びつけていることも明らかになった。また、毎日行う朝の会は繰り返し活動を行うことができ、児童が成長する姿をより多く学級で確認することの出来る貴重な授業であることがわかった。

○個別の指導計画の書式について

現在の個別の指導計画についてアンケートを採り、学年や学部で話し合いを重ねた結果、①長期目標に替わって保護者・本人の願いを入れたこと、②好きなこと・嫌いなこと、配慮事項を書く欄を設けたこと、③児童全員に自立活動の目標を立てるようにしたことの３点を変更した。

全校研究会での意見や他学部が提案した個別の指導計画の書式を参考にして、再度話し合いを行い、年度当初の様子の欄に項目を入れるなど変更を行って新しい書式を作成した。

（２）　３年間のまとめ

３年間を通して「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る」をテーマに研究を進めてきた。個別の指導計画は一人一人の児童の発達段階や障害の特性、その子らしさといった個性を大切にして作成されたものであるという視点から、授業においては各学級やグループの児童の個別の指導計画の年間目標を確認しながら目標や学習内容を考えてきた。個別の指導計画を基本とすることで、「ことば・かず」においては、担任外の教師が目標や手立てを考えるときに年間目標と関連付けた授業の内容や目標を考えることができた。「朝の会」においては、担任間で朝の会の目標について共通理解を図り、自立活動や課題別学習の目標も生かした活動を考えて実践することができた。

授業は個別の指導計画を読んで実態を把握するところから始まるという意見が出されたように、年度当初に新担任は前年度の個別の指導計画を読み、そこから新しい指導計画（Ｐ:計画）を考えて授業（Ｄ：実践）につなげていく。授業を振り返って見直す（Ｃ:評価）ときも、個別の指導計画にかえって児童の個性を見つめ直すことで、より適切な目標や学習内容を設定（Ａ:改善）することができると考えられる。このＰＤＣＡサイクルの中心に個別の指導計画を据えることによって、一人一人の個性を大切にした授業を展開することができるのではないかと考える。

今年度、授業研究会を通して客観的な意見を聞くことによって、よりよい授業を展開できるという意見が多かった。来年度は講師の指導を受けながら、授業研究を中心とした授業づくりを考える研究を行い、視野を広げ専門性を高めていきたい。

Ⅴ　参考資料・付録

１　全校研究会　グループ協議から

＜個別の指導計画の変更点について＞
〇ねがい・目標
・「現在・将来の願い」一文でも保護者や本人の願いが入っていると良い。（思いをくみ取っている）
・本人の願い、年間・長期は明確に書くようにしたい。
・本人の願いは、本人が言ったのか、思ったことなのか。現実の願いなのか、こうなってほしい願いなのか。保護者も戸惑う。
・個別の指導計画は、親と子の願いがまずある。高等部は、人によって書き方が異なる。小学部は、内規集を基準にしている。
・小学部は、本人の願いは難しい。高等部は、作業や体育を頑張りたいと特別支援学級から入学してきた生徒が言える。
・面談で願いを聞くのは、テクニックが必要である。
・４年になったときの姿を保護者が想像するのは難しい。
・現在、小学部は１年と４年で、中学部高等部は１年で長期目標を立てている。
・低学年から高学年は、区切っているようで児童本人は区切れていないことが多い。学部が変わるのは、劇的な変化なので、どんな姿で中学部に進んでほしいか考えると考えやすい。
・中学部は長期目標のみで、年間目標がない。高等部は、現在年間目標に５つの項目が入っている。
・３年間の長期目標は中途半端。願いに向けて、一年の方向を決め、前期・後期立てた方が良い。
・長期目標が一生の目標になってしまう。
・高は、出口なので卒業をイメージして書く。社会に出るまでに、できていてほしい姿を書く。年間目標がたてやすい。
・小学部は縦に伸び力をつけていく。中学部高等部は、横に広がっていく。目標をクリアしたら変えれば良い。
・長期目標の期間
　小：一年間にした。
　中：年間目標（前＋後）をなくして長期目標にした。
　　保護者の願いは、項目２つで現在のことと将来のことについて。
　高：長期目標は三年間にした。
　　保護者の願いを書いてもらって目標を立てる。現在・将来についてとはしていない。
　　本人の願いは、自分で言える生徒は記入するが、言えない生徒は書かない。

〇自立活動
　小：１年生は必ず書く。他の学年は、重複児童は必ず書く。
　中：重複生徒には必ず書く。全員に必要ではないか？
　高：今年から全員に記入している。
　　体のことが多い。範囲は広いので、体、コミュニケーションのどちらかは必ず書いた方が良い。

＜中学部・高等部の朝の会について＞
〇朝の会の様子や大切にしていること
・朝の会を毎日行うことで日課に見通しがもてるようになってきている。
・一日の見通しを分かりやすく、安心して過ごせるようにしている。

・一日の流れを知ってもらい、一人一人のねらいに応じた活動を用意して積み重ねの時間にしている。
・短い時間であるため、いつもと違うところ、変更をしっかり伝える。変化に慣れる。
・生活年齢も大切である。クラスや生徒の実態によって様々な配慮がある。
・自分から何かに取り組むことが必要である。
・クラスの生徒の名前を覚える。
・友達の名前を呼んだり、一緒に朝の会に取り組んだりすることで友達を意識する様子が見られてきた。
・呼名で卒業式に向けて、手を挙げずに返事をするようにしている。（毎日、積み重ねる活動であるため）
・朝の会の流れに沿って皆の前で発表したり、献立で字を読む練習をしたり、言葉について説明したり意味を教えたりしている。
・スピーチタイムを大切にしている。朝の会は何を頑張るか、帰りの会は振り返りをしている。日記や話すことをまとめる練習をしている。
・話を聞くことを大切にしている。（態度、話している人の方を見るなど）
・友達、姿勢、係を全員が行う（責任をもつ）、話す力、聞く力、発表よりも聞くこと。
・サインで視覚を補っている。成長と共に発音がはっきりとして徐々に言葉でのやりとりに変わっている。（写真カードも）
・数字を読むなど、毎日行うというところで目標にしている。
・なるべく、生徒だけで会を進められるようにする。
・朝の会には２つある。個別の課題と集団指導。朝の会でなくてもいいと考えると朝の会でなくても他の場面を決定できる。それではなぜ朝の会を大切にするのかを考えると何か見えてくる。→一日が始まる意識について。友達と一緒に、友達の活動を見る、役割を行うというのを大事にしている。
・サインなどを小中高の教員で共通していきたい。
・小中高→大切なことは変わらないが、重点をおいていることはどこか。
・聞いて確認することを取り入れる。時間は１０分ぐらい。（中）
・高を見据え、手を挙げずに呼名に返事をする。返事が出ない子には、マイクを使う。
・人の話を聞く、離席しない、係活動、マッチング、話を聞く、などは中でもやっている。
・中学部でも姿勢を意識している。
・中高だとクラスメイトと顔を合わせることが少ない。
・朝の会や帰りの会で頑張ること、頑張ったことを言うようにしている。（中高）
・朝の会でいろいろなことを課題にできる。中高で、課題を広げていける。
・高等部だと友達同士のかかわり合いがとても大きい。
・外部から来た生徒は、役割などをしっかり意識してできている。（高）
・レベルの高い子は、つくしで頼られたりして役割を振られてそれが自信につながる。
・中学部からあがってきた生徒は、見通しをもつことがしっかりできる。
・高等部は、朝の会がなくても自分から動く。生徒によっては見通しをもてる。
・高は、授業をやってから朝の会のこともある。朝の会をやらなくても、ほぼ見通しをもっている。
・高になると朝の会が必要な子（朝の会に重きをおいている学級）と必要でない子がいるのではないか。
・高は、朝の会も早く終わる。
・朝の会は、さらっと終わりにしがちである。
・行事が多く、丁寧なことができない。（高）
・小学部から来た子にはもっと丁寧にやらないといけないと思った。５分で終わっている。
・高等部は、実態差が大きいのが課題。日直の司会を回している。１分間スピーチも取り組んでいるが、つくしからの児童は教師の支援が必要である。
・名前、発表を聞く、月ごとの歌、生徒達で始めている。時間は５～１０分ぐらい。（高）

・高等部は、発表する、話を聞くという意識をもって朝の会をしている。
・１学期は、着替えないなど朝の会も落ち着いてできないこともあった。作業のカードを破ったりした。
・まだ、着席が難しい子もいる。外部、つくし、柏など、いろいろなところから集まって、初めての高等部のため、まだ落ち着いていない。
・小からつくしにいる１名には、サインやマカトンで予定を伝えると落ち着いている。
・写真、絵カードをできるだけ使わない。卒業後のことを考え、どうしても必要な支援を明確にする。
・写真カードを使っている。

２　文例

平成　　年度　個別の指導計画（案）

《文例１》

１　現在・将来の生活への願い

本人	○一人でトイレを成功できるようになりたい。
保護者	○料理が好きなので、パン屋さんなどになってほしい。 ○近くのコンビニなどに、一人で買い物に行けるようになってほしい。

２　年度当初の様子

健康	○眼鏡を使用しています。 ○体重管理が必要です。
生活	○着替えはほぼ自立していますが、気になる物があったり、気持ちが向かわなかったりするときは、なかなか取り掛からないことがあります。歌やハイタッチなどで気持ちを盛り上げたり、好きな遊びの話をしたりすると、気持ちを切り替えることができることが多いです。「できない。」「手伝って。」などと言って自分から支援を求めることができます。 ○排尿は、自分からトイレに向かうことができます。遊びに夢中になっていると、教師に誘われても「行かない。」「出ない。」と言うことがありますが、「○○の前は行こうね。」などと言葉かけをすると、行くことが増えています。排便はパンツの中にしていることが多いです。排尿の際にパンツの汚れに気が付き、トイレから大きな声で教師を呼んで知らせることができます。 ○給食は、スプーン、フォークをペングリップ持ちで使っています。両手にそれぞれ食具を持って食べようとすることがあります。野菜やオレンジなどよく噛むものは苦手ですが、教師に励まされると食べることができます。体重管理のために、白米は半分程度食べて残しています。 ○係活動は、「行ってきます。」と挨拶をしてから一人で保健室に向かって保健室に健康カードを届けることができます。遊びの途中でも、気持ちを切り替えて行くことができます。
コミュニケーション・社会性	○教師や友達に自分から挨拶をすることができます。「ごめんなさい。」や「ありがとう。」なども、適した場面で言うことができます。 ○教師や友達の名前を覚えて、相手のいる方に向かって呼ぶことができます。 ○気持ちや要求を言葉で伝えることが上手になってきました。言葉が出てこないときは、教師が「なんて言うの？」と問いかけると、「貸して。」や「開けて。」などと言うことができます。 ○やりたくない気持ちが強いときは、「やだ！」「やらない！」「あとで！」「むり！」などと言って座り込んだり、寝転んだりすることがあります。教師から何度も促されると意地になることがあるので、見守る方が良い場合もあります。 ○友達の世話をするのが好きで、みんなの水筒や歯ブラシを準備したり、用具の片付けを手伝おうとしたりします。

学習	○曜日、天気、予定などの見慣れた平仮名を読むことができます。見慣れていない言葉でも、一文字ずつ丁寧に見るように促すと、正しく読むことができるようになってきました。 ○1 から 10 までの数を正しく読むことができます。４までの数は、概念も理解しています。具体物を数えることもできますが、５以上になると、とばして数えたり適当な数を言ったりすることがあります。 ○体を動かすことは好きですが、リズム運動などの決められた活動は気持ちが向かわないことが多いです。 ○制作活動が好きで、やり方が分かると一人で取り掛かることができます。絵具やのりなど、身近な材料の使い方を理解して楽しんで活動することができます。
全体的に	○友達が好きで、積極的に関わろうとしています。 ○教師の動きを模倣したり、歌を覚えて歌ったりすることができ、先生役になることを好みます。

好きなこと（余暇）	○友達や先生と挨拶したり、簡単なごっこ遊びなどでかかわったりすること。 ○体を動かして遊ぶこと。
苦手なこと（配慮事項）	○体育などの決まりのある運動。 ○ヘビ、クモなどの虫や鬼やお化けなどの仮装や雰囲気はとても怖がります。 ○初めての活動は、手本を見るとやることが分かり、取り組むことができます。

３　年間目標

年間目標
○生活に関すること ・学校生活のおおよその流れが分かり、見通しをもって活動する。 ・自分でできることを増やし、少ない支援で身辺処理をする。 ○学習に関すること ・文字や数に関心をもち、読んだり書いたりする。 ・５以上の数を理解する。 ・好きな歌を歌ったり、サインを付けたりする。 ・表現したいもののイメージをもって制作したり、材料や用具を自分で選んだりする。 ○身体・運動に関すること ・簡単な合図や指示に従って、継続的に体を動かす。 ・簡単な決まりを守り、友達や教師と一緒に安全に活動する。 ○コミュニケーションに関すること ・語彙を増やし、気持ちや要求を言葉で伝えたり、簡単な質問に答えたりする。 ・友達を意識して、手をつないで歩いたり、名前を呼んだりする。

４　後期の目標と評価

領域教科等	後期目標	手立て	後期の様子と課題
日常生活の指導	（給食） ○自分の給食を持ってくる。	○最初は一品ずつ持ってくる。 ○お盆の上に滑り止めを敷く。	
	（朝の会） ○みんなに聞こえる声で司会をする。	○初めは教師と一緒にせりふを言う。 ○徐々にせりふの初めのみを教師が言うようにし、本人の 言葉を促す。	
	（整理・整頓） ○自分で連絡帳をかばんにしまう。	○初めは教師が一緒にかばんを支えながら行う。 ○連絡帳が入りやすいように、荷物をしまう順番を写真カードにして見せる。 ○出した荷物をしまうかごを用意する。	
ことば・かず	○スリーヒントクイズを行い、形・色・用途などのうち３つを手掛かりにして答える。	○言葉だけでなく、絵カードでヒントを示す。 ○友達の答えが気にならないように、一人一人にホワイトボードを用意する。	
図画工作	○出来上がった作品を言葉で説明する。	○みんなの前で作品を発表する場面を設定する。 ○「これはなあに？」など質問をしてイメージを広げながら作品を作るようにする。 ○説明しやすいように、教師が質問しながら行う。	
音楽	○曲の一部分を演奏する。	○演奏しやすい簡単な曲を用意する。 ○使う音が分かるように、音階ごとに色を分けて楽器に印を付けておく。	
	○曲の一部を歌う。	○教師が歌い、続きを歌うように促す。 ○マイクを用意する。	

領域教科等	後期目標	手立て	後期の様子と課題
体育	○片足立ちを10秒間行う。	○初めは教師と一緒に手をつないで取り組み、徐々に近くで見守る。 ○壁際などつかまることができる場所で行うように促す。	
	○相手を意識してキャッチボールをする。	○「行くよ。」「いいよ。」など言葉のやり取りをしながら投げるようにする。 ○軟らかくて持ちやすいボールを使う。	
課題別学習	○見本を見ながら、自分の氏名を書く。	○初めは一文字ずつ取り組み、徐々に文字数を増やす。 ○大きくはっきりと書かれた見本を用意する。 ○分からなくなったときは、なぞり書きや教師と一緒に書くなどする。	
	○５以下の数で足し算の考え方を知る。	○具体物を操作しながら一緒に考える。 ○絵を描いてお話を作り、場面をイメージしながら考えられるようにする。	
遊びの指導	○約束や順番を守って友達と仲良く活動する。	○簡単なルールのある遊びを設定する。 ○「友達に渡してね。」などの言葉かけをして、関わりを促す。	
生活単元学習	（つくし祭） ○自分の出番が分かり、舞台に立つ。	○初めは教師と一緒にステージに向かうようにし、徐々に送り出して見守るなど支援を減らす。 ○自分で考えて出ることができたときはたくさん褒める。	
	○材料を工夫して、ライオンのお面を作る。	○イメージをもちやすいように、見本やライオンの写真を見せる。 ○作りたいものに近付けるように、様々な素材を幅広く用意する。	
自立活動	○友達の名前を覚えて、相手に向かって呼びかける。	○「どこにいるかな？お顔を見てね。」などの言葉かけをし、相手に注目できるようにする。 ○名前が出てこないときは、教師が初めの文字を伝える。	
総合所見			

《文例２》

１　現在・将来の生活への願い

本人	○一人で学校に行けるようになりたい。
保護者	○身体の動き、認知面双方において、自分でできることが増えてほしい。 ○生活のルール、社会のルール（時計、信号、交通機関の利用など）を覚えてほしい。 ○人への過度なスキンシップはやめさせたい。

２　年度当初の様子

健康	○眼鏡を使用しています。眼鏡使用時の視力（右：０．３、左：０．２）。 ○左片麻痺があります。歩行が不安定ですが、校内では独歩で移動することが増えています。保護帽を着用しています。物を操作するときに、意図的に左手を使う場面を設定してきたことで、自分から使おうとすることが増えています
生活	○登校後の荷物整理では、リュックサックのファスナーを左手でリングをつかむよう支援すると、自分で開閉ができます。連絡帳、水筒、給食袋を一つずつ手に持って所定のかごに運ぶことが増えてきました。 ○着替えは、教師の支援に協力することができます。上衣の着脱は椅子に座って行っています。下衣は立位でテーブルにつかまり、片足ずつ足を上げてズボンに入れ、前部分を自分で引き上げようとします。着脱の際、興味ある物に手を伸ばしてバランスを崩すことがあるため、安全面の配慮が必要です。靴をこすり脱ぎすることができ、靴下は、手で引っ張って脱ぐことができます。脱いだ服は教師と一緒に畳んだり、着替え袋の中に入れたりしています。 ○食事は、大きな自助皿とグリップ付きのスプーン・フォークを使用しています。スプーンに一口量を乗せてお皿に置いておくと、自分でスプーンを握り口に運ぶことができます。上方に向かってスプーンを抜いてしまうので、腕の動きを支援しています。水分摂取は、コップを持って連続飲みすることが増えてきました。上を向いて飲み込んで、ゴックンと音が鳴るのを楽しむことがあり、むせることがあります。大きな声や物音に驚き、食事を中断することがありますが、気持ちの切替えが早くなってきました。 ○排泄は、登校後、給食前、給食後、下校前に、トイレで出せることが増えてきました。「おしっこ出る。」と自分から尿意を伝えることもあります。人の声や物音で排尿に集中できなくなることがあります。定期的ではありませんが、トイレで排便することもあります。午前中の水分摂取後に排尿量が増えるので、念のため、給食中から紙パンツを使用しています。 ○歯磨きは、自分で歯ブラシを持ち、動かすことができるようになってきました。仕上げ磨きを静かに受け入れることができます。コップの水を口に入れ、「ぺー。」と言いながら吐き出すことができます。

コミュニケーション・社会性	○朝の会の呼名では、手を挙げて「はい。」と返事ができ、毎日の繰り返しの中で名前と年齢を発表することができるようになってきました。 ○「おはよう。」「行ってきます。」「ただいま。」「いただきます。」「ごちそうさま。」「さようなら。」など、挨拶する場面では、大きな声で言うことが増えてきました。立位では、膝を少し曲げて挨拶をします。 ○クラスの友達や教師の名前を覚えており、呼ぶことを楽しんでいます。 ○「これ、なに～。」と教師に問いかけ、言葉のやりとりを楽しむことができます。「痛いよ。」「いらない。」「甘い。」「酸っぱい。」「おいしいね。」「（おなか）いっぱい。」「かゆいよ。」など、自分の感じていることを言葉で伝えることがあります。また、「本読む。」「ボールやる。」「先生、一緒に遊ぼ。」など、自分の要求を伝える言葉が増えています。 ○座り込む、寝転ぶ、口を結んで水分や給食を摂らないなど、注意引きの行動が見られることがあります。 ○学校で母と離れるときに、泣くことは減ってきました。泣いた後も母の姿が見えなくなるとすぐに立ち直り、活動に取り組むことができるようになってきました。
学習	○絵本や歌が好きです。絵本の読み聞かせに集中して見聞きしたり、手遊びやパネルシアター、音楽の時間の新しい歌をすぐに一緒に口ずさんだりできます。 ○どの学習にも意欲的に取り組みます。絵カードを見せて語頭音をヒントに出すと、身近なものは答えることができます。「○○を取って。」という質問には、最初の２，３問は集中して見ることができ、答えることができます。 ○丸型の型はめでは、枠を机上のどこに置いてもはめることができます。「これ何？」の質問に、「ティッシュ」「ズボン」「コップ」「タオル」など、日常生活に身近な物の名前を答えることができます。 ○図画工作では、いろいろな材料や道具に興味をもつことができます。左手の力が強くなり、材料をつかんだり、紙を破いたりすることが上手になっています。毛筆での横断幕の文字や和紙染めでは、手元に注目し続けることができるようになってきました。 ○体育では、独歩や立位姿勢が安定し、ラジオ体操などの動きにも一人で取り組もうという姿勢が見られます。リズム運動では、曲の変化に気付いて、自分から小走りする姿が増えています。 ○椅子の座面に右手を着き、腰をひねって座ることができるようになりました。時々尻餅をつくことがありますが再び自分で立ち上がり、座り直すことができます。 ○音楽では、曲に合わせて楽器をリズム打ちすることができます。
全体的に	○大勢の人の前でも、練習することで発表することができます。 ○とても人なつっこく、誰とでも笑顔で関わることができます。 ○うまくいかないことにも何度もチャレンジしようとする粘り強さがあります。 ○急に静かになり、手を口に入れたり、爪を噛んだりすることに熱中することがあります。また、眼鏡をずらしたり、鼻当てを鼻に入れたり、のけぞったりして人の反応を楽しむことがあります。
好きなこと（余暇）	○絵本の読み聞かせ、歌 ○おしゃべりなどで人と関わること
苦手なこと（配慮事項）	○急な物音。 ○「ごめんなさい」と言うこと。

３　年間目標

年間目標
○生活に関すること ・具体物を手掛かりに、自分から活動する。 ・日常生活動作の手順を覚え、できることを増やす。 ○学習に関すること ・具体物、写真カード、絵カードの意味の理解を増やす。 ・マッチング、弁別、仲間分けなどの具体的操作を通して、基礎的な理解を広げる。 ・楽しく歌ったり、リズムを意識して楽器を操作したりする。 ・身近な材料や道具を使って作品を作る。 ○身体・運動に関すること ・いろいろな体の動きを経験し、移動に必要な力を高める。 ・左手を使う意識を高める。 ○コミュニケーションに関すること ・様々な場面で、気持ちや要求をカードや言葉で伝える。 ・友達や教師と一緒に簡単なルールのある遊びに参加する。

４　後期の目標と評価

領域教科等	後期目標	手立て	後期の様子と課題
日常生活の指導	（着脱） ○両手を使って、衣服を袋に入れる。	○左手で袋を持ち、右手で服を入れるようにする。 ○左手で握りやすい袋を用意する。	
	（朝の会） ○呼名で、確実に自分の場所に写真カードを貼る。	○場所の目印として赤い台紙を貼っておく。 ○自分の台紙を探す行動が出るように、様子を見ながら台紙の位置を変えていく。	
	（給食） ○スプーンとフォークを自分で用意する。	○チャック付きのケースを用意し、開けやすいようにキーホルダーを付ける。	
	（係活動） ○高い位置にある日めくりカレンダーを左手で破く。	○毎日取り組む。 ○破く紙には赤い枠線を書き目立つようにする。	
ことば・かず	○活動の流れを覚え、できるだけ一人で取り組む。	○分かりやすい活動内容にし毎回繰り返す。 ○活動ごとに場所や道具を変え、動線を整理する。	
	○おかずをお弁当箱の決められた場所に入れる。	○場所が分かるように絵や色のヒントを付ける。 ○入れやすい大きさに配慮する。	
図画工作	○好きな材料を選んだり、感触を味わったりして楽しく制作する。	○紙粘土、枯葉、麻ひもなどいろいろな素材を用意する。	
音楽	○楽器に応じた使い方をする。	○ばちを使う、指で押す、振るなどいろいろな使い方の楽器を用意する。	

領域教科等	後期目標	手立て	後期の様子と課題
リズム運動	○四這いで体育館を一往復する。	○「右、左」と言葉をかけながら教師と一緒に取り組む。 ○テンポよく左手を押し出しまっすぐ進めるようにする。	
体育	○的に向かってボールを投げたり、蹴ったりする。	○握りやすいボールを用意する。 ○見やすい的を設置する。	
	○体全体を動かし、緊張を緩める。	○フープくぐりをする。 ○二人組でひもを持ち、前後左右に大きく振る。	
課題別学習	○絵本に親しみながら、言葉を増やす。	○読み聞かせをしながら、登場人物や場面の様子についてやりとりをする。	
	○色や形に親しむ。	○塗り絵や型はめ、簡単な仲間分けなどに取り組む。	
	○手と目の協応動作を高める。	○教材の位置や角度などを変え、目や手を使う範囲を広げる。	
遊びの指導	○簡単なルールのある遊びの中で、友達とのかかわりを増やす。	○順番のある遊びや友達にタッチする遊びを設定する。	
生活単元学習	（つくし祭） ○自分の出番や役割を理解し、友達と一緒に活動する。	○練習の流れを一定にする。 ○場面に応じた音楽を用意する。	
自立活動	○上体を起こして、階段を下りる。	○手すりを右手でしっかり持つよう促す。 ○教師は前方から支援し、様子を見ながら自分でバランスをとる時間も作る。	
総合所見			

第三章　中学部

Ⅰ　中学部の生活　・・・・・・・・・・・　５３

Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・　５５

Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・　５５

Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・　５６

Ⅴ　参考資料・付録　・・・・・・・・・・・　６４

Ⅰ　中学部の生活

（１）　学部目標

〈確かな学力〉　基礎的な知識・技能を身につけ、自分から考え、豊かに表現する力を育てる。
〈豊かな心〉　幅広い人間関係を育てるとともに、豊かな心をもちたくましく生きる力を育てる。
〈健やかな体〉　体力の維持向上を図るとともに、健康な体を育てる。
〈キャリア教育〉自立や社会参加を目指し、自分のことは自分で行う力を育てる。

（２）　日課表　（　　）内は重複学級の日課

<table>
<tr><th>曜日
時間</th><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th colspan="2">時単位
分</th></tr>
<tr><td rowspan="2">9:00</td><td></td><td colspan="5">登　　校</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="5">日常生活の指導（朝の取り組み− 着替え・課題別学習等− ）</td><td colspan="2" rowspan="3">５０</td></tr>
<tr><td>9:35
9:45
9:50</td><td></td><td colspan="5">日　常　生　活　の　指　導　（　朝　の　会　）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10:15
10:25
10:35
10:40
10:50</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">保健体育
（自立活動）</td><td rowspan="2">保健体育
（自立活動）</td><td rowspan="2">保健体育
（自立活動）</td><td rowspan="3">国語・数学</td><td rowspan="3">国語・数学</td><td>25</td><td rowspan="3">50</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="4">3</td><td>移動・準備</td><td>移動・準備</td><td>移動・準備</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作業学習</td><td rowspan="3">作業学習</td><td rowspan="3">作業学習</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3">65</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学級活動</td><td rowspan="2">保健体育
（自立活動）</td><td rowspan="2">50</td></tr>
<tr><td>11:40
11:50</td><td rowspan="2">4</td><td colspan="5"></td><td colspan="2" rowspan="2">６５</td></tr>
<tr><td>12:45</td><td colspan="5">日常生活の指導（給食− 準備や片付け・清掃・歯磨き等）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">13:00</td><td></td><td colspan="5">昼　　休　　み</td><td colspan="2">１５</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="2">音　　楽</td><td>１年
自立活動</td><td rowspan="2">つくし
タイム
（総合的な
学習の時間）</td><td>１年
美　　術</td><td rowspan="2">学級活動</td><td colspan="2" rowspan="2">５０</td></tr>
<tr><td>13:50</td><td>２・３年
美　　術</td><td>２・３年
自立活動</td></tr>
<tr><td>14:25</td><td>6</td><td colspan="5">日常生活の指導（着替え・帰りの会）</td><td colspan="2">３５</td></tr>
<tr><td>14:30</td><td></td><td colspan="5">下　　校</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

（３）　中学部の紹介

中学部は、体の成長とともに自我の形成が進み、心と体の調和のとれた発達が非常に大切になる時期である。また、社会性や集団性も高まり、活動の幅が広がっていく時期でもある。こういった時期に当たり、中学部では、様々な学習活動を通して生活経験を豊かにすることを大切にしたいと考えている。そして、将来の自立に向かってたくましく生きる生徒に育ってほしいと願っている。
学習グループでは、「作業」、「国語・数学」、「つくしタイム」において、縦割りのグループを編成している。

主な活動
【作業学習】
３年間を通して、身体を大きく使う粗大動作活動、手指を細かく使う微細動作活動、道具や工具等を使う道具操作活動を経験できるよう、四つの班（手工芸班、紙工班、木工班、農耕班）を編成して行っている。
個々の生徒が役割をもつことで、みんなで力を合わせて仕事をし、お互いの活動を認め合ったり、見通しをもって仕事に取り組み、最後までやり遂げる力を身につけたりできるよう取り組んでいる。

【国語・数学】
生徒の「国語・数学」に関する発達段階を考慮して、学部全体を縦割りにし、同じ課題をもつ生徒集団８グループに編成して行っている。

【保健体育】
基本は学部全員で行っているが、活動内容によっては、発達段階や体の動き等を考慮したグループを編成している。
○朝の運動（ＢＧＭに合わせた準備運動、15 分間走又は 15 分間歩行。）
○体育（水泳、駅伝大会に向けた取り組み、動きづくり、器械運動など。）
○保健（手洗い、身だしなみ、二次性徴など。学級単位で行う。）

【音楽】
基本は学年で行っている。表現活動（合奏、歌唱、手話歌、ダンス）、音楽鑑賞（ＣＤ、ＤＶＤ、生演奏）などに取り組んでいる。

【美術】
描画、造形、革細工、ステンシルなどの創作活動に学級ごとに取り組んでいる。内容については、年間計画に沿って学年で話し合い、同じものに取り組んでいる。

【自立活動】
一人一人の実態や目標に応じて、認知的学習、コミュニケーションの学習、体の動きの学習、手指・道具操作の学習、などに取り組んでいる。

【学級活動】
学級または学年で、生活経験を広げ、社会性を身につけたり、友達を意識し、みんなで考え協力する大切さを知ったりする学習として、清掃活動や行事に向けた学習、進路学習、レクリエーションなど、様々な活動に取り組んでいる。

【つくしタイム（総合的な学習の時間）】
学部全員が五つのクラブ（音楽カラオケ、ゲーム、スポーツ、ダンス、パソコン）に分かれて行っている。
多くの友達と一緒に、好きなことを楽しみながら興味関心を広げ、自発的に学習する機会となるよう、生徒の希望を取り、所属するクラブを決めている。

Ⅱ　学部研究の目的

１　授業について

○授業を作り上げていく過程の中で出た気付きや考え、授業に生かせる知識等を共有する。
○様々な教科で授業研究を行い、各教科における「大切にすべき点」や「課題点」を明らかにすることで、今後の学部の取組に生かす。

２　個別の指導計画について

○個別の指導計画の見直し・改善を行う。
○見直しを行った案を基に授業を組み立て、個別の指導計画の活用方法について検討する。

Ⅲ　学部研究の方法

１　授業について

○様々な授業における「大切にすべき点」や「課題点」について検討するため、各学年で異なる授業の研究に取り組む。（１学年…音楽、２学年…課題別学習、３学年…進路学習）
○各学年で指導案を作成する過程で出てきた気付き（考え方、資料等）を記録する。
○学年ごとに部内授業研究会を実施し、各教科をテーマにした協議を行う。
○部内研での協議の結果を生かし、全校授業研究会（１学年音楽）を実施する。

２　個別の指導計画について

○個別の教育支援計画・個別の指導計画（仮案）の検討を行う。
・アンケートの実施（個別の教育支援計画・個別の指導計画に関して）（５月 18 日）
・アンケートを受けて、研究部会で様式を検討→今回は個別の指導計画の検討に絞る。
・個別の指導計画（仮案）を学部に提示、検討（６月 29 日）
・学部での検討結果を受け、研究部会で様式を再度検討
・個別の指導計画（案）を学部に提示（７月 13 日）
○個別の指導計画（案）について、気付いた点等を部内研・全校研の場で共有し、修正を加える。

Ⅳ　結果と考察

１　授業について

（１）学部研究会

①　３学年　進路学習　11 月 10 日（木）

Ａ　研究概要

○従来、中学部における進路学習は、３年次に実施する「高等部の作業班見学・体験」及び「進路先見学」での取組の他、日々の生活（挨拶、返事、言葉遣い等）における指導を中心に行ってきた。今回、改めて進路学習に焦点を当てて授業を行うにあたり、まずは学年で「身につけてほしい力」の検討を行った。生徒の実態に則したグループ分けを行うために、「気持ちの安定性（人と落ち着いて関わる、やり取りができる力）」「挨拶、返事」、「場に応じた言葉遣いなどのコミュニケーション力」、「活動に対する理解度、持続力」など、「進路先において、より重視される必要な力」をグループ分けの基準とし、三つのグループに分かれて活動することにした。

Ｂ　指導略案

（資料１）参照

Ｃ　研究協議

○「中学部における進路学習の取組について」という協議の柱を設定して話し合いを行った。グループによる話し合いの結果、以下の三つの項目について様々な視点からの意見が挙がった。
①高等部見学・施設見学等について
　○高等部見学は、作業班だけではなく他の授業も参観できると良い。
　○施設見学は、生徒の実態に応じて、行き先を選択できると良い。
　○高等部の校内実習の見学は、年間計画に基づいて継続的にできると良い。
②日常生活で行える内容の工夫、改善
　○身だしなみを整える。
　・誰かに言われて直すのではなく、「自分からできる」ことが大切である。

○時間を守る。
・「○時から始めます」というときに、時間を見て、余裕をもって移動する習慣を身につける。
・遅れたときは「遅れてすみません」と自分から言うことができるようにする。
○コミュニケーション力の向上
〈挨拶や返事〉
・目を見て行う。（立ち居振る舞いに気持ちが現れる）
・自分から行う。（特定の人（担任）以外にも、同じように行う）
・「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える。（人と良い関係が築ける。）
〈言葉遣い〉
・敬語を使う。
・単語の羅列で話すのではなく、助詞や主語、述語を正しく使って話す。
〈人との距離感〉
・性を意識できるようにする。（異性に近づき過ぎない。）
※日常生活での工夫・改善については、教員自身も意識し、手本を示していくことが大切である。
※「働く生活」を見据える視点が大切である。…基準は「学校」ではなく、「社会」である。
・「中学生」ということを意識できるようにする。（適切な関わり方、呼び方）
・気持ちの伝え方を知る。（「叫ぶ、たたく、泣く」ではなく、「嫌」を伝えられるようにする。）
③その他
○自力通学が将来の進路選択の幅を広げることにつながるので、可能な生徒については早くから取り組むことが大切である。
○将来の進路への見通しがもてるようにすること。
・中学部卒業後、「高等部進学」や「社会人になって働く」ということを学ぶ。
・１年生から「進路学習」を取り入れていくと良い。
○保護者の意識を上げていくことが大切である。（進路勉強会など）
○余暇の楽しみを見付ける。

○今回の話し合いを通して、「進路学習への取組方や、取り組む際に大切にすべき視点」について学部全体で確認できた。生徒たちの意識の高まりは、生徒の日々の生活の向上につながり、やがては将来のより良い生活に結びつくと考える。今後は、学部全体で進路学習に対して共通の意識をもち、１年生の早い段階から進路学習を系統的に積み重ねていくことが重要である。

②　２学年　課題別学習　11 月 22 日（火）

Ａ　研究概要

○２学年の課題別学習の授業を行うにあたり、①「クラスごとの取組」、②「学年全体での話し合い」の二つの方法で協議を重ねてきた。①では、事例生徒を挙げて、本人や担任が困難に思っていること、コミュニケーション、指示理解、好きなこと得意なこと、嫌いなこと苦手なこと、対人関係、学習面、家庭の様子などを記入する支援シートを作成した。これは、生徒の様子の振り返りや様々な視点で生徒を捉えるきっかけとなった。併せて、個別の指導計画の見直しを行うことにより、日々の日常生活の中での生徒の困り感や課題をはじめ、生徒の「できること」や「願う生徒の姿」の共通理解を担任間で行うことができた。さらに、将来の生活の姿を考えることで、現在の生活の課題が見えやすくなった。②では、クラス間で活用した支援シートや個別の指導計画を見ながら、事例生徒ごとに確認する時間を設けた。これにより、担任目線だけではなく、作業担当、国数グループ、前担任など、それぞれの立場や指導場面で気付いたことを話したり、学年の教員全員が事例生徒と日常生活の中で関わる中で気になることを客観的に捉えたりと、生徒の様子を中立的な見方で確認することができた。

Ｂ　指導略案

（資料２）（資料３）（資料４）参照

Ｃ　研究協議

○「課題別学習の取組の内容について」という協議の柱を設定して話し合いを行った。グループ別協議では、以下の２点について検討し、意見を出し合った。

①課題別学習で取り組む内容を決める際に大切にしている視点
○学校生活・日常生活を送る上で明らかになった課題に取り組む。
・作業の時間にスムーズに作業着を着られるように、作業着を着る練習をする。
○保護者の願いを課題に取り入れる。
・名前が書けるようになってほしい。
・チャック付きやボタン付きの服を着られるようになってほしい。
○その他の課題…社会に出たときに生かせるように取り組むという視点を大切にする。
・時計…「○時○分」と正確に時刻が分かるようにすることも大切だが、「だいたい○○時」が分かると良い。
・金銭…「金額ぴったりに支払うこと」も良いが、「少し多く出してお釣りをもらうこと」ができれば、社会に出て買い物ができる。
・朝の時間を有効活用し、学習時間の確保と積み重ねを目指す。
・国語・数学で学習している内容の補充を行う。
・その子の「苦手なことの克服」だけでなく、「好きなことに取り組んだり、興味・関心を広げたりしていく」学習も大切である。
・様々なことに挑戦する中で生徒は成長していくので、幅広い視野で課題を設定していく。その際「その課題を行うために必要となる要素が備わっているのか」という視点をもつとともに、「その課題ができる条件を明確にする」ことも大切にしていく必要がある。
②課題設定の参考としているもの
○太田ステージ等の利用（検査）…検査結果のみに捕らわれないようにする。
○前担任への聞き取り
○担任の見立て

○今回、「課題別学習に取り組む上で大切にしている視点」について意見を出し合う中で、幾つかの大切にすべき事柄を確認し合うことができた。課題別学習は生徒の日常生活をより良いものにする上で、重要な学習であると考える。今後も、系統的で継続的な積み重ねを行うための方法を検討したり、生活における課題や将来に向けて取り組むべき課題を学部全体で共有したりすることで、更に充実した学習になるよう努めていきたい。

③　１学年　音楽　11 月 28 日（月）
Ａ　研究概要
○取組の始めに「PDCA のサイクルに基づきながら授業作りを行うことで、生徒の音楽表現や能力の向上が図られるか。」と仮説を立てて授業作りを行った。学年では、特別支援学校中学部学習指導要領から音楽の目標及び指導内容について確認を行い、指導内容の４項目「鑑賞」「身体表現」「器楽」「歌唱」から学習内容表と学習評価表の作成を行った。さらに、年間計画や題材ごとの指導略案を作成して、授業の流れについて共通理解を図りながら授業を行った。
　研究授業に際しては、学習評価表を基に実態把握を行ったり、小学部６年間における個別支援計画の評価を参考にしたりしながら授業展開を行った。楽器編成においては、前資料に基づいて生徒の興味関心及び障害特性、演奏能力などについて話し合いを重ねた。その結果、個別の指導計画を作成する際においては、目標や手立てがより明確になった。
　授業計画の最初に当たっては、合奏の楽譜や範奏ビデオ、カラオケ CD を作成した。また、生徒の意欲を高めるために本授業を音楽発表会と位置付けて、バンド名を（THE いちだーす）と名付けて集団としてのまとまりを深めるようにした。
　楽譜においては、生徒の実態などを考慮しながら編曲を行ったが、指導を行っていく過程においてメンバー交代や譜面の変更が生じた。具体的には、楽器編成や譜面におけるリズム、音数の簡素化である。重複障害の生徒が演奏したシェーカーについても、操作性の面から棒状から片手で持つものに改良を加えた。同時にハンドベル演奏を行う予定だったが、手話による音楽表現や音楽鑑賞のみにとどまった。
　音楽活動が苦手で授業に参加できなかった生徒が、指揮の場面や自分が演奏できる楽器を見付けることにより授業に参加できるようになった。学習の過程において、本人が好むことや自信をもって行える活動が、変容につながり成果となったと思われる。
　今回を機会に音楽表現活動の充実を図り、更に音楽の生活化、余暇活動の充実として般化していくことを願う。

Ｂ　指導略案
（資料５）参照

Ｃ　研究協議
○「音楽の授業について」という協議の柱を設定して、グループ別に、日頃の音楽の授業で意識していることや悩みなどについて話し合いを行った。
①授業で意識していること
○「音楽は楽しいもの」ということを感じられるようにする。
○音楽が好きな子もいれば、苦手な子もいるということを理解する。
○上手に演奏できるか否かにかかわらず、様々な楽器に触れる経験を増やす。
○授業では、発達年齢だけではなく、生活年齢に応じた音楽に触れていく機会を作ることも重要である。
②指導の際の悩み等
○使える楽器や数に限りがあり、その中で授業を組み立てていくことが難しい。
○生徒の実態に合った楽器・道具の準備が課題である。（いつも同じようなものになってしまいがち）
○ダンスの際、模倣できない生徒への指導が難しい。
③その他
○歌唱にはカラオケの機材、鑑賞には YouTube 等も活用できるのではないか。
○「サインをしながら歌う」など、「○○しながら○○をする」という課題ができるようになる発達段階だということを意識していきたい。
○音楽療法では、音への気付きが生まれるのではという点から、「無音」の時間を作ることが有効であるとされている。
○指導の際に、指針となるようなものがあるとよい。（専科でない人には、指導が難しい教科の一つである）

○日頃課題に思っていることや指導の際の工夫などについて話をする中で、過去の取組内容を知ることや評価表を用いて実態把握をすることが、より個に応じた授業を行うことにつながると分かった。今後は指導する内容を示した指導計画や観点別の指導内容を示した学習内容表を整理し、学部全体で充実した音楽の授業を目指していきたい。

（２）全校研究会　１学年　音楽　12 月 15 日（木）
①　研究概要
○学部授業研究会での反省を踏まえて再度授業を見直し、以下の点について修正を加えたうえで授業展開を行った。
・歌詞カードや楽譜等は、必要な物をその都度提示することにした。
・聴覚障害のある生徒に対する支援を見直した。（シェーカーを高い音の出る物にした）
・指示をする際に、言葉だけではなく視覚支援のカードを加えた。
・全員でシェーカーを使ったリズム打ちの課題を、パート練習の中で行うことにした。
・生徒が行う授業の振り返りの方法を、学習目標カードに花丸カードを付けて振り返る方法に変更した。

②　指導略案
（資料６）参照

③　研究協議
○協議では、「音楽の授業において、大切にしていること、悩んだり疑問に思ったりしていること」という話し合いの柱を設定し、各学部での実践の様子を語り合うことで、以下に示した通り、今後の授業実践に生かせる情報を共有することができた。
○音楽の授業において大切にしていること
・余暇につながるようにする。
・できるかどうかではなく、様々な楽器に触れられるようにする。
・毎時間の授業において、一人１回は活躍できる場をつくる。
・季節や流行を取り入れる。

・授業の始まりや終わりも音や音楽で示す。
・歌詞だけではイメージできないこともあるので、自分たちがその歌に出てくる虫等になりきる。
・昨年の授業よりステップアップしたものにする。
・楽しく取り組めるようにする。
・静と動の違いを意識する。
・聴覚過敏の生徒は音楽の授業がつらいのかもしれないが、全ての音とは言わないまでも、好きな音を探していきたい。
・生徒の個に応じた参加の仕方を工夫し、全員が参加できる内容にすること。
○疑問に思っていること・悩んでいること
・音楽室が使用できないと、使える楽器が限られてしまう。
・その生徒の実態に合わせて個から集団をつくっていけばよいのか。
・式典等における手話は全員が行わなければならないのだろうか。
・実態の幅が広く、手立てを考えにくい。特に重度の生徒への支援が難しい。
・声が出ない生徒への歌唱の評価はどうすればよいのか。
・歌えない生徒、楽器を握れない生徒をどう指導するか
・ダンスの取組について（模倣が難しい生徒等）
・曲に合わせてリズム打ちができるようにするための手立て。
・合奏をすると自分の音で、他の音が聞こえない。一つの音にするにはどうしたら良いのか。
・小中高で音楽の目標が大きく変わらないため、保護者はどう思うのだろうか。説明が難しい。
・音楽は「楽しむものか」「正しくできるようにするためのもの」なのか。
・生徒によっては、取り組む楽器に偏りができてしまう。
・幅広い実態に応じた曲の選び方。
・高等部では人数も多く、発声等は細かくできていないのが現状である。
○その他
・年間計画を共有してはどうか？需要があるはず。
・学部統一の評価等があると良い。
・今までの音楽での取組が資料としてあると良い。
・「気持ちを合わせる」「音を合わせる」というのは中学部ならではのことであり、良かった。
・音楽は子どもたちにとって余暇である。授業として取り組むと「正しく」させようとしてしまうが、本来は生活を豊かにするものだと捉えてほしい。
・すべての生徒が好きな音というのは難しく、慣れることも大切。

２　個別の指導計画について

（１）研究概要

○今回の研究に取り組むにあたり、「子どもたちのためになるもの」「活用できるもの（とその方法）」という視点を大切にして、書式の見直しを進めてきた。個別の指導計画の書式を見直すに当たっては、学部全体にアンケートを取り、現行の個別の指導計画の良い点や課題となっている点についての意見を集めた。その後、集まった意見を基に書式の原案を作成し、再度検討を行った。このような取組を経て作成した個別の指導計画（案）の書式を、学年ごとの授業研究の際に利用し、授業作りをしていくことと並行して、更に書式の検討を行った。

（２）研究協議

①学部研究会

○個別の指導計画（案）について、各学年で検討した際に出た意見を学部研究会の協議において学部全体で共有し、再検討を行った。その際、個別の指導計画は「第一に生徒のためのもの！」という認識を学部全体で確認を行い、案の作成に取り組んだ。より良い書式にするために出た意見を以下にまとめた。

（資料７）参照

１　将来の生活・現在の生活への願い

○今まで年度末にアンケートの形で保護者に示してもらっていた「願い」を明記し、併せて生徒本人の願いの欄を新たに設け、個指を立てていく上での柱とした。

２　生徒の様子
○項目を「日常生活」「学習」「身体・運動」「社会性」の四つに分類して、それぞれに設定した観点ごとに簡潔に記入をすることとした。
○各観点については、観点の中のどんな事柄について記入していくのかを学部全体で検討・共有して、担当する教師の違いによる記入内容の偏りが少なくなるようにした。
○項目ごとに「配慮事項」を記入できる欄を設けた。
○全体的な視点で「好きなこと・余暇」「配慮事項」を記入する欄を設けた。
３　長期目標
○生徒の様子の項目にリンクさせて、実態から目標を設定することとした。
○今までは「長期目標」と「年間目標」の形だったが、年間は後期目標と同じものになるという考えから記載を省略した。その代わりに長期を今までよりも具体性をもった目標にして、３年間の中で必要に応じて修正をしながら達成を目指すものとした。
４　前期の目標
○「目標と評価」だった枠を、「目標・手立て」と「評価」に分けて示すこととした。これにより、当初設定した目標と、修正や追加をした後の目標が見比べられるようになった。
○要録に合わせて、係活動や掃除を記載する欄を変更した。
○〈食事〉〈着脱〉など、記載する内容に応じた見出しを示すこととした。
○課題別学習の欄を無くし、自立活動の欄を設けた。課題別学習の時間に行っている取組内容に応じて「国語数学（個別）」と「自立活動」の欄に記載することとした。国語・数学のグループ学習で行っている学習活動と並んで記載してあるほうが、より学習内容を把握しやすく、成果や課題が見えやすい。
５　前期の評価
○特別活動の記録の欄を設けた。基本項目は学部で統一して記載することとした。記載する内容を統一することにより、担当する教師により記入内容が異なるということが無くなり、どの生徒も同じように３年間の記録を積み重ねることができる。
②全校研究会
○学部研究会での検討を経て作成した個別の指導計画（中学部案）について、全校研究会の協議の中で検討を行った結果、他学部からの視点で様々な意見が寄せられた。
１　全体的なこと
○各学部で教科が違うから書式の統一は難しい。
○教師が書きやすく、親が分かりやすいのが良い。
○記入する項目が決まっていると、人によって書く内容がばらつかなくて良い。
○本人の課題（保護者にやってほしいこと）をどう書くかは全学部共通の悩みである。
○文量が多いと本当に伝えたいことが何か分からなくなってしまう。
○個指はシンプルに。多いと見にくいので、紙量は簡潔にする。
２　将来の生活・現在の生活への願い
○願っていることがすぐに分かり、目標の設定につなげやすい。
○保護者の願いが分かるのは良い。
○願いを生徒本人が書くということは大事なことである。
３　生徒の様子
○「見出し」があり、分かりやすいと思った。
○作業の実態は詳細が書いてあると、高等部の引き継ぎ資料として使いやすい。
○各段に配慮事項があるのは分かりやすい。
○引き継ぎ資料として、配慮事項の項目は生徒との最初の信頼関係構築にとても有効である。
○実態の重い生徒は「配慮事項」の欄の記載だけが目立ってしまいそう。

４　長期目標
○生徒の様子と長期目標の項目がリンクしているのは考えやすそう。
○長期目標を３年間の前期、後期に振り分けていくのが難しそう。
○中１の２ヶ月間で３年間の見通しをもつのは難しそう。
５　前期の目標
○目標が評価と別の枠になっているのは見やすい。
○音楽、美術に評価の観点を入れるのは分かりやすい。
○目標番号は必要ないのではないか。
６　前期の評価
○特別活動の欄は分かりやすくて良い。
○「追加・変更」ができると、いろいろやりやすそうだが、字数、頁数は増えそう。
○年度途中で目標が変わらなければ「追加」の欄は必要ないのではないか。
○追加、変更の日付を記載するのは、探りながらの部分もあるので厳しいのではないか。

③全校研で出た意見の検討
○全校研究会の協議において出た意見について、再度学部研究会で検討を行い、以下の点について学部の方針を共通確認した。
１　全体の枚数（書く量）について
○Ａ４サイズで５枚（表裏で２枚半）に納めることとした。
２　長期目標について
○長期目標は今までよりも具体性をもった目標にして、３年間で必要に応じて修正をしながら達成を目指すということを再確認した。
３　目標番号について
○保護者が見る際の目安となる役割の他に、教師が目標を設定する際に、１から４全ての項目について目標が設定されているかどうかの確認ができるので、番号は記載するほうが良い。
４　「追加」「変更」について
○途中での追加や変更がない場合は枠を設けない。
○追加・変更の日付は、保護者の承認を得た日で記載する。

（３）まとめ
○今回、中学部の取組の中でアンケートや話し合いを重ねたり、個別の指導計画（案）を作成して授業を展開したりしながら形式を検討することによって、目標としてきた「子どもたちのためになる」「活用しやすい」個別の指導計画（案）になってきたのではないかと考える。学部全体で個別の指導計画に記載する項目を見直すことで、生徒たちの実態を見取る上で重要となる視点を確認するきっかけとなった。今後は、個別の指導計画のみならず、個別の教育支援計画やその他の作成書類も含めて、それぞれの役割を確認しながら整理していく必要があるのではないかということが確認できた。

３　今年度のまとめ
（１）個別の指導計画の見直し・改善
これまでも、個別の指導計画の目標を踏まえて授業の内容や目標を考えてきたが、「個別の指導計画そのものに記載されている情報に差があること」が活用の難しさにつながっているという課題が挙げられていた。そこで今年度は、教育課程上の目標ともつながりを持たせつつ、項目や観点の内容を整理した個別の指導計画（案）の作成に取り組んだ。個別の指導計画（案）を作成するに当たっては、学部や学年で「どのような情報が必要なのか」「どうしてそのような情報が

必要なのか」という話合いを重ねた。経験年数の異なる教員の話合いは新たな気付きや経験に裏付けされた意見を知ること等につながり、個別の指導計画（案）を作成するだけでなく、我々が生徒の見立てを行う上での視点を見直すきっかけとなった。

（２）個別の指導計画（案）に基づいた授業実践

授業を組み立てる際に大切にすべきことは、学習の記録・観察・面接・チェックリスト（検査）など、「様々な情報を踏まえて作成された個別の指導計画」を基に授業を構成することである。そこで本年度は個別の指導計画（案）の作成と並行し、授業作りを通して、各教科における指導目標や指導方法の検討を行った。この検討を行うことで、授業と個別の指導計画双方におけるポイントを関連付けながら確認することができると考えた。また、それらを踏まえて学部として、各教科への取組に関する課題点や改善点を検討した。

「個別の指導計画に記載すべき情報の見直し」については、これまで記載のなかった「保護者・生徒の願い」や「好きなこと」「配慮事項」を加えたことで、チェックリストなどだけでは得られない、各生徒の「障害の特性」や「その子らしさ（特性）」などを授業に生かすことができたという利点が挙がった。しかし、一方では「情報量の多さ」や「教育支援計画の内容も合わせて検討していく必要があるのではないか」といった課題や「個別の指導計画だけが授業作りに必要な要素ではないため、様式を変えても、授業作りに大きく影響することはない」といった意見も挙げられた。この点については、今後も随時見直しを行っていくことが重要と考える。

また、授業作りでは、各教員のもつ「考え方」に触れることで、その他の教員の見立ての幅を広げることにもつながった。各教科の課題を学部で共通理解し、今後の取組について考えることは、生徒や保護者に対して、学部として足並みをそろえて関わることにつながるという点において、とても良い機会となった。

（３）個別の指導計画を活用するために

個別の指導計画は生徒の指導において「核」となるものである。そこで、我々が「個別の指導計画に求めること」について話合いを行うと、「実態を知る」「（学習内容を決める際に）書籍や検査からだけでは得られない、その子らしさ（特性）を知る」「（目標設定の際に）保護者や本人の願いを確認する」「これまでの学習内容や学びを知る」「目標が適切かどうかを評価する」など多岐に渡った。

個別の指導計画と授業実践においては、「実態把握」→「目標設定」→「手立ての検討」→「授業実践」という流れが理想的といわれている。しかし、日々の授業について振り返ると「生徒の実態や目標から構成していく授業」と「ある程度決められた授業内容の中で、生徒の実態や目標を加味しながら構成していく授業」があることに気付かされる。そこで明らかになったことが「個別の指導計画は授業実践と双方向の関係にあり、常に見直しや修正を行う必要がある」ということである。そして、その双方向の関係が成り立っている状態こそが「個別の指導計画を活用できている」と言えるのではないかということだ。しかし、個別の指導計画そのものだけでは活用は難しい。では、個別の指導計画と授業を繋ぐ「何か」があるのではないかという考えに至った。そこで我々が考えた「何か」が「指導記録簿」である。指導記録簿は、生徒への学習面・生活面での指導の記録を記載したものであるが、それらを上手く利用することで、個別の指導計画と授業を結び付けることができるのではないだろうか。個別の指導計画でなされる PDCA サイクルは、日々の指導における PDCA サイクルを総括したものであるといえるため、最も重要なことは「日々の指導が、PDCA サイクルに基づき、根拠のある指導がなされること」と考える。指導記録簿が個別の指導計画と関連をもち、PDCA をより意識できるものにすることができれば個別の指導計画の活用につながると考え、個別の指導計画と合わせて見直しを行うこととした。

４　３年間のまとめ

１年目は、「個別の指導計画に基づいた授業の実践」をテーマとし、PDCA サイクルの P（計画）にあたる部分の取組方を見直し、そこから D（実践）の方法を検討した。P（計画）においては、観察・チェックリスト（検査）・面談・学習の記録という重要な四つの視点があることが分かり、それらを踏まえた個別指導計画の作成及び指導案の作成が課題として挙げられた。

２年目には、１年目の課題を踏まえ指導案の様式の見直しを行った。具体的には指導案の中に各生徒の「年間目標」や「前・後期目標」が記載され、さらに「学習における様子」を踏まえた上で「目標」を記載することにした。このことにより、「全体的な様子」→「年間目標」→「前・後期目標」→「学習の様子」→「本時の目標」と、つながりを意識して授業の構成をすることができるようになった。また、２年目は、学部における授業研究会こそ行わなかったものの、「省察」をテーマに、我々の日々の指導を「共有」「可視化（フローチャート）」した。日々感じている悩みや思いを話し合うことは校内の風通しを良くすることにつながったとともに、他学部の思いにも触れることで「12 年間を見通し、一貫した指導を行っていく重要性」を再確認することができた。

そして、本年度は、昨年度の課題として挙がった「意識」「物」「専門性・知識」の更なる充実を図るため、話し合いや各書類の整備を行うとともに、それらに基づいた授業実践に取り組んだ。

この３年間の研究を通して、少しずつ個別の指導計画を踏まえた授業作りと、授業における PDCA サイクルの構築がなされるようになってきた。その中でも「将来に結び付く」個別の指導計画にするためには、「支援の軌跡（積み重ね）」「（担任以外の支援者も含む）多角的な視野からの実態や目標の検討」「現状の様子からだけではなく、将来の生活を見越し、社会から求められるものを意識した目標設定」などが重要であるということが明確になった。また、研究テーマである「一人一人の個性を大切にした授業のあり方」については、「個別の指導計画を含む様々な情報を基に作られた授業」と、「日々の取り組みを PDCA サイクルの視点で常に見直しながら行われている授業」と捉えることができ、それに関わる各種書類の整備を進めることができた。

次年度以降、個別の指導計画を中心とした PDCA サイクルが授業実践の中で生かされることで、中学部における日々の指導がより充実したものになると考えている。

Ⅴ　参考資料・付録

（資料１）

３学年　進路学習指導略案

単元名　「将来について考えて、必要な力を身につけよう」

単元設定の理由

中学部３年生になると進路について考える機会が多くなる。保護者は高等部への進学、高等部卒業後の進路先についてなど進路への意識は高まっているが、生徒自身は進路について考える機会が少ない。中学部３年生全体での進路指導は主に３学期にある高等部作業班見学・体験、作業所見学がある。今年度の３年生の実態から鑑み、学年内をグループ分けして中学部卒業後の進路学習を系統的に進めることで、生徒自身が進路について理解を深めることができるのではと考えた。

授業は学年を三つのグループに分けて展開する。本グループの生徒は男子４名女子２名の６名である。理解面は、全員が教師との一対一の質問に話を聞いて答えることができる。平仮名や簡単な漢字は全員読むことができる。表出面は言葉で答えることはできるが、単語になったり定型文になったりすることが多い。情緒面は、６名とも落ち着いており、集団行動をしたり、席に座り続けて話を聞いたりすることができる。

Ａグループの進路学習では、ねらいを二つにした。一つは自分の進路について考えたり、理解を深めたりすることである。中学部を卒業したらどうなるのかを質問すると、「高等部。」と答える生徒もいるが、高等部を卒業するとどうなるのかを答える生徒はほとんどいない。そこでライフステージ表を用意して、中学部卒業から高等部卒業後までを図示して、毎時間書き込むことにした。表を自分で作成することで、進路についての流れを理解してほしい。もう一つのねらいは、場面に応じた適切な言葉遣いで自発的な発言をするなど、コミュニケーション能力の向上である。学習の中での生徒の様子を見ていると、集団の中で特定の人の話に集中することが難しかったり、自分の考えや気持ちを言葉にすることが苦手だったりする。今の生活でもこれからの進路先でも、必ず人との関わりがある。他者を理解する力、他者に働きかける力を今以上に身につけてほしいと願っている。そこで授業の中に適切な言葉遣いで答える場面や、自分の考えたことや感じたことを答える場面を設定することにした。発表の場面では語彙が少しでも増えるように事前に言葉を提示して自分で文章を作成するようにした。決まった定型文ではなく、自分で言葉を選択して考えたことや感じたことを少しでも表出してほしい。

これらの学習が、自分の将来へ関心をもつきっかけとなり、進路選択の際には、「この仕事がやりたい」というような自身の意思をもてるようになってほしい。また、コミュニケーションの力を高めることによって日々の生活の向上を目指し、将来幅広い進路選択をするきっかけとなってほしい。

単元の目標

・将来の生活や、働くことについての理解を深める。
・働く上で必要なコミュニケーションの力を高める。

指導計画

回	日付	内容	目標
1	10/1 （木）	・中学部卒業後の進路全体について （高等部卒業後も含めて）	・中学部卒業後の進路を学ぶ。 ・将来の生活について知り、見通しをもつ。
2	10/14 （金）	・中学部と高等部の違いについて。 ・高等部の教育課程	・高等部の生活を学ぶ。

3	10/21 （金）	・高等部の生活について。（授業の学）	・実際の生活を見学して、高等部の生活への理解を深める。
4	11/10 （木）	・高等部卒業後の生活について。 （身のまわりの仕事について調べる。）	・働くことへの理解を深める。 ・将来について考え、希望をもつ。
5	11/17 （木）	・実際の現場を見てみよう。	・社会で働くことについて理解を深める。
6	11/25 （金）	・働くために必要なことについて。 （チェックリスト）	・今の自分の良さや苦手なことを学ぶ。 ・これからの生活における、自分の目標をもつ。
7	12/ 9 （金）	・学校技能員、調理員、運転手の仕事を見学したり、体験したりする。	・学校生活の中で、どのような仕事があるのかを学ぶ。
8	12/16 （金）	・学校卒業後の進路について。	・復習をして進路について理解を深める。

本時の指導

（１）全体目標

・適切な言葉で質問に答えたり、自分で調べた職業について発表したりする。

（２）生徒の目標

生徒名	後期目標	単元の目標	学習の様子	本時の目標	手立て
A	・進路学習を通して、将来の生活に見通しをもつ。 ・授業内容を、ワークシートで振り返り、発表をする。	・将来の生活や、働くことについての理解を深める。 ・働く上で必要なコミュニケーションの力を高める。	・前時までの学習を通して、中学部卒業後は、「高等部」に進学するという見通しがもてている。 ・高等部卒業後について聞くと、「大学生」（になる）「保育園」（に行く）などと答えており、「社会人」となり働くというイメージがもてていない。	・自分で選択した職業の仕事内容を調べて発表する。	・職業をイメージできるイラストを数種類用意して、調べる職業を選択できるようにする。 ・発表内容を穴埋め形式にしたプリントを用意する。 ・検索に必要な文字、入力の仕方について、手元にカード等を用意し、視覚的に示す。
B	・進路学習を通して、将来の生活に見通しをもつ。 ・授業内で気付いたことや、授業を振り返って感じたこと等を発表する。	・将来の生活や、働くことについての理解を深める。 ・働く上で必要なコミュニケーションの力を高める。	・中学部卒業後は、「高等部」、「社会人」という将来へのおおまかな見通しがもてている。 ・具体的な職業名、内容については知らないものが多いが、「アルバイト」「お仕事」等の言葉は知っている。	・身近な職業を発表する。 ・自分で選択した職業の仕事内容を調べ、選んだ理由を含めて発表する。	・解答に困っている様子が見られた場合は、身近な人の職業を聞いたりイラストで示したりする。 ・発表内容を穴埋め形式にしたプリントを用意する。 ・理由の欄で迷う様子が見られたら、教師がいくつかの選択肢を示し、選べるようにする。

（３）授業展開

時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材教具
３分	・始まりの挨拶をする。 ・Ｔ１の言葉を聞いて、姿勢を正して挨拶をする。	・Ｔ１に意識を向けるように、Ｔ２、Ｔ３は生徒の横か後ろにいる。	
12 分	・ライフステージ表を書く。黒板に貼ってある模造紙の見本を見て記入する。できたら報告する。	・プリントの枠内に何を書くのか、手の止まっている生徒に言葉をかけたり、指さししたりする。	模造紙（ライフステージ表）
10 分	・今までの学習を復習する。ファイルにある資料を参考に質問に答える。	・ライフステージ表の「高校生」、高等部の日課表のプリントなどを使用して、学習内容を振り返る。 ・「何を」学習して、「どう思ったか」を生徒に質問する。答えた内容を肯定的に受け止めて、話を広げたり、続けたりする。	
15 分	・今日の学習内容を聞く。学校を卒業した後の業種を調べる。 ・パソコン室で調べ学習を行う。 ・プリントに調べ学習をした内容を書く。	・ライフステージ表の「社会人」の欄を示す。 ・例えの職業は、身近な職業のイラストを用意して答えやすいようにする。 ・調べ学習をする場所、方法を確認する。 ・入力するための手順表を用意する。 ・調べ学習で職業を書くプリントを用意する。 ・理由の言葉の語彙はホワイトボード等で言葉を示したり、生徒と会話をしながら言葉を広げたりする。	パソコン資料 調べ学習発表用のプリント
10 分	・友達の前で発表する。 ・今日の学習の振り返りをする。 ・終わりの挨拶をする。	・発表内容を称賛する。 ・友達の発表を聞いていたか、発表者以外の生徒に内容を確認する質問をする。 ・Ｔ１に意識を向けるように、Ｔ２、Ｔ３は生徒の横か後ろにいる。	

（４）評価

○その場に応じた言葉を用いて質問に答えたり、発表したりできたか。（生徒の視点）

○生徒が選択したり発表したりする場面で、適切な手だてが講じられていたか。（教師の視点）

（資料２）

２学年　課題別学習指導略案（Ａ組）

題材名　「色のマッチングをしよう」

題材設定の理由

事例生徒については、課題別学習に比較的落ち着いて取り組む姿勢が見られ、集中して学習するベースができている。手元をよく見たり、手先を使ったりする作業が苦手であるため、前期より補助箸でスポンジなどをつまんだり、紙皿を洗濯ばさみで挟んだりする学習に取り組んできた。後期になり、次のステップとして考えたのが、色の弁別である。「赤」「青」といった言葉を聞いて、同じ色のカードを取るなどのマッチングができるが、集中がそれると全く違ったカードを取っている。また、色の選択肢が多いと混乱することがあるため、それぞれの課題をゆっくりと行い、また一度の選択肢を少なくして選びやすい状況を作った。

学習場所も教室ではなく、更衣室などの、静かな場で行うことで、生徒が学習に集中できたり、自信をもって選択できたりすることが増えたように感じられる。

題材の目標

○落ち着いて学習に取り組む。
○色を意識しながら選択する。
○手元を見ながら操作をする。

本時の指導

（１）生徒の目標

生徒名	後期目標	題材の目標	学習の様子	本時の目標	手立て
Ａ	・色分けされたペットボトルのキャップと本体をマッチングする。	・３色でのマッチングをする。	・学習には意欲的であり、集中していれば色のマッチングができる。	・２色のマッチングを複数回成功する。	・区別がつきやすい色（青と黄など）を教師が選んだり、色の名称を適宜言葉に出したりする。
	・本体、芯、エンドキャップキャップの４部品からなるボールペンの組み立てを行う。	・２工程を２回行うことで、一人でボールペンの組み立てをする。	・部品の数が多いと順番が分からなくなるが、２工程は一人で行える。	・一人で全部のペンを組み立てる。	・部品ごとに平皿に入れ、順番に並べておき、工程を分かりやすくしておく。

（２）授業展開

時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材教具
１分	○始まりの挨拶 ・教室で全員そろって行う。 ・号令係が行う。	・姿勢を正し、全員が集中しているか確認、ＭＴに注目するよう言葉をかける。（Ｔ２、Ｔ３）	
２分	○グループ発表／移動 ・グループ発表の後、グループごとに机を移動して学習を始める。	・学習グループと場所（教室、更衣室）について顔写真カードを使い、分かりやすく説明する。	・写真カード
１分	○内容説明 ・本時の学習について説明を聞く。	・具体物を提示して分かりやすく説明する。	・学習セット
10 分	○箸つまみ ・スポンジボールを左の皿から右の皿へとつまんで移す。	・スポンジボールを１０個程度皿に入れ、終わりの見通しをもちやすくする。	・箸 ・皿 ・スポンジボール
10 分	○紙皿ピンチ ・紙皿にマーキングされた色を同じ色のピンチ（洗濯バサミ）で挟む。	・１枚の紙皿を複数回に分けながら挟んでいくようにする。 ・あらかじめ紙皿に付いている色のピンチを手元に用意しておく。	・紙皿 ・洗濯バサミ
10 分	○ペットボトルキャップ閉め ・ペットボトルの本体色と同じ色のキャップを閉める。	・２個程度のキャップ閉めから始める。	・ペットボトル ・キャップ
10 分	○ボールペン組み立て ・ボールペンを２段階で組み立てる。	・２色（赤と黒）のボールペンの本体とキャップの色に気付くように言葉をかける。	・ボールペン ・皿
１分	○終わりの挨拶 ・グループごとに行う。	・姿勢を正して行うようにする。（Ｔ１）	

（３）評価

○色を意識しながらそれぞれの課題に取り組むことができたか。（生徒の視点）

○楽しみながら、落ち着いて学習に取り組めるように支援ができたか。（教師の視点）

（資料３）

２学年　課題別学習指導略案（Ｂ組）

題材名「文章を読んだり（絵を見たり）、説明を聞いたりして、課題に取り組もう」

題材設定の理由

本題材では、時計の学習や助詞を使った文章

構成、手順表を参考にしたちょう結びの課題等を通して、日常生活に生きる力を育むことや数字や文字の聞き取りを通して集中力を高めることをねらいに取り組む。

本題材の設定理由については、三つある。一つ目は、コミュニケーションや文章能力を高めることである。前期の課題別学習における生徒の様子や学年、学級担任との話し合い、生徒の学習上の課題や将来の目指す姿について考察した。話し合いの結果から、見たり（読んだり）、聞いたりした情報を整理し、行動面やコミュニケーション等において適切に表現したり、操作面を調整したりすることが本人の将来の生活において重要であることが導き出された。そこで、絵や写真を見て、的確にその場面を表現できる語彙力や正しい言葉遣い、文章構成力などを身につけることができるように、正しい助詞を用いて３～４語文を作成する学習に取り組む。

二つ目は、日常生活に生きる力を育むことである。本人・保護者の現在の願いの一つに自宅から学校までの自力通学を行うことが挙げられた。自分で時刻を確認したり、何分後にバスが来たりするのかを知ることは、自力通学を行う上で大切な力と考える。そこで課題別学習の中では、時刻と時間の違いや関係について学習していく。

また、本題材では、ちょう結びの課題を設定する。その理由として、手順表や細かな手先の動きを模倣することを通して、見る力や手指の操作性を高めることができるからである。さらに、結び方を習得することで日常生活だけでなく、作業学習にも生かせると考える。

三つ目は、学習や日常生活における集中力を高めることである。本生徒の実態として、様々なことに注意が向き、学習に集中できない場面が見られる。そこで、教師が話した言葉や数字などを聞き取り、紙に書く課題に取り組む。紙に書くことで、人の話を集中して聞くことを自然と意識できるようになり集中力が高まると考える。

以上の理由から、時計の学習や助詞を使った３語文の作成、ちょう結びや聞き取り学習などの課題に取り組む。学習を積み重ねることで分かることやできることが増え、次回の学習への意欲や期待感につながってほしい。

題材の目標

○絵や写真に対応する３～４語文を適当な助詞を用いて作成する。

○「●時●分」の△分後や△分前は、何時何分かを答えたり、「●時●分」～「△時△分」は何分間かを答えたりする。

○結び方を知り、自分でちょう結びをする。

○集中して話を聞き、伝えられた数字や単語をノートに書く。

本時の指導
（１）生徒の目標

生徒名	後期目標	題材の目標	学習の様子	本時の目標	手立て
A	・「●時●分」の△分後や△分前は、何時何分かを答える。 ・かた結びやちょう結びをする。 ・助詞などの使い方を理解し、イラストの内容に合う、文章を書く。	・「●時●分」の30分後や15分前は、何時何分かを答える。 ・靴ひもやエプロンなどをちょう結びで縛る。 ・主語や述語などを語群ごとに分けたり、語彙の選択肢を用意したりする。	・９時50分を10時50分と読むことがあるが、分刻みでアナログ時計を読むことができる。 ・一つ一つ教師と一緒に結び方を確認することで、結べるようになってきている。 ・主語や述語などを語群ごとに分けることで、主語＋助詞＋述語の流れで３語文を作ることができる。	・「○時○分」の10分前と10分後の違いを理解して質問に答える。 ・手順表を見たり、教師の手本を模倣したりして、ちょう結びに取り組む。 ・イラストを見て、語群の中から正しい助詞を選んで３語文を作ったり、読んだりする。	・一緒に模擬時計を操作して何分かを数えたり、10 分前と10 分後の違いを説明したりする。 ・結び方の写真や説明が添付された手順表を用意したり、必要に応じて結び方を一緒に確認したりする。 ・主語、助詞、述語の語群を色分けする。 ・文を構成しやすいように、語群の数を調整したり、助詞を「を・が・に・の」に限定したりする。

（２）授業展開

時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材教具
３分	○始まりの挨拶 ○本時の説明を聞く	・かごにプリントや課題等を入れたり、仕切りを設置したりする。 ・注目するように言葉をかける。 ・終わったら、提出用のかごにプリントを入れることを伝える。	・仕切り ・かご ・プリント
38 分	○課題に取り組む ・時計の学習 ・ちょう結び ・３～４語文作成 ・聞き取り ※間違えた問題に再度取り組む	・分からないときは、次の問題に進むことを伝えたり、問題文を読んで一緒に確認したりする。 ・必要に応じて、助言をしたり、模擬時計を一緒に操作したりする。 ・５や 10 飛びの数で数えることを伝える。 ・指さしで、ひもを通す箇所を示したり、そばで一緒に結び方の手本を示したりする。 ・例文を作ったり、語群の中のどの言葉が適当かを一緒に考えたりする。 ・最初は、数字から取り組み、慣れてきたら伝える速度を速くしたり、単語にしたりする。 ・間違いの箇所を伝えたり、間違えた理由を一緒に確認したりする。	・模擬時計 ・プリント ・ちょう結びの課題と手順表 ・プリント ・メモ用紙 ・ペン（赤色）
６分	・３人でブラックジャックをする。 （ルール理解と１～２桁の暗算）	・ルールを説明したり、計算が分からないときは、筆算で答えたりすることを伝える。	・トランプ ・ルール表
３分	○プリントをとじ込む ○終わりの挨拶	・とじ込むことを伝える。 ・注目するように言葉をかける。	・穴あけパンチ ・ファイル

（３）評価

○絵や写真に対応する３～４語文を適当な助詞を用いて作成することができたか。（生徒の視点）

○「●時●分」の△分後や△分前は、何時何分かを答えたり、結び方を知って自分でちょう結びをしたりすることができたか。（生徒の視点）

○学習内容の設定や課題に対する教材・教具の工夫、集中して課題に取り組むための学習環境等が適切だったか。（教師の視点）

（資料４）

２学年　課題別学習指導略案（Ｃ組）

題材名　「手先を使って課題に取り組む」

題材設定の理由

本生徒は発語が少なく、不安になったり、見通しがもてなかったりすると、落ち着いて活動することが困難になり、席を立ったり、課題に取り組むことが難しくなったりする。そのため最初に授業の流れを確認してから取り組んでいる。自分の取り組む内容や周囲の様子などを理解すると、落ち着いて学習に取り組むことができ、教師の手本をよく見て、一生懸命に取り組む姿が見られる。

本題材では、保護者の「自分の名前が書けることで、学習面で生かすことができたり、友達とのコミュニケーションにつなげたりしてほしい。」という願いもくみつつ、将来の生活に生かせる課題として、自分の名前を平仮名で書く、ボタンのはめ外しをするという二つの学習を設定した。一つ目は自分の名前が書けることで、環境が変わっても様々な場面で、名前を伝えることができ、コミュニケーションをとるきっかけになると考えた。名前を知ってもらうことで、たくさんの人に名前を呼んでもらったり、話しかけてもらったりする機会が増え、新しい環境にも早く慣れて、落ち着いた生活につながるのではないかと考えた。二つ目はボタンのはめ外しができることで、ボタンのある服を着たり、制服を着たりするきっかけになると考えた。服装の幅が広がることで、楽しい気持ちで洋服を選んだり、出掛けたりすることができる。そして、制服を着ることで、家庭から学校への気持ちの切り替えとなり、スムーズな登校にもつながると考える。

さらに前期からの目標の継続として、それぞれの学習内容が終わったときに、教師に「できた」「終わった」をサインやカードを使って伝えることにも取り組む。自分の意思を伝える手段を増やし、落ち着いた学習につなげていく。コミュニケーションの幅を広げ、人間関係を形成する一助となることを願っている。

以上のことから、本題材は、将来の生活に生かせる課題を設定し、コミュニケーションの幅を広げる場として捉え、本生徒の気持ちに寄り添った学習活動とする。

題材の目標

〇手先を使って学習に取り組む。
〇サインやカードでコミュニケーションをとる。

（１）生徒の目標

生徒名	後期目標	題材の目標	学習の様子	本時の目標	手立て
A	・平仮名を終点で止めて書く。	・文字の終点で止める。	・集中しているときは、ペン先を良く見て書くことができる。 ・長く続けると、終点で止めることが難しい。	・点から点をつなげる。 ・始点から書き始める。	・ペンを使って書く前に、指で文字をなぞる。
	・サインを使って、報告をする。	・学習が終わったら報告をする。	・教師が言葉をかけると、返事をすることができる。 ・サインは、教師と一緒に声を出しながら行っている。	・終わったときに、サインやカードを教師に渡して伝える。	・「おわりました。」カードを用意する。 ・教師と一緒にサインを確認する。
	・ボタンのはめ外しをする。	・服のボタンを、はめる。	・机上や首から掛けたボタンのはめ外しができる。	・首から掛けたボタンのはめ外しをする。	・大きいボタンから徐々に小さくしていく。

（２）授業展開

時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材教具
３分	○挨拶 ・姿勢を正す。 ○本時の説明を聞く	・姿勢が正しいか確認し、直すように言葉をかけたり、称賛したりする。 ・号令をかける生徒を指名する。 ・本時の学習内容を一緒に確認する。	
44 分	○名前を平仮名で書く ・机の中から名前の枠を準備する。 ・文字を指でなぞる。 ・点と点をつなげて文字を書く。 ・枠を取って行う。 ○ボタンのはめ外しをする ・始めは机上で行い、できたら首からかけたもので行う。 ○箸で物をつまむ ・様々な色や形の毛糸のボールと物を、色や写真が貼ってある器に移動させる。 ○ボールペンの組み立てと解体をする ・分けられている部品を、手に取って組み立てたり、解体して部品ごとに分けたりする。	・声を出しながら、手を添えて一緒に指で文字をなぞる。 ・間違えた文字はすぐに一緒に確認をする。 ・終わったら報告をするように伝える。 ・始めに教師が手本を示す。 ・教師と確認しながら行い、必要に応じて支援する。 ・終わったら報告をするように伝える。 ・つまんで器に移すように言葉をかける。 ・終わったら報告をするように伝える。 ・始めに手本を示す。 ・ボールペンを部品ごとに分けられるケースを用意する。 ・部品の写真を貼って、入れる場所が分かるようにする。	・名前の枠 ・ボタン ・箸 ・毛糸のボール ・ボールペン ・ケース
３分	○挨拶 ・筆箱やプリントなどの机上にある物を片付ける。 ・姿勢を正す。	・机の位置や姿勢が正しいか確認し、直すように言葉をかけたり、称賛したりする。 ・号令をかける生徒を指名する。 ・元の位置に移動するように言葉をかける。移動する際は、机と椅子を持ち上げて運ぶように言葉をかける。	

（３）評価

○点と点をつなげたり、ボタンのはめ外しをしたりすることができたか。（生徒の視点）
○サインやカードを使って、報告することができたか。（生徒の視点）
○学習内容の設定や課題に対する教材・教具の工夫は適切であったか。（教師の視点）

（資料５）

１学年　音楽学習指導略案

題材名　「翼をください」

題材名について

本単元は、各自それぞれの楽器パートを受けもって、みんなと気持ちを合わせながら楽しく合奏することを主とした取組である。３学期にある卒業生を送る会の発表に向けて、１年生みんなで協力して取り組むものである。

生徒の様子

中学部１年生は、男子７名、女子５名、訪問学級男子１名の計 13 名で構成されている。障害の実態は、自閉傾向のある生徒や聴覚障害を併せもつ生徒と様々である。コミュニケーション面では、自分から友達や教師に話ができる生徒が４名、二語文・三語文で話せる生徒が４名、発声やサインで要求を伝えられる生徒が３名、教師と一緒に活動ができる生徒が２名である。

音楽での実態は、歌唱では、リズムや音程を意識して歌える生徒が２名、マイクに向かって発声できる生徒が５名、歌に合わせて体を動かす生徒が５名。打楽器演奏では、ほぼ正しくリズムを打てる生徒が３名、教師の動作に合わせて打てる生徒が６名である。ダンスなどの身体表現では、音楽に合わせて身体表現ができる生徒が７名、音楽が流れると体を動かす生徒が３名である。鑑賞では、曲の特徴や感想が言える生徒が３名、その他の生徒は静かに音楽を鑑賞している。

題材設定の理由

中学１部年生は、４月・５月の授業では、「ミッキーマウス」の曲に合わせて２拍子のリズム打ちに取り組んだ。６月・７月は、「サンサンサンバ」の曲に合わせてサンバのリズムに取り組み、様々なラテン楽器を自分で選んで楽器の音色に親しんだ。

本題材で選曲した「翼をください」は、1971 年にフォークグループ「赤い鳥」が発表し、後には、教科書の合唱曲として親しまれるようになった曲である。生徒も小学部で歌唱した経験があり、今回は歌唱・合奏で演奏する。本授業では、生徒の長所を生かしながら、更に合奏活動を通して学習集団としてのまとまりを築き上げていきたいと考える。

楽曲の構成は、（１番）手話動作を付けた歌唱（変ロ長調）、（２番）合奏（ハ長調）で構成さている。生徒が親しみをもって演奏ができるように、中間部は、「ジングルベル」の旋律を、ピアニカで演奏ができるように編曲を行った。合奏部分はハ長調で、テンポもモデラート（中ぐらいの速さ）と、とても演奏しやすくしている。

〈自分のパートを責任もって演奏しよう〉

音楽の三要素には、「メロディー」「リズム」「ハーモニー」がある。今回の楽器編成では、「メロディー」「リズム」を中心とした編成で合奏を行う。文字が分かる生徒（主旋律、対旋律）は、音譜に階名を記して、鍵盤の階名と合わせながら弾けるようにした。模倣力が豊かで正しくリズムがとれる生徒は打楽器を受けもち、音を感覚的に捉える生徒は、シェーカーなどの簡易楽器で演奏するように編成した。パート練習では、自分が演奏する音やリズムが分かるように、楽譜やリズム譜を見ながら行うようにした。

〈友達の演奏を聴きながら、自分のパートを演奏しよう〉

自分のパートが演奏できるようになってから合奏に取り組んだ。合奏では、自分のパートを演奏するだけなく、友達が演奏しているパートと合わせながら演奏することが大切である。音の重なり合いを感じ取りながら、楽器それぞれの音量やバランスを考えながら、より調和のとれた演奏ができることを願っている。本時は、合奏練習の３時間目（９時間目／11 時間）となり、みんなと気持ちを合わせながら合奏ができるようにしていきたいと考えている。

題材の目標

○自分の演奏するパートを理解し、自分から進んで演奏する。

○みんなと気持ちを合わせながら、楽しく合奏する。

本時の計画

（1）全体目標

○自分が担当するパートの音やリズムが分かり、できるだけ自分の力で演奏する。

○友達の演奏するパートの音をよく聴いて、周りの音に合わせながら合奏する。

（2）生徒の目標

生徒名	後期目標	単元の目標	学習の様子	本時の目標	手立て
A	・日常生活において見通しをもちながら行動し、できることは自分で行う。	・自分の演奏するパートを理解し、自分から進んで演奏する。	・歌唱や楽器演奏に関心が高い。平仮名が読めて、音譜や楽器に記してある階名が読める。	・キーボードのパートを演奏しみんなで合奏を行う。	・階名が書かれている楽譜を見ながら演奏する。 ・教師がそばで旋律を読み上げながら演奏する。
B	・手指を使った活動を経験し、手指の動かし方や使い方を知る。	・自分の演奏するパートを理解し、自分から進んで演奏する。	・発声練習では声が弱い。平仮名が読めて、譜面や楽器に記してある階名を一つずつ確認しながら演奏する。	・簡単な旋律をピアニカで演奏する。	・階名が書いてある楽譜を用意する。 ・ピアニカの鍵盤に階名を書いたシールを貼る。
C	・物や活動への興味関心を高め、手指を使う経験を増やす。	・みんなと気持ちを合わせながら、楽しく合奏する。	・音楽を聴くことが好きである。楽器演奏では、教師が手を添えて一緒に鳴らす。	・「翼をください の」合奏では、シェーカーのパートを演奏する。	・興味関心がもてるように、教師が手本を示す。 ・教師が手を添えて一緒に鳴らしたり、肩をたたいて合図を送ったりする。

（３）　展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	備考（道具など）
10分 導 入	○始まりの挨拶を行う。 ○本時の学習内容を知る。 ○歌唱 「気球に乗ってどこまでも」を歌う。 「翼をください」を歌う。	・絵カード（手は膝、足をそろえる）を見て、正しい姿勢で挨拶ができるようにする。 ・学習カードを提示して本時の学習内容が分かるようにする。 ・歌いたい生徒にはマイクを、楽器を鳴らしたい生徒には楽器を渡す。 ・手話動作が分かるように、教師が手本を示しながら歌う。	絵カード 学習カード 歌詞カード マイク、アンプラジカセ、ＣＤ 指揮棒
35分 展 開	○４拍子のリズム打ちを行う。 （ズン、チャ、チャ、チャ） ・シェーカーを前後に振ってリズムをとる。 ○「翼をください」を合奏する。 ・パートごとに演奏する。 キーボード（主旋律演奏） ピアニカ、鉄琴（対旋律演奏） 大太鼓、小太鼓、シェーカー（リズム奏） ・最初から最後まで通して演奏する。 ○振り返り ・本時の目標が取り組めたか振り返る ○音楽鑑賞 ・教師のリコーダー、キーボード演奏を聴く。	・視覚的に分かるように、リズム譜面を示す。 （ズン、チャ、チャ、チャ） ・教師が範奏を示して、その動作を模倣しながら演奏できるようにする。 ・最初から最後まで通して演奏する。 ・合わない箇所を数回練習して、演奏が合うようにする。 ・一つのパートが演奏できたら、他のパートを重ねて演奏してお互いの音が聴けるようにする。 ・パートごとの音量のバランスがとれているか、生徒に聞きながら確認する。 ・演奏が終わったら、上手に演奏できたか 生徒に感想を聞く。 ・演奏の良かった点、工夫する点などを講評する。 ・生徒が知っている親しみのある曲「コンドルは飛んでいく」を演奏する。	ＣＤ リズム譜面 シェーカー キーボード（２台） ピアニカ、鉄琴、大太鼓、小太鼓、タンバリン、鈴、ハンドベル、シェーカー、机 花丸カード 譜面代、譜面、リコーダー、キーボード
５分 まとめ	○終わりの挨拶 ○片付け	・次回の内容を説明して、期待感がもてるようにする。 ・今日の日直が前に出て、挨拶する。 ・片付けられる楽器を、あらかじめ分担して決めておき、かごなどを用意しておく。	

（４）　評価

○自分が担当するパートの音やリズムが分かり、正しく演奏できたか。（生徒の視点）

○自分のパートを演奏するとともに、友達の演奏するパートの音をよく聴いて合奏できたか。（生徒の視点）

○生徒が主体的に取り組むための、教材教具の工夫・場の設定等教師の支援は適切であったか。（教師の視点）

（資料６）　全校研究会　１学年音楽指導略案（変更のある展開部分のみ記載）
※学部研究会からの変更点を＿＿＿で提示

展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	備考（道具など）
10分 導 入	○始まりの挨拶を行う。 ○本時の学習内容を知る。 ○歌唱 「気球に乗ってどこまでも」を歌う。 「翼をください」を歌う。	・絵カード（手は膝、足をそろえる）を見て、正しい姿勢で挨拶ができるようにする。 ・学習カードを提示して本時の学習内容が分かるようにする。 ・歌いたい生徒にはマイクを、楽器を鳴らしたい生徒には楽器を渡す。 ・手話動作が分かるように、教師が手本を示しながら歌う。	絵カード 学習カード 歌詞カード マイク、アンプラジカセ、ＣＤ 指揮棒
35分 展 開	○「翼をください」を合奏する ・パートごとに演奏する。 キーボード（主旋律演奏） ピアニカ、鉄琴 （対旋律演奏） 大太鼓、小太鼓、シェーカー （リズム奏） ・４拍子のリズム打ちを行う。 （ズン、チャ、チャ、チャ） ・シェーカーを前後に振ってリズムをとる ・最初から最後までを通して演奏する。 ○振り返り ・本時の目標が取り組めたか振り返る ○　音楽鑑賞 ・教師のリコーダー、キーボード演奏を聴く。	・教師が範奏を示して、その動作を模倣しながら演奏できるようにする。 ・最初から最後まで通して演奏する。 ・合わない箇所を数回練習して、演奏が合うようにする。 ・聴覚障害のある生徒に聞こえやすいように高い音のするシェーカーを用意する。 ・一つのパートが演奏できたら、他のパートを重ねて演奏してお互いの音が聴けるようにする。 ・パートごとの音量のバランスがとれているか、生徒に聞きながら確認する。 ・視覚的に分かるように、リズム譜面を示す。 （ズン、チャ、チャ、チャ） ・演奏が終わったら、上手に演奏できたか生徒に感想を聞く。 ・演奏の良かった点、工夫する点などを講評する。 ・生徒が知っている親しみのある曲「コンドルは飛んでいく」を演奏する。	ＣＤ リズム譜面 シェーカー キーボード （２台） ピアニカ、鉄琴、大太鼓、小太鼓、タンバリン、鈴、ハンドベル、シェーカー、机 花丸カード、学習目標カード 譜面代、譜面、リコーダー、キーボード
５分 まとめ	○終わりの挨拶を行う。 ○片付け	・次回の内容を説明して、期待感がもてるようにする。 ・今日の日直が前に出てきて、挨拶するようにする。 ・片付けられる楽器を、あらかじめ分担して決めておき、かごなどを用意しておく。	

（４）　評価

○自分が担当するパートの音やリズムが分かり、正しく演奏できたか。（生徒の視点）

○自分のパートを演奏するとともに、友達の演奏するパートの音をよく聴いて合奏できたか。（生徒の視点）

○生徒が主体的に取り組むための、教材教具の工夫・場の設定等教師の支援は適切であったか。（教師の視点）

（資料７）

中学部　個別の指導計画（案）

第一は生徒のためのもの！
保護者への説明
教員の引き継ぎ.・・・などにも活用できる

１　将来の生活・現在の生活への願い

	将来の生活（高等部卒業後）への願い	現在の生活への願い
本人		
保護者		

※自分の考えを書くことが難しい生徒については、
①選択できる生徒は、担任が本人に選択肢を示して選ばせる
②保護者が本人の願いをくみ取って書く
③空欄でも良い　　等の方法で記載する。

２　生徒の様子

日常生活に関すること	○健康面について	・健康状態・医療的な情報 ・生活リズム ・基本的生活習慣　などについて記載する。
	○身辺処理について ※自立している場合は「身辺面自立」と記入する。	・衣服の着脱 ・食事（好き嫌い、箸、食べ方等） ・排泄 ・その他（手洗い、歯磨き等）　などについて記載する。
	○その他	・配膳、清掃、係活動、通学方法など、その他の項目について記載する。
	〈配慮事項〉	・各項目に対する配慮事項を簡潔に記入す
学習に関すること	○国語・数学（認知面）について ○表現活動（美術、音楽）について	・できることを簡潔に記載する。（国数、課題別、朝の課題等）
	○作業学習について ○その他（学習態度等）	・１～３年の所属作業班を記載する。 ・取り組んだ内容を簡潔に記載する。
	〈配慮事項〉	
身体・運動に関すること	○体全体の機能について	・身体的特徴（麻痺の有無等） ・姿勢の保持
	○運動技能、体力面について	・グループ体育（ボール運動を含める） ・ウォーキング ・水泳指導 ・朝の運動での取組 ※駅伝のＡチームだった生徒は「Ｈ○○駅伝Ａチーム」などと記載する。
	〈配慮事項〉	

社会性に関すること	○行動調整（集団行動） ○コミュニケーション 〈配慮事項〉
好きなこと（余暇）	
配慮事項	

・指示理解の方法（言葉、文字、写真カード等）
・意思伝達方法（言葉、指さし、サイン、クレーン等）
・挨拶、返事（報告）
・距離感

・上記に当てはまらないその他の事項について記載する。

3　長期目標

・中学部３年間で達成を目指す目標を設定する。
・３年間で修正の必要が生じた場合には、保護者と話をした上で変更する。

（１）日常生活に関すること
・自分で一口量を調整し、バランス良く食べる。
・一人で活動の流れを理解して取り組んだり、活動
（２）学習に関すること
・平仮名を覚え、一文字を合成，分解して単語になることを知り、読み書きをする。
・身近な物の名前や日常使用する動作語（動詞）や形容詞の名称とそれを表す文字を覚える。
・具体物やドットを用いて、10 までの数量の比較や合わせた数（足し算）についての理解を深める。
・手順表や手本を手掛かりにして、自分で考え、自分から活動に取り組む。
（３）身体・運動に関すること
・日常の生活動作や体育で取り組む運動を通して、体幹やバランス感覚を鍛える。
・２時間程度の活動に継続して取り組める体力をつける。
（４）社会性に関すること
・活動におけるルールなどを含めた適切な見通しをもち、みんな（友達）と一緒に参加する。
・自分から報告や相談をしたり、約束を守ったりする態度を身につける。

４　前期の目標

	長期目標	前　期　目　標	手　立　て
日常生活の指導		〈　　〉 ○着脱、食事、衛生、清掃、整理整頓などについて、〈　〉内に項目を記入する。	※係活動は日生→学活に記入する。 ※掃除は学活→日生に記入する。 （要録に合わせるため）
作業（○○班）			
国語・数学（グループ）			
国語・数学（個別）			※朝の学習や課題別学習等で個別に国語・数学的内容を指導している生徒にのみ枠を設けて記入する。（国数の取り組みの内容で補いきれない部分についての補充など）
保健体育		○朝の運動（駅伝）、体育の授業、ウォーキングなどについて	
音楽		※観点を入れる。 ＜歌唱＞ ＜器楽＞ ＜身体表現＞ ＜鑑賞＞	
美術		※観点を入れる。 ＜造形＞ ＜絵画＞ ＜鑑賞＞	
学級活動		○係活動について	※掃除は学活→日生に記入する。 ※係活動は日生→学活に記入する。 （要録に合わせるため）
		○（必要に応じて）	※単元を組んでの活動があれば、それについても記入する。（お金の学習、進路学習など）
自立活動		＜　　＞ ※＜　　＞内に領域を記入 ※領域が二つにまたがる場合は、両方を記す。	※心理的な安定　※身体の動き ※コミュニケーション　※人間関係の形成 ※環境の把握（国語・数学的な学習を除く） ※健康の保持

5　前期の評価

	長期目標	前期目標	手立て	前期の様子と課題
日常生活の指導			＜追加＞ ＜変更＞	
		＜変更＞○月○日		
作業（○○班）				
		＜追加＞○月○日		
国語・数学（グループ）				
国語・数学（個別）				

	長期目標	前　期　目　標	手　立　て	前　期　の　様　子　と　課　題
保健体育				
音楽				
美術				
学級活動				
自立活動				

特別活動等の記録
※前期の内容 ＜運動会＞ ＜校外学習＞ ＜宿泊学習＞２年 ＜調理＞ ＜つくしタイム＞ ＜スポーツ大会＞２年
※後期の内容 ＜つくし祭＞ ＜修学旅行＞３年 ＜駅伝大会＞ ＜調理＞ ＜つくしタイム＞

・一つの項目について、２～３行程度で簡潔に記入する。
・基本項目は学部で統一。
・各学年の活動に合わせて項目を設定する。
・生徒会活動なども入れてよい。
※欠席の場合は、練習の様子を書いたり、項目ごと削除したりする。

総合所見
※普段の学校生活の様子や友達、教師との関わり、今後の課題や見通しなどを総合的かつ端的に記入する。

第四章　高等部

Ⅰ　高等部の生活　・・・・・・・・・・・　８４

Ⅱ　学部研究の目的　・・・・・・・・・・・　８７

Ⅲ　学部研究の方法　・・・・・・・・・・・　８７

Ⅳ　結果と考察　・・・・・・・・・・・　８７

Ⅰ　高等部の生活

１　学部目標

〈確かな学力〉　基礎的な知識・技能を身につけ、卒業後の社会生活に向けて主体的に生きる力を育てる。

〈豊かな心〉　周囲の人や物事に対して、確かな認識と豊かな心をもち、表現できる力を育てる。

〈健やかな体〉　健康に留意し、社会での生活に必要な体力の維持、向上に努める。

〈キャリア教育〉働く喜びを知り、仲間と力を合わせて意欲的に取り組める力を育てる。

２　日課表

<table>
<tr><th colspan="2">曜日
時刻</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>分</th></tr>
<tr><td>8:40</td><td></td><td colspan="5">登校</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">9:00</td><td rowspan="2">1</td><td colspan="5">着替え（日常生活の指導）</td><td>25</td></tr>
<tr><td colspan="5">朝の会（学級活動）</td><td>25</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10:00
10:25</td><td rowspan="3">2</td><td colspan="5">朝の運動（自立活動）</td><td>25</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">国語／数学</td><td>25</td></tr>
<tr><td>10:35</td><td></td><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>3</td><td colspan="2">作業学習</td><td>職業／家庭
／
作業学習</td><td colspan="2">作業学習</td><td>50</td></tr>
<tr><td></td><td>4</td><td colspan="2">作業学習</td><td>職業／家庭
／
作業学習</td><td colspan="2">作業学習</td><td>25</td></tr>
<tr><td>11:55</td><td></td><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td>12:00</td><td></td><td colspan="5">給食・歯磨きなど（日常生活の指導）</td><td>50</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td>13:00
13:50</td><td>5</td><td>生活単元学習</td><td>１年　音楽
２年　美術
３年　保健体育</td><td>つくしタイム
(総合的な学習の時間)</td><td>１年　美術
２年　保健体育
３年　音楽</td><td>１年　保健体育
２年　音楽
３年　美術</td><td>50</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td>14:00</td><td rowspan="2">6</td><td>道徳</td><td>部活動
(総合的な学習の時間)</td><td>帰りの会
（学級活動）</td><td>部活動
(総合的な学習の時間)</td><td>委員会活動</td><td>25</td></tr>
<tr><td>14:25</td><td colspan="2">ホームルーム</td><td>14:30</td><td colspan="2">ホームルーム</td><td>25</td></tr>
<tr><td>15:00</td><td></td><td colspan="5">下校</td><td></td></tr>
</table>

３　高等部の紹介

高等部の学校生活では、学部の教育目標を受け、卒業後の豊かで自立的な生活を目指した支援を行っている。主な取組は以下のとおりである。

【朝の運動（自立活動)】

基本的には、２０分間走とストレッチ運動などの補強運動に取り組んでいる。個々の課題や目標に合わせて、内容を工夫しながら支援に当たっている。

【作業学習】

八つの作業班（園芸・石けん・紙工・染め物・農耕・縫製・木工・焼き物）で構成されている。作業学習を通して、働く力（意欲、体力、集中力、持続力、巧緻性、協力性、技能）を育てている。

【国語／数学】

各学年とも学習グループに分けて取り組んでいる。生活に必要な文字や数の力を養うことをねらいとし、ゲーム的な要素を取り入れた学習活動から履歴書を書く練習など、個に応じた目標を設定して支援の方法を工夫している。「健康の保持」「心理的な安定」「身体の動き」などに重きを置いた取組をしているグループもある。

【音楽】

表現では、主に歌の斉唱・合奏・和太鼓演奏・ダンスなどに取り組んでいる。鑑賞では、ＣＤや職員の楽器演奏により、様々な楽曲の鑑賞を行っている。学年集団での学習である。

【美術】

描画や造形活動などに取り組んでいる。個人やクラス共同での創作活動を行い、学校祭や校外作品展などで発表している。学級ごとの学習であるが、内容については学年で統一性をもって取り組んでいる。

【保健体育】

球技（サッカー・フットサル・ユニホック・ボッチャ)、水泳、陸上競技（リレー・障害走）など、様々な種目に学年集団で取り組んでいる。また、保健学習（歯磨き指導・性教育など）も行っている。

【職業】

職業に関心をもち､働く力や生活する力を身につけ､卒業後の生活や進路について学習する。また、進路先見学や現場実習を通して、将来の社会参加につながる力を伸ばせるように各学年で取り組んでいる。

【家庭】

家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全や衛生に気をつけながら調理実習を行っている。

食育学習を通して、食事の重要性、食の喜び、楽しさを理解したり、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につけたりしている。

【道徳】

自分自身に関すること、人との関わりに関すること、集団や社会との関わりに関すること、生命や自然、崇高なものとの関わりに関することを教育活動全般を通して取り上げたり、学習をしたりする

【総合的な学習の時間／特別活動】

部活動（火曜日・木曜日）

Ｔボール・キックベースボール・サッカー・ジョギング・ボッチャ・フライングディスク・音楽・読書の計八つの部活動に学部全体で取り組んでいる。

つくしタイム（水曜日）

ウォーキング・ダンス・スポーツ・美術・パソコン・音楽・和太鼓・映画鑑賞・ゲーム・ストレッチ＆ヨガの１０クラブに分かれ、学部全体で取り組んでいる。生徒個人の希望で参加クラブを決めており、余暇につながる活動である。

委員会活動（金曜日）

生活・保健・図書・放送・給食・美化・体育の７委員会に分かれて取り組んでいる。児童生徒会が中心となり、高等部の生徒全員が委員会に所属して活動している。

Ⅱ　学部研究の目的

1　個別の指導計画の書式について検討し、高等部案を作成する。

2　「職業・家庭」の授業内容について、本校高等部としての在り方を検討する。

Ⅲ　学部研究の方法

1　個別の指導計画について

（1）アンケートの実施

現在の書式の課題点を明確にするため、高等部職員を対象にアンケートを実施する。

（2）書式案の作成

アンケート結果を基に課題点を改善するとともに、併せて次期学習指導要領の改訂において重視される国語、数学等の教科学習に関する部分の変更を行い、研究部で試案を作成する。

（3）書式の提案

試案を高等部職員に提示して検討を行い、高等部としての書式を決定する。

2　「職業／家庭」の授業について

（1）職業科の授業内容の検討

本校の職業科の目標を達成するために、各学年の職業科担当の教師が中心となり年間計画を作成する。実践を重ねる中で随時話し合いを行い、生徒の実態と職業科の目標を照らし合わせながらより良い授業内容について検討する。

（2）課題の明確化と高等部における共通理解

各学年の実践を基に職業科担当の教師で検討を行い、課題点を明らかにする。また、授業内容の共通理解を図り、系統性・一貫性のある授業計画を作成する。

3　全校研究会

個別の指導計画と授業との関連、職業科の授業の在り方を検討するため、全校研究会を実施する。協議の柱は以下のとおりとする。

①授業の内容・目標から、事例生徒の目標や手立ては適切であったか。

②個別の指導計画が「本時の目標」に反映されており、関連を見ることができたか。

③職業科の授業から、小・中学部で行っている活動との関連が見いだせたか。

Ⅳ　結果と考察

1　個別の指導計画について

（1）アンケート結果のまとめ及び試案の作成

個別の指導計画に関するアンケートを行ったところ、以下の意見が出された。

・長期目標・短期（年間）目標は必要。保護者の願いを踏まえて何か統一できる指標から設定してはどうか。例えば学習指導要領を基本とし、キャリア教育や自立活動の資料を利用して目標にするのはどうか。

・長期目標のみでよいのでは。短期（年間）目標は前期・後期を合わせれば短期ということにならないか。

・目標をもっと端的に分かりやすく設定するのはどうか。（文章ではなく、箇条書きのような形）評価も◎、○、△などの指標にするのはどうか。

・生活年齢に合わせた目標を設定するのが難しい。

・授業の目標と個別の指導計画の職業科の目標が異なっているので、授業内容の整理と書きやすい書式を探ってはどうか。

・小・中学部からの引継ぎの面と社会へつなげていく面があり、卒業後につながる視点で書ける書式ができるといい。手だてごと引き継げるように。

・年度途中でも書き加えられるような書式にしてはどうか。

上記の意見を基に研究部で試案を作成し、試案について各学年で検討を行った。

（２）個別の教育支援計画・指導計画の解決すべき課題について

試案の検討過程において､様々な意見が出された。３つの視点からまとめたものを以下に示す。

① 誰にとっての「個別の指導計画」か

昨年度の研究の話合いの過程で挙げられた、引継ぎの難しさが、書式の再検討に至る出発点であった。引継ぎ資料として活用できる書式となることは、教師にとっての分かりやすさ・書きやすさを重視したものである。しかし、個別の指導計画は、保護者・生徒と教師・学校が共有すべきものであり、保護者にとって納得できるものでなければならない。教師にとっての書きやすさ・分かりやすさと保護者にとっての読みやすさ・分かりやすさのどちらに焦点を合わせるのか、また、それらをどのように両立させるかが課題であった。

② 目標設定における根拠と評価の客観性

個々の教師による書き方の偏りを少なくするため、各教科においては学習指導要領を根拠とした指導目標の設定と、指導内容の記載を提案した。しかし、量的な制約から、学習内容に対応する評価を記載する難しさ、実態に幅のある生徒に対する目標設定の困難さ等が課題として挙げられた。また、評価に際してこれまで以上に客観性が問われることになり、それをどのように担保するのかということについても話し合われた。また、一人一人の生徒の実態把握に基づく目標設定から始まるこれまでの授業づくりと評価は、その根拠が生徒にあったと言える。それに対し、学習指導要領から指導目標を設定した場合、教科としての内容が先行する授業づくりと評価になる側面があること、そうした授業づくりが、発達面で初期段階にある生徒に即したものになるかという懸念が出された。

③ 在籍生徒の多様性と統一書式の難しさ

本校高等部には発達面で様々な段階の生徒が在籍している。従来の書式は基本的に小中高共通のものであり、特に「近年増加している外部からの入学生に即したものであるか」という点がこれまでも課題となっていた。教育課程が同じであっても、学習内容や目標は個々の生徒によって大きく異なっている。多様な実態をもつ生徒とその保護者のいずれにも分かりやすく、教師にとって書きやすい、統一した書式を提案する困難さが挙げられた。

個別の教育支援計画・指導計画の作成においてどれも重要な視点であり、試案の作成に反映させるにはより多くの時間をかけて検討すべきものである。そのため、全校研究会では高等部案としての提案は行わず、現行の個別の指導計画と授業との関連について協議を行った。話し合われた内容を参考に、より分かりやすく活用しやすい高等部の試案を引き続き検討することとした。

（３）高等部内で検討された「個別の指導計画」試案

検討した試案を以下に掲載する。高等部で出された意見を集約し、良い点（◎)、悪い点（△)、検討事項（※）についても併せて記載した（資料１）。

（資料１）

平成２９年度　個別の指導計画（案）

１．願い及び様子

将来の生活、現在の生活への願い	＜本人＞ 就労した ＜保護者＞ 就職して、自立した生活を送ってほしい。

◎どういう生徒なのか、分かりやすいのであってもよい。

◎項目に分かれていると、書く内容があまりぶれない。分かりやすい。

２．29 年度の様子

△「短所」ではなく別な表現はない

年度当初の様子	全体的に	**＜性格＞**まじめで穏やかな性格である。 **＜長所と短所＞**コツコツと取り組むことが好きである。細かな仕事が得意である。その反面細かいところにこだわり過ぎてしまい、周りが見えなくなることがある。 **＜趣味・好きなこと＞**昆虫やは虫類、動物に興味があり、ペットショップに行くこともある。
	健康	**＜疾病・服薬＞**てんかんをもっており、朝晩に服薬あり。平成 28 年度、発作はないが、その前兆と見られる体調不良を訴えることがあった。30 分～1 時間休眠をすることで落ち着き、通常の活動に戻ることができている。 **＜身体の動き・姿勢等＞**姿勢が猫背である。
	日常生活面	**＜基本的生活習慣＞**着脱・食事・排泄・睡眠に関しては、おおむね自立している。食事に関しては量の調節も自分から伝えられる。睡眠においては起床時、目覚ましをかけて自分で起きるようになってきた。 **＜清掃活動＞**普段の清掃は、自分から取り組むことができ、隅々まで清掃することが出来る。 **＜身だしなみ＞**おおむね清潔であるが、時折ひげが伸びている、鼻をいじる、人前であくびをするなど、マナーに欠ける行為が見られる。服装は清潔である。 **＜挨拶・返事＞**意識をすると大きな声での挨拶や返事ができるが、忘れてしまうことが多く、小さい声になったり、うなずきだけになったりすることがある。 **＜報告・連絡・相談＞**決まったことに関しては、報告や連絡をすることができる。わからないことを相談することは課題である。
	コミュニケーション・社会性	**＜言語面＞**言葉でコミュニケーションがとれる。 **＜認知面＞**言葉だけのやりとりよりも具体的な視覚支援があると取組がスムーズである。複雑な事柄や臨機応変なことを理解するのは難しく、単純作業や繰り返しの内容は取り組みやすい。 **＜集団への参加＞**自分から積極的に参加することは少ないが、集団に所属することは嫌いではない。
	学習面	**＜作業面＞**活動には真面目に取り組み、丁寧である。仕事内容を伝えるのに、言葉だけでも指示は通るが、手本や見本があるとより理解が早い。スピードはないが、やっていくことで覚え、徐々にスピードも上がる。仕事のルールは遵守できる。 ３年次、木工班に所属。班長を務め、時間を見て仲間に終了の時刻を伝えたり、活動の内容を伝えたりしている。連絡や報告・相談を具体的に行うことができている。 **＜教科学習＞**漢字は小学[illegible]りであるが、基本的な四則計算はできる[illegible]ついて、何分後、何分前の計算は実際の時計がある方がイメージしやすく、計算できる。

△重度重複の生徒の書き方が難しい。

進路・実習等	１年次、老人ホームあずみ園で実習を行う。決められた仕事はきちんと行う。コミュニケーション面において課題がでた。 ２年次、あかね園で実習を行う。仕事は丁寧で確実であると評価を受ける。基本的な挨拶や返事、声の大きさ等で課題が残る。 ３年次、舞浜コーポレーションで実習。仕事面については高く評価を受ける。報告・連絡・相談の声の大きさについて課題が残る。
配慮事項	てんかんの発作が平成２７年度まで起こっている。学校では平成２６年度に発作が認められた。転倒する可能性があるため、できるだけ周りに教員がいるようにする。

２　長期目標

◎項目があると視点が定まるのでよい。

※三年後、どうなってほしいかという目標を入れるのはどうか。

長期目標
○（学習面） ・漢字や計算など基礎的な学力を高めるとともに、日常生活に必要な知識・技能を身につける。 ・音楽や美術などの教科学習を通して、自分の興味のあるものを理解し、趣味に広げられるようにする。 ○（身体運動） ・基本的な筋力、持久力、走力などを身につけ、卒業後も自分でできる体づくりを覚える。 ○（コミュニケーション） ・活動に必要な、返事、挨拶、報告・連絡・相談などの基礎的な力を身につける。 ・友達との接し方、教師との接し方を学び、適切な距離で自分からコミュニケーションを図る。 ○（日常生活） ・時間や社会人としてのマナーを意識して、様々な活動に取り組む。

※進路の項目も長期目標の中に入れてはどうか。
△長期だけにしてはどうかという意見が多く、反映したが、長期をもう少し抽象的（大きな枠で）捉えることで、年間目標が書きやすくなるのではないか、という意見もあった。
◎長期だけでも項目があれば、人によってぶれないのでよいのではないか。

3　前期目標

指導目標	前期指導目標	手だて	様子と課題
日常生活	マナー ○マナーについて「良い」「悪い」を判断することができる。 返事・挨拶 ○場面に応じた声の大きさで、返事や挨拶をする。	○人前でのマナーについて具体的な動画を示し、客観的できるようにする ○返事や挨拶の大切さを繰り返し伝えていく。声大きさについてその確認する	
作業学習（木工班）	製作面 ○切断機を安全に扱い、仕上がりを意識して取り組む。 態度面 ○販売会で来客とのやりとりをする。	○切断機の扱い方、危険の伴いやすい場面を事前に伝え、安全を確保する。 ○長さをそろえるため、切断後にメジャーで測ることを伝え、初めは教師と一緒に行う。 ○製品の受渡しや挨拶、丁寧な言葉遣いを繰り返し練習する。	
自立活動	状況に応じたコミュニケーションに関すること ○「相手のペースに合わせる」「相手の気持ちを考える」といった「コミュニケーションをする相手」のことを考えて会話をする。	○担任以外の教師と話す時間を設定し、テーマを決めて話をする。相手がどのように感じたかをそのときに伝えるようにする。	

◎項目があると分かりやすい。

△作業のこの項目は、教師の視点なので、必要ないので

教科	学習内容とつけたい力	様子と課題（手だても含めて）
国語・数学	目的に応じて概要を適切に読み取る力 ○説明文の読み取り ○生活の中で使用されるマークの読み取り。 いろいろな語句を読み適切に意味を読み取る力 ○慣用句 金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かる力 ○時計の読み方（目的地までの時間や出発時間の計算） ○領収書や通帳の見方	
音楽	合唱：歌詞の内容や曲想などを味わいながら歌う ○３６５日の紙飛行機 合奏（担当：キーボード）旋律楽器に親しみ，その演奏の仕方に慣れ，気持ちを込めて合奏をする ○世界に一つだけの花 表現：音楽を聴いて曲の特徴などを感じ取り，創造的に身体の動きで表現したりする ○ダンス（カラーバリエーション）	

△指導要領の項目内容だが、重度の生徒には難しい。
△行っている授業内容を記載するのみなので、手だてや具体的な授業目標がないと担任以外が指導する教科については保護者面談の際に伝えられない。

※会議をもち、共通理解、もしくはおおよその学習内容を担任に伝えておくようにすることで、それは解消していくのではないか。
しかし、実質的に会議の時間をとることが難しいということもある。

教科	学習内容とつけたい力
美術	造形：経験や想像をもとに、創造的に作品を作ったり、それらを飾ったりする ○アレンジ時計作り。 ○革製品の製作。
職業・家庭	職業生活に必要な実際的な知識を深める ○公共のマナー・ルール ○お金の使い方 ○困ったときの対処法 職業生活に必要な健康管理や余暇の計画的な過ごし方についての理解を深める ○余暇の過ごし方 被服，食物，住居などに関する実習を通して，健康で安全な生活に必要な実際的な知識と技能を習得する ○調理実習（食） ○コンビニの利用の仕方（食） ○季節や場面に合わせた服装（衣）
保健体育	球技：決まりやいろいろなスポーツのルールなどを守り，友達と協力し、すすんで安全に運動をする ○ポートボール ○サッカー 性教育：心身の発育・発達に応じた適切な行動や生活に必要な健康・安全に関する事柄の理解を深める ○人の誕生の仕組み 基礎運動：運動を通して，体力や技能を高める ○朝の運動（20 分間走） ○駅伝練習
特別活動・総合的な学習の記録（様子も記入。それぞれ 2～3 行程度）	
＜つくしタイム＞ヨガストレッチクラブに所属。 ＜委員会＞美化委員会に所属。 ＜部活動＞キックベースボール部に所属。スポーツ大会では、 ＜学級＞（係活動など）	
総合所見	

△現段階で、高等部のこの力まで達成するのが難しい生徒は他学部（中学部）としてのねらいをいれるのかどうか？

△職業科・家庭科で分けた方が良い。

△授業内容を全て記載すると、様子も全て必要になるのではないか。そうなるとさらに量も増えるのではないか。
→シラバスがあればそれでよいのではということにならないか。

△この書き方だと、評価が◎、○、△などになるのか？そうすると、達成できない生徒は常に△になるのでは。また、その評価の基準が明確にならないと評価できない。

※目標については今まで通り記載し、その後にカッコ書きなどでつけたい力として掲載していくのはどうか。

△今までのように実態に合わせたものでないと、保護者にも分かりづらいのでは。また、連絡帳ではないので、事前に手だてをしっかりと書くということが大切なのではないか。

◎ここはこれでよいのでは。

※修正の際の手続きが煩雑。もう少し分かりやすく。
※高等部は似たような書類を何度も記載、作成する。例えば、この 1 枚目の部分を高等部の生徒全員作成する「プロフィールシート」に使用できないか。そのまま使用できるのがよいが、せめて、コピー＆ペーストくらいの仕事量になるとよい。

２　「職業科・家庭科」の授業について

（１）　各学年の取組

各学年における生徒の実態差が大きいため、職業科・家庭科担当の教師を中心に各学年の生徒の様子、職業科・家庭科としてつけたい力などを考慮して学年ごとに年間計画を作成した（資料２）。授業内容については随時見直しを行いながら、計画を基に実践に取り組んだ。

（２）　全校研究会

全校研究会で学年ごとに授業を展開した。小・中学部での活動との関連や職業科の授業の取組について協議を行った（資料３）。

（３）　職業科・家庭科の授業の課題点

全校研究会での協議を受け、高等部全体で職業科の授業について振り返りを行い、課題として以下の３点が挙がった。

① 職業科としての表記と職業科の意義

今年度は「職業・家庭」と表記したが、高等部の教科として扱うのであれば「職業科」「家庭科」と分けて表記し、教科としての目標や意義を明確にしていく。

② 職業科・家庭科の授業の系統性と授業内容の検討

今年度は各学年で年間計画を作成したため、授業内容については生徒の実態に応じた取組をした学年、職業科として押さえるべき内容を授業の中心とした学年と、取組に幅があった。高等部３年間で学習が積み重なるよう、系統性のある内容にする必要がある。そのために、学習指導要領で求められる内容を網羅する一方で、生徒の実態に合わせた授業づくりの工夫が求められる。

③ 来年度に向けて

授業を組み立てるにあたっては、職業科の担当教師を中心にしながら高等部全体で計画を立案する。その際に他校の実践研究を参考にしたり、校内研修の講師に助言をいただいたりしながら、本校としての職業科の在り方を探っていく。

（資料２－１）

高等部１年生の取組

高等部の教育課程の中の職業・家庭の授業は年間 17 回、第 2、4 水曜日の午前中（10：35～11：55）に行っている。そのうち 15 回は職業科、2 回は家庭科の内容を学習している（調理実習は年に 2 回、別時間を確保）。

1 学年では３５名を発達段階および将来の進路希望を考えた三つのグループに分けて授業を行っている。１グループは主に企業就労や職業訓練、２グループは就労継続支援Ａ型およびＢ型事業所、３グループは生活介護事業所を視野に入れた生徒で構成されている。大まかな題材はどのグループも共通であるが、それぞれのグループの成員を考えて柔軟に内容を変えて取り組んでいる。

学期	月	内容	
		１・２グループ	３グループ
一学期	４ ５ ６ ７	**オリエンテーション/自分について知る** ・1 年間の職業家庭の内容を知る ・現在の自分について見つめ直す **身だしなみ** ・健康面とエチケットを考えて、手洗い、汗の始末、洗顔、整髪、歯磨きを適切に行う **家庭生活①調理器具の使い方（３グループ共通）** ・調理器具の名称と使い方を知る **2 年生の校内実習の見学（３グループ共通）** ・後期に行う校内実習に向けて、実際の活動の様子を見学し、働くことへの心構えをもつ **社会生活のマナー** ・公共の乗り物でのマナー、レストランでのマナー、病院の利用の仕方などを考える **学部進路学習（３グループ共通）** ・「高 3 現場実習報告会」	**身だしなみ** ・清潔感を保つための身だしなみの整え方（ハンカチ携帯・爪やひげの手入れ・手洗いやうがい等）を知る **挨拶** ・時間や状況に合わせた挨拶の仕方を知る **働く人たち** ・学校で働く人々（事務職員・給食調理員・用務員）の様子を見学する
二学期	９ １０ １１ １２	**卒業後の進路について** ・卒業後の進路について考える **学部進路学習（３グループ共通）** ・「卒業生の話を聞こう」 **家庭生活②栄養について（３グループ共通）** ・健康な体をつくるために必要な栄養のとり方を知る **校内実習事前学習（３グループ共通）** ・校内実習の意義と実習の内容を知る **働く人の生活** ・学生生活と働く人の生活の違いを知る **進路先見学事前・事後学習（３グループ共通）** ・見学を通し、将来の生活に見通しをもつ ・見学でのマナー	**就業体験** ・ペットボトルのラベル剥がし ・分別 ・ごみの分別・捨て方 ・清掃（雑巾の絞り方・机拭き） ・割り箸の袋入れ **社会人の生活** ・選挙と投票 ・卒業後の、人との関わり
三学期	１ ２ ３	**人との付き合い方（インターンシップ事前学習）** ・他人とのコミュニケーションの取り方、正しい距離の取り方を考える（インターンシップでの職場での話し方等を知る） **家庭生活③買い物（３グループ共通）** ・日常生活の買い物の方法を知る **選挙について** ・選挙の仕組みと責任について知る **健康管理** ・将来にわたって健康に過ごすために必要な事を知る **1 年間のまとめ** ・１年間の学習を振り返り、確認する	**余暇の過ごし方** ・「同窓会」のお知らせの返信方法 ・相談機関・結婚・グループホームについて ・コーヒー・紅茶のいれ方 ・「カラオケをする」「コンサートに行く」「映画を観る」「電車に乗る」「旅をする」「電話で友達と話す」など

（資料２－２）

高等部２年生の取組

高等部の教育課程の中の職業・家庭の授業は年間 17 回、第 2、4 水曜日の午前中（10：35～11：55）に行っている。そのうち 15 回は職業科、2 回は家庭科の内容を学習している（調理実習は年に 2 回、別時間を確保）

2 学年では 41 名を発達段階および将来の進路を考えて、3 つのグループに分けて行っている。1 グループは主に生活介護事業所を視野に入れた生徒、2 グループは就労継続支援Ａ型およびＢ型を進路先に検討している生徒、3 グループは主に企業就労や職業訓練を目指している生徒で構成されている。それぞれのグループの実態に合わせ、題材を考えて取り組んでいる。

学期	月	1 グループ	2 グループ	3 グループ
1学期	4 5 6 7	**役割分担して仕事をしよう！** （役割交代，受注作業） **作業習慣を身につけよう！** （いろいろな受注作業） 最後まで仕事に取り組む。 **余暇活動を広げよう！** ・見る活動（本・パネルシアター） ・役割交代（歌） ・ゲーム（ボール送り）	**オリエンテーション** ・自己紹介 **話を聞いて、** **レッツ　トライ！** **＜折り紙を通して＞** ラジオ 体操 清掃	**オリエンテーション** ・自分について理解 ・将来の夢 **働くことを考えてみよう** ・「働く」こと ・大事なことは **校内実習に取り組もう** ・先輩たち（昨年度）の様子 ・今年の校内実習について **現場実習について知ろう** ・3 年生現場実習報告会
2学期	9 10 11 12	**役割分担して仕事をしよう！** ・仕事の分担、協力 **作業習慣を身につけよう！** （いろいろな受注作業） ・最後まで仕事に取り組む。 **余暇活動を広げよう！** ・見る活動（本・パネルシアター） ・役割交代（歌）・ゲーム（ボウリング） **衣類を畳もう！** ・靴下、ハンカチなど。 **色々な衣類を身につけよう！** ・軍手、マフラーなど	**話を聞いて** **レッツ　トライ！** ・折り紙を通して **人のために、自分のために作ろう** ・雑巾を縫って、掃除 **相手に伝わるように話そう** ・電話対応の仕方	**卒業後の生活を考えよう** ・卒業生の話を聞く **実習先について知ろう** ・地図を見て、実習先を調べる **実習に取り組もう** ・実習中のマナー ・面接・電話応対 **実習中の生活** ・実習中の生活と普段の生活の比較
3学期	1 2 3	**役割分担して仕事をしよう！** 仕事の分担、協力 （役割交代，受注作業） **作業習慣を身につけよう！** （いろいろな受注作業） 最後まで仕事に取り組む。 **余暇活動を広げよう！** ・見る活動（本・パネルシアター） ・役割交代（歌） ・ゲーム（椅子取りゲーム） **衣類を畳もう！** ・靴下、ハンカチなど。 **色々な衣類を身につけよう！** ・軍手、マフラーなど **・洗濯をしよう！** ・ハンカチ、靴下など	**話を聞いて** **レッツ　トライ！** ・折り紙を通して **人のために、自分のために作ろう** ・雑巾を縫って、掃除 **相手に伝わるように話そう** ・電話対応の仕方	**働く人の生活** ・職種を調べる ・余暇 ・給料 **経済** ・夢を実現する給料 **進路のまとめ** ・3 年生に向けて ・将来どう過ごすか（再）

（資料２－３）

高等部３年生の取組

職業の時数については高等部全体で年間 17 回と統一されている。うち、高等部３年生はオリエンテーションと最後のまとめの２回以外に職業科を 11 回。家庭科を４回行っている。

職業科では、主に職業生活に必要な実践的な知識を学ぶ学習を２グループ展開（A、B グループ）で行っている。A グループは企業就労、就労継続支援 A 型および B 型を進路先に検討している生徒、B グループは生活介護事業所を視野に入れた生徒で構成されている。

家庭科では被服、住居、食物の分野において、必要な知識を、実践を通して学ぶ学習をクラスごと、あるいは授業の内容によっては学年全員で行っている。

学期	月	授業内容	
		A グループ	B グループ
一学期	4 5 6 7	**オリエンテーション** ・社会人に必要なスキルチェック **清掃とゴミの分別について** ・家庭ゴミの出し方・清掃の仕方（T 字ぼうき、雑巾、水回りの清掃） **社会人としてのマナー** ・マナー○×クイズ・自分を省みる（写真） ・ワークシートで振り返り **選挙権について** ・選挙のしくみ ・松戸市選挙管理委員の方の話 ・選挙のロールプレイング **公共のマナー～飛行機編～** ・飛行機搭乗までの流れ・搭乗のロールプレイング・機内でのマナー○×クイズ **現場実習報告会**	**オリエンテーション** ・社会人に必要なスキルチェック **清掃とゴミの分別について** ・家庭ゴミの出し方・清掃の仕方（T 字ぼうき、ぞうきん、水回りの清掃） **社会人としてのマナー** ・マナー○×クイズ・映像で振り返る →後半クラスでマナーの振り返りや実習日誌の記入を行う。 **選挙権について** ・選挙のしくみ・松戸市選挙管理委員の方の話・選挙のロールプレイング **公共のマナー～飛行機編～** ・飛行機搭乗までの流れ・搭乗のロールプレイング・機内でのマナー○×クイズ **現場実習報告会**
二学期	9 10. 11. 12.	**調理実習事前学習** **進路学習** ・卒業生の話・ビック・ハート松戸の方の話 **季節や TPO に合った服装** ・季節での服装の違い・冠婚葬祭の服装 ・場面ごとの服装・デモンストレーション **公共のマナーについて** **～電車やバス、エレベーターでのマナー～** ・普段の様子を振り返る・正しいマナーについてワークシートで学ぶ **困ったときの対処法** ・職場でトラブルがあったときの対処法、離職後の相談窓口・インターネットでのトラブル **公共施設の利用の仕方** ・市役所の利用の仕方・病院での医者との会話 ・美容院・理髪店の利用の仕方（ロールプレイ）	**調理実習事前学習** **進路学習** ・卒業生の話・ビック・ハート松戸の方の話 **季節や TPO に合った服装** ・季節での服装の違い・冠婚葬祭の服装 ・場面ごとの服装・デモンストレーション **公共のマナーについて** **～電車やバス、エレベーターでのマナー～** ・普段の様子を振り返る・正しいマナーについてワークシートで学ぶ **公共施設の利用の仕方（その１）** ・公共施設の利用の仕方→南部公園の図書館を利用する。 **公共施設の利用の仕方（その２）** ・郵便局を利用する。（クラスの人数分の年賀状を購入する。）
三学期	1 2 3	**お金について** ・お金や電子マネー等の扱いや管理、貯金の仕方 ・お金の偽造防止技術について **お金について** ・銀行に見学・実際に ATM を利用 ・コンビニで買い物学習 **余暇について** ・自分の趣味について話をする。・好きな余暇活動に分かれてそれぞれの時間を過ごす **まとめ** ・１年間を振り返る・講師の講演 ・クラスでワークシートの振り返り	**お金について** ・お金や電子マネー等の扱いや管理、貯金の仕方 ・お金の偽造防止技術について **お金について** ・ファーストフード店に行き、お金のやりとりをする。 **余暇について** ・自分の趣味について話をする。・好きな余暇活動に分かれてそれぞれの時間を過ごす **まとめ** ・１年間を振り返る・講師の講演 ・クラスでワークシートの振り返り

（資料３－１）

高等部１年生　「職業科」学習指導略案

展開場所　高等部１－Ａ教室

展開時間　10：35～11：55

授業者　高橋司行(T1)加瀬部芽ぐむ(T2）野村功美(T3)

生徒　　高等部１年生１グループ（１０名）

１　題材名「働くために必要なこと」

２　題材について

本題材は、自分自身の課題として、働くために必要なことは何かについて考え、社会人として必要な力を身に付けようとしたり、実践しようとしたりする意欲をもたせるものである。

（１）生徒の様子

本グループの生徒は、全員が中学校の特別支援学級を卒業して本校に入学した生徒である。本校を第一希望に進学した生徒もいるが職業課程のある特別支援学校への入学を希望した生徒も多い。保護者が希望する進路としては企業就労、就労移行支援、就労継続Ｂ型等が主である。高等部１年生の中では認知面での理解力は高いものの､卒業後の進路先や生活など将来に関しての具体的なイメージや、社会に出る前段階にある高校生としての自覚がまだ育っていない生徒がほとんどであった。しかし、前期からの職業科の授業の取り組みや校内実習の経験等を通し、徐々にではあるが「働くこと」についての意識が高まってきた。

発語がやや不明瞭であったり、言葉の理解や表出に時間がかかったりする生徒もいるが、ほぼ全ての生徒が言葉でのコミュニケーションを主な伝達手段として使用し、身辺面も自立している。

（２）題材設定の理由

1 学年の職業の学習では、よりよい進路選択に向けて障害特性を含めた自己理解と、自分の将来を前向きに切り開いていくための自己肯定感を養うことを大切にした授業に取り組んでいる。

1 学期は社会に一歩近づいた高校生として、職業と家庭生活の両面から身だしなみやマナーを中心に学習した。さらに 2 学期は「働くこと」へのイメージを育て、そのために必要な技能や態度を学ぶことに主眼を置いて授業を組み立てた。9 月は「働く人の生活」として高校生と社会人との生活の違いについて学ぶ中で、企業就労をした卒業生と障害者就業・生活支援センターの方を招いて話をしていただく機会を得た。身近な存在である卒業生の生活や仕事ぶりに接し、職業人として必要なこと等の話を聞き、生徒たちは卒業後の生活を身近に感じることができた。10 月に「卒業後の進路」として卒業後の様々な進路先について学習し､さらに 11 月には校内実習として一日を通して働く生活の経験を重ねた。

2 学期最後となる本時の授業では、働くことについてさらに理解を深め、自分自身の課題として捉えること、そのための自己理解につながる動機づけを高めることを願っている。社会人として必要なジョブコーチからのメッセージを受け止め、自分自身の課題として考える契機としたい。また、実際に企業の朝の発声の練習を行うことで、1 時間の間にも自分が変われたことの実感が湧き、頑張ればよりよい自分になれるのだという自信がつくと考える。授業の進行にあたっては、「挨拶、返事」「時間を守る」「自分の気持ちを伝える」「報告・連絡・相談」等、社会人として必要な力をより意識して取り組んでいる。

３　本時の指導

（１）全体目標

〇社会人として身につけておかなければならないことは何か考える。

〇社会人に必要な事柄を実践していこうという気持ちを養う。

（２）授業展開

時配	学習活動	指導上の留意点	教材･教具等
2分	○着席 ○挨拶 ○出席確認	・全員指定の場所に着席して、当番に注目するように促す。（座席表を見ながら自分の席に座る練習は毎回行うようにする。）	座席表 ファイル 筆記用具
30分	○働くために必要なことに気づく ・ワークシートの「A さんの話・B さんの話」の朗読を聞く。 ・先輩のビデオを見る。 ・ワークシートの話と先輩のビデオから、社会人として必要な事を考え発表する。 ・ワークシートに記入する。	・「A さんの話・B さんの話」は教師が朗読する。 ・9 月の卒業生の話のビデオの冒頭部分を使用する。自分にとって近い将来のことであることを意識できるようにする。 ・考えたことを自由に書く程度にとどめる。 ・生徒の発表した内容を板書する。 ・1 時間の間に一人 1 回は挙手できるように、T2、T3 が机間指導を行い自信のない生徒にヒントを出すなどの支援をする。	ワークシート 大型モニター DVD プレイヤー DVD「卒業生の話」
28分	○就労するために必要なことを知る。 ・ジョブコーチからのメッセージ「高等部 1 年生から身につけてほしいこと」を読む。 ・就労のためのチェックシートに取り組む。	・1 項目ごとに生徒を指名し内容の確認をする。 ・今回は、基本的な事柄のみを扱う。 ・項目ごとに説明や発表を行う。	チェックシート
10分	○挨拶の発声練習を全員で行う。 ・発声練習の後、一人ずつ発表する。	・初めは教師が声出し役をし、モデルを示す。 ・練習の結果、より大きくはっきり発声できるようになった生徒を大いに称賛する。	発声練習用の模造紙 プリント
10分	○本時の学習内容のまとめ ・もう一度ジョブコーチのアドバイスを思い出して発表する。 ・ファイルの提出 ○挨拶	・思い出せるようにヒントを出す。 ・ファイルに書いたものには評価を書いて次回までに返却する。	

４　評価

・就労のためのチェックシートに取り組むことで、社会人として身につけておかなければならないことを知り、自分自身に必要なことを考えることができたか。
・発声練習に取り組み、より大きな声、はっきりした声で挨拶ができたか。
・生徒一人一人に対する支援や手立ては適切であったか。（教師の視点）

事例生徒の目標及び手立て

	授業の様子	目標	手立て
A	ＭＴの話をよく聞いており反応は良い。指示理解に時間がかかることや、文章を組み立てる力に弱さがあり、ワークシートへの記入など個別に支援が必要なことがある。	○社会人として必要なことを知る。 ○自分の特性を考え、自分自身に必要なことを考える。	○身近な例を挙げ具体的に考えられるようにする。 ○理解しやすいように質問を言い換えたり、具体的な場面を想定したりする。
B	授業に集中して参加できる。ＭＴからの質問に対し、経験をもとに自分なりに考えることができ、積極的に発言する。やや時間がかかることがあるが、ワークシートへの記入もスムーズにできる。	○自分の特性を考え、自分に必要なことを考える。 ○社会人として必要なことを実践しようとする。	○理解しやすいように質問を言い換えたり、具体的な場面を想定したりする。○具体的な場面を想定して、実践しやすくする。
C	ＭＴの話をよく聞いており反応は良い。気になることがあると、その話題を周囲に話したり集中力を欠いたりすることがある。ワークシートへの記入はスムーズだが、定型的になりがちである。	○自分の特性を考え、自分に必要なことを考える。 ○社会人として必要なことを実践しようとする。	○理解しやすいように質問を言い換えたり、具体的な場面を想定したりする。 ○具体的な場面を想定して、実践しやすくする。

高等部１年生　分科会協議記録

〇授業内容・目標について
・「考え、話し合い、伝える」が良かった。
・挨拶の発声練習が良かった。
・実態から、本日のチェックは〇になる。自分の気持ちを外で伝えるのは難しい（課題）。
・自分を見つめ直す、自分で自分のことを考えるのは高度。どのくらい自分のことを分かっているか？
・挨拶にポイントを置いたのはなぜ？挨拶で大事なのは大きい声だけではない。今後の展開は？
・「自己チェック→目標設定」は興味がもてた。「どんな目標を」「なぜ」たてたのかを知りたかった。
・実践内容は、その前の学ばせたい内容のものにした方が分かりやすい。発声ではなく、働くために必要なことにする等。
・２グループは同じ内容だが、将来の仕事についてイメージするのが難しい。
・働くために必要なことについて、生徒からはどのような意見が出たのか？
・120 分の授業を（※80 分）休憩なし？全員が着席していて自立していると感じた。
・ワークシートの内容は、就労を考えるならこの時点で取り上げるのは遅い。
・社会人に必要なことを①知る②行える③意欲をもつ、ことが必要。③についての工夫は？
・学習内容を絞っても良い。情報が多く、目標に結びつけるのが難しい。観点を提示しても良い。
・先輩の話を聞くことは、自分のことを考えるきっかけになる。
・メッセージを見る・チェックシートで考える・発表する、という取り組みは良い。自分を評価する振り返る取り組みは大切。
・生徒の話し合いの活動が良い、
・就労を意識し、自分自身の課題について見つめ直す機会になっていた。
〇個指
・職家の目標（校内実習）と今回の授業の目標とはリンクしていない。
・腰の学習面から本人の能力が読み取れない。プリントの内容は個々に応じて作成する方が良い。
・細かな引継ぎは口頭で、個指はポイントを絞り明確に記入されているものが良い。
・記載者による内容の差異が大きい。書式の工夫とともにそちらへの取り組みは？
・職業は年間 17 回行っており大切なことなので、個指の目標に入れるべき。
・職家は、その時の担任が引き継ぐべき内容を目標にすればよい。
〇小・中との関連
・小は自己選択・余暇、中は自分の気持ちを伝え教師と一緒に考える。
・約束を守る・身だしなみなど小にはベースになる要素がある。
・小中に多い、初期レベルにある子どもの職業について知りたい。
・①挨拶②身だしなみ③人に届く声で話す→毎日の挨拶で小でも③は$取り組んでいる。
・学習内容が道徳と関連する。高としての押さえの違いは？
・コミュニケーションをとること、人柄の良さが大事。
・どんな方法でも自分の気持ちを伝えることが大切。
・教師への連絡・普段からの丁寧な挨拶（「おはよう」→「おはようございます」）。
・緊張感を出し、内容をもっと厳しくする。発声練習を実際にやることが大事。
〇その他
・精神疾患をもつ生徒の就労の観点を職業や自活に入れる。
・職業・キャリア・進路・作業の内容を整理する。

（資料３－２）

高等部２年生　職業科　Ｂ組グループ　学習指導略案

指導者　池田　満明（Ｔ１）　臼井真紀江（Ｔ２）

江原　菜摘（Ｔ３）

場　所　高２Ｂ教室

生徒数　９名

１　題材名　「話を聞いて、レッツ　トライ！」

２　題材について

本題材では教師の説明を聞き取り､それに従ってすすんで活動に取り組むことを目標としている。そして活動を進める中で、分からないことがあったら質問したり、活動が終わったら報告したりしてほしい。生徒自身の考えで進めるのではなく、教師の指示を正しく理解して、正しく判断したり行動したりする生徒を育てていきたい。

（１）生徒の様子

本グループは、就労継続Ｂ型を進路先に希望する生徒が多く属している。着替え、食事、排泄などの基本的な生活習慣はほぼ自立しているが、理解力や作業能力、人との関わりにおいては実態に幅が見られる。それぞれの実態に合わせて適切な進路先へと進んでいけるよう、支援を行っていきたい。

高等部２年生の「職業科」は「勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる」という指導要領に基づき、各グループの生徒の実態に合わせて題材を設定し、学習活動を展開している。本グループでは「働く力を高めるためには作業能力的な面だけではなく、人と関わる面も大切である」と考えており、活動を行う中で教師や友達と適切なやりとりをしていく場面を作り、学習を進めてきた。

（２）題材設定の理由

前期に行われた校内実習や普段の生活の様子などから、ある程度の作業能力はあるものの、自分の思い込みで活動を進めてしまったり、分からないことや困ったことがあっても手を止めたままでいたりという姿が多くの生徒に見られた。そのようなことから、「教師の話をよく聞き、その指示どおりに活動を進める」「分からないことがあったら質問する」ということをねらいとした。

授業を行う中で、流れについては作業所で一般的に行われている「ラジオ体操」「作業的活動」「掃除」を行うこととした。また、教材については生徒が普段扱うことの多い「色鉛筆（色塗り）」や「折り紙」を使うこととした。色塗りでは全体での指示や個別の指示に従って、指定の色で指定された場所を塗り分けていく。折り紙では、折り方が図示された指示書を見てそれに従って折り進めていく。活動を進めていく中で、分からないことがあったら質問し、活動が終わったら報告するなど、すすんで活動する中にも人との関わりが交わされる場面を組み込んでいきたい。人とやりとりをする中で適切に活動を進めていくことを学んでもらいたいと思う。

３　本時の指導

（１）全体目標

○教師の話をよく聞き、指示に従ってすすんで活動する。

○分からないことや困ったことがあったら質問したり相談したりする。

○活動が終わったら報告する。

（２）授業展開

時配	生徒の活動	指導上の留意点	道具等
5分	○始まりの挨拶をする。 ・大きな声で行う。 ○本時の内容を聞く。 ・教師の顔を見て集中して話を聞く。	・Ｔ１は生徒を指名する。 ・Ｔ１は教師を見るまで話を待つ。見られない場合は見るように促す。 ・Ｔ１は分かりやすいように板書し、簡潔に説明する	ファイル ホワイトボード マーカー
75分	○ラジオ体操をする。 ・手本の教師をよく見て体操する	・Ｔ３は前方中央に立ち手本を示す。生徒が分かりやすいよう大きな動作を心がけ　る。 ・Ｔ１・Ｔ２は体操できるスペースが確保できているか確認する。狭いようであれ　ば助言する	CD　デッキ
	○色の塗り分けをする。 ・教師の指示をよく聞き塗る。 ・分からないときは質問する。 ・終わったら報告をする。 ・プリントをファイルに綴じ込む	・Ｔ１は１～３の色を指定したプリントを配布する。終わったら報告をするように　伝える。 ・手が止まっていたり、分からない生徒がいたりしたらさりげなく近づき、生徒からの質問を待つ。 ・報告を受けたら正しく塗ってあるか確認する。間違えていたら新しいプリントを渡し、やり直すよう指示する。 ・正しく塗れていたら、個別に４と５の色を伝え、塗るよう指示する。 ・全て正しく塗り終えたら、パンチで穴を開けファイルに綴じ込むよう指示する。 ・ファイルに綴じ込んだ生徒から、折り紙の活動に移るよう伝える。	鉛筆 色鉛筆 プリント 鉛筆削り 穴あけパンチ
	○折り紙を折る。 ・手順書を見て折り進める。 ・分からないときは質問をする。 ・終わったら報告をする。 ・台紙にのり付けし、ファイルに綴じ込む。	・手が止まっていたり折り方が分からなかったりする生徒がいたらさりげなく近づき、生徒からの質問を待つ。 ・終わった生徒は報告をするように伝えておく ・①が終わったら②を行うよう指示する。同様に②が終わったら③を行うよう指示　する。 ・①～③まで終わったら台紙にのりで貼り付けパンチで穴を開けてファイルに綴じ込むよう指示する。	折り紙 手順書①②③ 台紙 のり 穴あけパンチ
	○タイマーが鳴ったら掃除を始める。 ・担当に分かれてすすんで活動する。	・タイマーが鳴っても続けている生徒がいたら、掃除に移るように促す。 ・分担された場所を行っているか確認する。場所が分からない生徒には分担表を見て確認するよう促す。 ・それぞれの場所が終わったら机椅子を戻し、台布巾で机上を拭くように促す。	タイマー 分担表 雑巾 モップ ほうき ちり取り スポンジ 台布巾 バケツ
10分	○本時の振り返りをす　る。 ・本時の活動や感想を　発表する。 ○終わりの挨拶をする。 ・大きな声で行う。	・Ｔ２・Ｔ３は生徒が答えられないときは　ファイルを見るなどの手がかりを与える。 ・Ｔ１は始めの挨拶をした生徒を指名する。	ファイル

４　評価

○教師の話をよく聞き、指示に従ってすすんで活動できたか。

○分からないことや困ったことがあったら質問や相談ができたか。

○活動が終わったら報告できたか。

○生徒が理解しやすくするための教材・教具の工夫や支援は適切であったか。（教師の視点）

事例生徒の目標および手立て

事例生徒Ａ

学習の様子	本時の目標	手立て
基本的には指示待ちの傾向が強い。全体の指示では内容を聞き取れず、行動に移せないことが多い。個別に繰り返して伝えると手を動かし取りかかる様子が見られる。 分からなかったり困ったりした時には、その状態のままで止まっていることが多い。視線を教師に向け、言葉をかけてもらうことを待っている様子が見られる。 簡単な活動であれば、繰り返し行うことでやり方を覚えて、その都度指示を受けなくても活動を進めることができる。	○ラジオ体操では教師の手本を見て、同じように体を動かす。 ○色の塗り分けでは、できるだけ全体の指示で活動を始める。 ○折り紙では折り方が分からないときにヘルプカードを教師に渡す。 ○掃除では、分担場所の雑巾がけにすすんで取り組み、所定の回数が終わったら教師に報告する。	○手本をよく見るように言葉をかける。 ○体に触れて動きを促す。 ○全体の指示を出すときに特に本生徒を意識して説明する。 ○取りかかれないときは、個別に再度指示を出す。 ○手が止まっているときには、さりげなく近づき、カードを渡しやすい状況を作る。 ○カードを渡したら「分かりません」「教えてください」を言う言葉を促す。 ○動かないようであれば、分担表を示し、視覚的に確認できるようにする。 ○回数ボードに磁石を貼り、本人に渡す。

事例生徒Ｂ

学習の様子	本時の目標	手立て
全体の指示では注意が散漫になり、聞き取れないことがある。静かな環境や本人が落ち着いた状態のときは、話をよく聞き、全体への問いかけなどにも正しく答えることができる。 分からないことがあると、教師に聞くことができるが教師が近くにいなかったり、分からないことが本人にとって困らなかったりするときは独自の方法で進めることがある。 目の前の活動を終えると、「できました。」「終わりました。」などと報告することができる。誤っていたり、漏れ落ちていたりすることがあるが、一緒に正しいかを確認すると、自分で誤りや漏れ落ちに気づき、やり直すことができる。	○見通しをもち、落ち着いて活動に取り組む。 ○分からないことがあったら、手を挙げたり、教師を呼んだりする。 ○自分で活動の終わりを確認してから教師に報告する	○授業の流れ（何をやるか書かれたもの）や約束事を机に貼って手元で確認できるようにする。 ○全体への指示の後、個別に行うことの内容や約束を確認する。 ○指示書を分割して、相談や報告するタイミングを増やす。 ○最初はすぐに質問ができるように教師が近いところにいるようにし、徐々に距離をおいていくようにする。 ○教師が他の生徒の対応をしていて、順番を待つときは具体的な待ち時間を伝える。 ○自分で進める前に、質問や相談ができたときは賞賛する。 ○完成した塗り絵や折り紙を用意して、自分で見比べるようにする。

事例生徒Ｃ

学習の様子	本時の目標	手立て
ときどき指示を聞き逃してしまうことがあるが、活動内容によっては指示や説明を理解して黙々と活動に取り組める。 分からないときや困ったことがあるときに、教師が近くにいない場合は、どのようにしたらよいか戸惑ってしまうことがある。教師が近くにいる場合は、質問したり報告したりすることができる。 感想を促すと「楽しかったです」等限られた言葉になってしまう傾向にあるが、活動したことを思い出して発表することができる。	○ラジオ体操では、教師の手本を見て、同じように体を動かす。 ○全体の指示で活動を始める。 ○分からないことがある場合は質問する。 ○担当の流し掃除が終わったら、教師に報告する。 ○感想を交えて発表する。	○手本の教師を見るように、言葉をかける。 ○Ｔ１を見て話を聞くように促す。 ○「分からないことがあったら、手をあげて聞く」と黒板に貼っておく。 ○個別に分からなかったら報告すること、終わったら報告することを確認しておく。 ○個別に感想の項目を入れた振り返りシートを準備する。

高等部２年生　分科会協議一覧

＜協議の柱より＞

〇授業の内容・目標を見て、事例の生徒の目標や手立ては適切であったか。

・指示書など本人が見て、次に取り組める手立ては良い。

・１つ１つの活動の初めと終わりが分かりやすかったが、量や見本は適切であったのか？

・事例の生徒に応じた手立て（スケジュール・確認の項目でスモールステップにする）などがとられていた。

・言葉での指示が多い。社会人に向けて必要ない支援はカットしていく。

・報告・質問するために、伝えようと思う気持ちはあるのか。

・＜教師の話を聞いて、指示どおりに活動を進める＞　事例Ａ君には適切であった。

〇個別の指導計画から本時の目標が反映されており、関連を見ることができたか。

・報告・質問するために、伝えようと思う気持ちはあるのか。ツールは共通なのか。これまでの生育歴、現在の生活が個別の指導計画の中から見えてきてもよいのではないか。

・個別の支援計画に全部を詰め込んであるわけではないから・・・・。

・指示理解がどれくらいできるのか？実態把握やねらいを明確にできるとよい。

・支援計画→目標　　文字だと難しい。

・年間目標にある〈適切な関わり方〉の１つがヘルプカード？ならば、他の場面でも使っているのか。

・日常生活の指導の２つ目とも関連しているのでは。

・大まかなところでは反映していると思う。

・長期・年間目標との関わり◎　教科目標◎

〇職業科の授業から小・中で行っている活動と関連性が見いだせたか。

・国語・数学、他の授業で身についた力（弁別・見る・見通しなど）を場に応じて発揮する。

・小学部では具体的な変化のあるもので興味関心を育てる→中高等部では社会とのつながりを意識できる。

・小学部では、日常生活の指導で取り組んでいることかな、つながりがある。

・中学部では作業や国語・数学との関連性がある。中学部でも系統性や関連性を考える必要がある。

・手順表等、視覚からの指示や口頭での指示

・「働く力」日々の積み重ねが大切。

・学習内容は課題別学習にあたる、困ったときのヘルプカードは作業に関連する。

・＜分からないときは伝える＞小学部段階でも関わること。

・係活動など終わったときの報告は小学部でも大切。

・中学部との支援のつながりをつくるには、どうしたらよいか？何が参考になっているのか？

〇感想・その他

・もっと困らせる、切実感のある報告せざるを得ない状況を作れるとよいのではないか。

・指示を理解する。→言葉が分かる。やり方が分かる。

・やってみようと思う。→どうやろうか自分で考える　⇦　どこでねらうか？？

・「指示に従うこと」と「自分で考えること」の境とは？

・「分からない」を伝えるようになるまで、どのような支援を行ってきたか？

・折り紙と色塗りにした理由は？なぜ折り紙と色塗りなのか？今後はどのような活動で目標を達成していくのか

・ヘルプカードが日常的なツールになるとコミュニケーションが広がると思う。

・作業学習と職業科の違いを明確にしたい。

・職業科で何を意識させるべきなのか、働くということをどのように意識させるべきか？折り紙でよかったのか？

・働く意義は？そもそも職業科とは？

（資料３－３）

高等部３年生「職業科」学習指導略案

展開場所　多目的ホール
展開時間　10:35～11:55
指導者　小谷(T1)博山(T2)廣明(T3)吉田(T4)尾林(T5)
増田(T6)小林(T7)南雲(T8)阿部恵(T9)小野塚(T10)
生徒　高等部３年生Ａグループ（２９名）

１　題材名「自信をもって挑戦しよう！！～様々な施設の利用の仕方について～」

２　題材について

本題材は、様々な施設（病院、美容院（理容院）、市役所）の利用の目的や仕方について学び、一人で利用できるようになるために、ロールプレイを用いて体験するものである。

（１）生徒の様子

本時の授業における生徒の構成は、進路先として就労継続支援Ｂ型、就労移行支援、企業就労を希望する２９名の生徒たちである。生徒それぞれの課題や理解力等に幅のある集団ではあるが、どの生徒も身辺自立など自分のことは自分でできる、またはできてほしい生徒たちで、それぞれの到達度の差はあるが、社会人として必要なスキルを増やし、自立した生活を送ってほしい生徒たちである。

高等部３年生の「職業科」の授業では、これまで学習指導要領の「勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる」という観点のもと、社会人として必要なルールやマナー（身だしなみやビジネスマナー、公共のマナーなど）を、ワークシートを使って学習したり、法律で禁止されているもの、困ったとき（犯罪やトラブルについて）の対処法などを、ロールプレイを行って学習したりしてきた。また、「家庭科」の授業では、学習指導要領の「明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め､実践的な態度を育てる」という観点のもと、掃除の仕方や被服の調整といった実際に必要なスキルについて学んできた。

生徒たちは、言葉での理解力に幅のある集団であるため、授業の進め方において、以下の２点を大事なポイントとして考えている。１点目は、イラストや動画を使いながら課題について考えること。２点目が、ロールプレイを活用し、実際に体験する学習を取り入れることである。この２点を活用することが、それぞれの生徒たちの理解を深める上で有効であると考え、これまで実践してきた。

（２）題材設定の理由

本題材で社会生活のマナーとして「様々な施設の利用の仕方について」を取り上げた理由としては、卒業を３か月後に控え、社会人になるにあたり養いたい力の１つに、「一人で自信をもって様々な施設を利用できるようになってほしい。」という願いからである。

施設	経験有無		１人で	親と	友達と	先生と	分からない
病院	有	96%	１５％（5人）	８４％（28人）	０％（0人）	９％（3人）	０％（0人）
	無	3%					
美容院（理容院）	有	81%	２１％（7人）	６３％（21人）	０％（0人）	０％（0人）	３％（1人）
	無	18%					
市役所	有	75%	９％（3人）	５７％（19人）	０％（0人）	１５％（5人）	１２％（4人）
	無	24%					

【図１　病院、美容院等、市役所の利用状況
（33人回答で複数回答　小数点以下切り捨て）】

今回取り上げた施設は、３施設で、「病院」「美容院（理容院）」「市役所」である。どの施設も身近で、実際に利用している施設ばかりである。事前のアンケート（図１参照）でも、ほぼ全員が３つの施設の利用経験がある。しかし、利用の仕方を問うと、親と同伴での利用が多く、一人で利用している生徒は少ない。利用したことのある生徒の中で親と利用している割合は、「病院」は、84%、「美容院（理容院）」は、63%、「市役所」は、57%である。一人で利用している割合は、それぞれ、15%、21%、9%である。それぞれの家庭事情があるものの、一人で利用する経験が少ないということが浮き彫りになったので、実際の状況にできる限り近づけ、一人で利用する体験をしてほしいと考えた。そして、授業での体験を成功体験として、実際に普段の生活で挑戦してみようと思えるようにしていきたい。

授業の内容としては、初めに施設ごとに利用の仕方のポイントを確認する。「病院」であれば、①何をどのように伝えるのか（「いつから、どんな症状」）、②簡単な質問にどう答えるのかといったコミュニケーションの点を確認する。③「病院」を利用するにあたり、必要になる物（保険証、診察券、お金など）を自分で用意できるように、その点も選択課題に入れる。

工夫する点としては、コミュニケーションが苦手な生徒たちが、様々な方法で相手に伝えることができるように、イラストや文字の入ったカードや台詞を書いたカードなどを用意しておく。また、生徒たちが施設の利用をイメージできるように、実際の施設の雰囲気を出すようにする。ロールプレイの際は教師の役割分担を明確にし、役になりきるように白衣や聴診器といった小物を用意する。こういった工夫により、意欲をもって取り組んでほしいという願いと、適度な緊張感を感じ、より実践的になる状況をつくっていきたいと考えている。

それぞれのグループで、培ってほしい力は、以下のとおりである。

「病院グループ」は、①相手に伝わる話し方をする。（はっきり、分かりやすく話す。）②指定された内容を伝える。③決まった質問に対して、自分で考え答える。（黙らない。分からないときは「分からない。」と伝える。）

「美容院（理容院）グループ」は、①相手に伝わる話し方をする。（はっきり、分かりやすく話す。）②自分の希望の髪型を考え、いろいろな方法で伝える。（言葉で説明する。カタログの中から選択する。相談して決める等）③伝えた内容と違うことを言われたら「違います。」と答える。

「市役所グループ」は、①利用したい手続きについて、自分から申し出る。②相手の説明をよく聞く。③説明の内容や書類の書き方が分からないときは、自分勝手に行わず、すぐに自分から質問して聞く。それぞれのグループによってねらいは少しずつ変わるが、施設の利用目的や方法、また、それぞれの必要な事柄に対しての伝え方などの力を身につけてほしいと考えている。

本時では、生徒がそれぞれの状況で主体的に考えたり、行動したりしながら、ロールプレイを通して自信をもって施設の利用を体験できるような内容にしていきたいと考えている。

３　本時の指導

（１）全体目標

○それぞれの施設の利用の目的や仕方を知り、必要な物が分かる。

○それぞれの施設でのやり取りを、主体的に取り組む。

・「病院」：指定された病状を、様々な手段を用いて自分から伝えることができる。

・「美容室（理容室）」：自分の要望を考え、様々な手段を用いて自分から伝えることができる。

・「市役所」：各種手続きを一人で行う。やり方が分からないところを自分で聞く。

（２）授業展開

時配	学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
2 分	○挨拶をする。（C 組）	・注目できるように姿勢を正すように言葉かけをする。（T1）	マイク、アンプ
25 分	【全体での活動】 ○施設の種類を知る。 ・公共施設、商業施設、医療施設 ○自分たちのアンケート結果について知る。 ・利用経験、誰と利用しているかの現状を知る。 ○各施設の利用の目的、仕方、必要な物を知る。また、利用する上で大事なポイント（ロールプレイを行う大事なポイント）を知る。 ・病院 ・美容室（理容室） ・市役所	・身近でよく利用している施設には、いろいろな種類があることが分かるように、ワークシートは、見開きで全体が把握できるように工夫する。 ・利用状況について、分かりやすいように円グラフにまとめたものを用意する。 ・各施設の学ぶポイントが視覚的に分かるように、TV を使ってイラストや画像を映し出すようにする。（T1） ・生徒によっては、各施設の説明が分かるように、手元のワークシートに注目できるようにする。 ・ロールプレイをする大事なポイントが個別にそれぞれが分かるように、各グループ生徒の名前をあらかじめ呼ぶようにする。(T1) ・生徒が移動の際わかりやすいように、各施設の場所にイラストとメンバー表を掲示しておく。	長机、椅子、TV、 ワークシート、 必要な物のカード 各施設のイラスト
30 分	【各グループでの活動】 ○各施設に分かれて、ロールプレイをする。 ・各施設に分かれる。 ・必要な物を選択する。 ・やり取りを行う。	・生徒によっては、必要な物の選択の際、ワークシートを参考にするように言葉かけをする。（T2、T3、T8） ・生徒によっては、やり取りの内容を覚えるように、待っているときに練習するように支援する。（T2、T3、T8） ・病院では、「今日はどうしましたか。」、美容院では、「今日はどうしますか。」という同じ問いかけから始めるようにし、生徒がスムーズにやり取りできるようにする。（T4、T9） ・市役所では、生徒からの働きかけがあるまでは様子を見る。（T7） ・市役所のやり取りで、生徒によっては、初めのやり取りの台詞を提示する。（T2、T5）	机、椅子、 筆記用具、 必要な物のカード、実物 病院：聴診器、白衣、指示書 美容室：鏡、はさみ、カタログ 指示書 市役所：書類指示書、筆記用部
20 分	【全体での活動】 ○ワークシート使って、まとめを行い、発表し合う。 ・うまくできたことは何か○を付ける。 ・もっと頑張ることは何かを書く。	・生徒によっては、やり取りの際分かりやすいように、参考になる言葉かけを行う。 ・一人一人良くできたポイントを褒める。 ・生徒によっては、意見を出しやすくするために、体験したときの様子を言葉かけする。 ・自信をもって意見を発表できるように、机間巡視を行い、生徒に肯定的な言葉かけをする。（T1）	
3 分	○挨拶・片付けをする。 ・挨拶をする。 ・長机、椅子を片付ける。	・注目できるように姿勢を正すように言葉かけをする。（T1） ・安全に気をつけながら支援する。	

４　評価

○それぞれの施設の利用の目的や仕方を知り、必要な物が分かったか。

○それぞれの施設でのやり取りを、主体的に取り組めたか。

・「病院」では、指定された病状を、様々な手段を用いて自分から伝えることができたか。

・「美容院（理容院）」では、自分の要望を考え、様々な手段を用いて自分から伝えることができたか。

・「市役所」では、手続きのやり方を一人で行い、分からないところを自分から聞くことができたか。

○それぞれの目標に合わせて、個々の支援が適切であったか。（教師の視点）

○それぞれの場面設定で、分かりやすい状況をつくることができたか。（教師の視点）

事例生徒の目標及び手立て

事例生徒 A :「病院」でのロールプレイ

学習の様子	本時の目標	手立て
○毎回の授業を楽しみにしており、どの題材でも意欲的に取り組んでいる。 ○間違えることにとても抵抗感があり、周りの様子を見たり、教師に相談しながら答えたりすることが多い。 ○ロールプレイなどでは、友達が行っているのはよく見て、「こうだよ！」と発表しているが、自分が行う場面では、伝えたいことを言葉にして表現することが難しい。	○病院で必要な物を選ぶことができる。 ○病状を医師に伝える。	○事前の学習で必要な物についてワークシートに記入する。選ぶ際に、記入したワークシートを見てもよいことを伝える。 ○病状のカードを手元に置いて伝えることが分かるように、教師がロールプレイをしたり、友達が行っている様子を見るよう促したりする。

事例生徒 B :「美容室」でのロールプレイ

学習の様子	本時の目標	手立て
○学習においては意欲的で、教師の話をよく聞き、ワークシートなどに書き込むことができる。 ○「自分で判断する」「考える」ことには時間がかかるが、自分なりの答えを発言することができる。 ○人と話をすることは好きであるが、相手を意識してやり取りをするということ（声の大きさや相手の様子を見ながら、という点）について難しい面が見られる。	○美容室では、必要な物を選択でき、自分の要望を伝える。 ○美容師とのやり取りの際、声の大きさや返事をする相手のことを考えてやり取りする。	○事前の学習やワークシートを活用することを伝える。 ○どのような髪形にしたいか、ロールプレイの前に確認する。 ○相手にどのように伝えたら伝わるのかを、事前に確認する。 ○声の大きさについて、周りの友達の様子を見て、考えるようにする。

事例生徒 C :「市役所」でのロールプレイ

学習の様子	本時の目標	手立て
○書くことへの苦手意識があり、ワークシートへの記入を終えると、見られないように隠す場面が見られる。 ○授業の内容をよく聞き、言葉にして表現することができる。 ○ロールプレイをするときには、恥ずかしがったり、どう考えてよいか分からないときに声が小さくなったりすることがある。	○書類の記入では、参考例を正しく読み取り、見やすく大きな字で丁寧に書く。 ○話すときの言葉遣いや大きさを意識し、受け答えの内容が相手に伝わるようにする。	○参考例を見て分からないときには、職員の方に質問をするように事前に確認する。 ○声の大きさについては、事前に声の大きさを１～５のレベルで伝える。 ○事前にやり取りする内容を伝えたり、教師のロールプレイを見たりしてから行うようにする。

高等部３年生　分科会協議記録
＜協議の柱より＞
〇授業の内容・目標を見て、事例の生徒の目標や手立ては適切であったか。
・事例の生徒（に限らず）の保護者がどこまで望んでいるのか（本人・保護者の願い）を把握する（くみ取る）アンケートがあってもよかったのでは。（保護者が手放せないでいることが多いのでは）→面談などでプッシュしていることもある。
・手立てとして、「声の大きさ」に対しての支援がその場では難しい。（ロールプレイングなので）
・設定が細かく、良い。将来を見据えての授業であることが伝わる。
・「救急車を呼ぶ」という電話対応の場面があってもよいのでは。
・卒業後、すぐに生かしてほしい内容。
・もう少し早い段階で授業を行い、その後の発展性があってもよい。（実際に住民票を取ってくる、冬休みにカットを自分でやってみる、などを設定できるとよい。）
・卒業後に取り組めないことが多い。学校が頑張る必要がある。個別の支援計画には年度当初の様子しかないため、本人の願い、保護者の願い、関係機関、教師の願いを結びつけたものを記入するものがない。
・授業では、なぜ本物のお金を使用しなかったのか？
〇個別の指導計画から本時の目標が反映されており、関連を見ることができたか。
・本時の目標が個別の指導計画から反映されているかと言われれば反映している。授業の様子全てを書ききれないので、保護者には面談時に口頭で伝えるようにしている。
・職業・家庭の授業内容が多岐にわたるので、日常生活の指導ともとれる内容の目標になってしまうことも。
・目標を立てる際に様々な教科とすり合わせをしていくのが良いのでは。長期→年間→授業の計画と目標がつながっているとよい。
・職業科の目標を立てる際に、内容が後期だけで７回あるので、目標設定をどこに絞ったらよいか。大きなくくりになってしまいがちだと思う。
〇職業科の授業から、小・中学部で行っている活動と関連性が見いだせたか。
・自分がどうしたらよいかを考えられること→自分の好きな物や欲しい物を選ぶ経験・活動を小学部段階から取り入れていきたい。
・関連性は難しいが、「人に聞く」「自分から」というポイントは中学部でも取り組んでいる。
・「場面に合わせた声の大きさ」という目標は、小で発表の時に話す態度や姿勢からつながると感じた。
・自分の気持ちや要求を伝えられるように日頃から支援していきたい。
・挨拶、役割、要求の伝え方、拒否、順番など小学部でも日ごろから取り組んでいるので、丁寧にやっていきたい。
・小・中学部からの積み重ね、基礎があっての高等部。買い物、受診など、学校の保健室での練習もあってよい。
・小学部では様々な場面で教師が対応を一つずつ伝えているが、徐々にじぶんで考えて行動するように積み重ねていける活動が必要だと思った。
・質問されたことに適切に答えるというのは小学部から大切にしていること。
・分からないことを「分からない」と言える大切さを再認識。
〇その他
・つくしの小・中学部の子どもたちの活動が見たい。
・ロールプレイという授業形態が良い。→難しい生徒は実際に行く、というグループがある
・家庭との連携をどうしていくのか。家庭にどのように伝えて、どう今後に生かすかまでを含めて授業を行ってほしい。→ファイルを返して、自宅で確認してもらうようにはしているが・・・。

３　まとめ

高等部では平成２３年度から２５年度までの３年間、「一人一人が生き生きと、より主体的に活動する作業学習を目指して」という学部テーマのもと、単元内容や活動内容の充実、班の運営に関する生徒の活動の取組、生徒の変化に応じた支援の工夫、という点を中心に実践、研究を行った。その中で、単元の内容や作業工程を吟味し、実行委員会活動を軸にした生徒の活動をつくり、一人一人に応じた活動内容を工夫し、生徒が主体的に活動する姿がたくさん見られるようになった。

これを踏まえ、平成２６年度から今年度までの３年間は、全校テーマ「一人一人の個性を大切にした授業の在り方を探る」のもと、日々の授業と個別の指導計画との関連を洗い出しながら、授業の在り方を実践、研究することとなった。

本研究１年目の平成２６年度は、「一人一人の個性を大切にした作業学習の授業づくり」という学部テーマを設定した。一人一人の個性、すなわち障害特性や発達段階、生活背景などからくる行動特性、その人らしさなどを踏まえて、どのように作業学習の授業に取り組むかを検討し、各作業班の事例生徒を基に個別の指導計画にある長期目標、年間目標と授業のねらいの関連を検討した。授業の中では生徒の個性に応じた様々な支援の工夫が示され、また長期目標や年間目標の項目を整えることや客観的な実態把握の必要性が浮かび上がった。

平成２７年度は本校と矢切特別支援学校との分離の時期にあたり、全校で「一人一人の個性を大切にした授業の在り方を探る～個別の指導計画を中心としたＰＤＣＡサイクルをフローチャートにまとめよう」というテーマを設定し、学部の枠を外して、自由な討議の中、今までの実践を振り返ることにした。高等部では、高等部として大切にしていること、個別の指導計画を立てる際に大切にしていること、保護者との接し方で大切にしていること、自己理解、自己研鑽の方法、話合いの大切さ、進路先で求められること、困ったときの参考図書などが話題の中心となった。そしてそれを年間の流れと合わせてフローチャートの形でまとめることができた。

本研究３年目の今年度は、「一人一人の個性を大切にした授業の在り方を探る～将来に結びつく、個別の指導計画を中心としたＰＤＣＡサイクルの再構築」というテーマを設定し、個別の指導計画の内容を吟味し、どのように授業との関連づけを図り、日々の授業計画や実践、評価や反省を次の活動にどのように生かしていくかを検討した。今年度は高等部の日課表に大きな変更があり、「職業」「家庭」を隔週に位置づけ、年間を通して計画的に取り組むこととした。そこで授業研究で各学年の「職業」の授業を取り上げ、高等部の「職業」で何を、どのように学習するか、学部全体で取り組むことにした。個別指導計画の内容については課題が多あり、今後高等部で引き続き検討することになった。「職業」の授業については、３年間を見据えた指導内容、生徒の実態の多様化に応じた指導内容の吟味が課題となっている。

３年間の研究で、個別の指導計画を踏まえた授業のあり方を検討してきた。「作業学習」「職業」それぞれの授業でのＰＤＣＡサイクル、個別の指導計画との関連性についてはまだまだ課題は残るが、研究テーマにある「一人一人の個性を大切にした授業」については職員が一致した方向で取り組むことができた。

４　来年度に向けて

この３年間の研究で、個別の教育支援計画、個別の指導計画と授業の関連を検討してきた。今年度は、本校高等部で隔週取り組み始めた「職業」の授業を検討する中で、多くの課題が明らかになってきた。

これを踏まえて、来年度は全校の研究テーマを受け「職業」の授業に焦点をあて、充実させる研究としたい。１年間、３年間を見通した授業計画、学習のねらいの明確化、分かりやすい授業展開、魅力的な教材開発、生徒一人一人に応じた適切な手立て、一般就労を目指す生徒への指導の在り方と環境設定、発達の初期的段階にある生徒への指導の具体化など、多くの実践課題、検討課題があるが、一つ一つの授業に丁寧に取り組む中で、高等部３年間、そして卒業後の生徒の生活を見通した授業づくりを目指していきたい。

終わりに

今年度の４月から障害者差別解消法が施行され、公的な機関において「基礎的環境整備」と「合理的な配慮」が義務となり、また、新学習指導要領の概要が徐々に明らかになるにつれ、特別支援教育の世界のみならず教育界全体が大きな変革を迫られています。

そうした時代になっても、私たち教職員の最も大切な職務は、日々の授業実践の充実に他なりません。

今年度取り組んだ研究テーマにおいて、１２年間の児童生徒の学校生活を考え、より良い授業のための「見取り」や「見立て」を行うため、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を整備することで、一昨年から取り組んだ研究のまとめとしました。

繰り返しになりますが、学校の基本的な機能は授業にあります。みんなで取り組む良さを最大限に発揮されるよう集団化を図りながら、子どもたち一人一人が活躍できるよう、個別化も図ります。今年度の研究テーマ「一人一人の個性を大切にした授業のあり方を探る」取り組みは、教職員個々の専門性の追求である、とも言えるでしょう。

つまり、私たち教職員の授業づくりに対する姿勢が授業づくりの善し悪しに帰結します。そこで、教師は、子どもたちの力を高めるうえでどのようなことを大切にしていけばよいのでしょうか。その答えを今までつくしの先輩たちが取り組み、まとめられた過去の研究紀要から見つけたのでここに記します。

初めに、子どもに「させる」「やらせる」のではなく、一緒に活動に取り組む中で、子ども個々の様子に応じた手だてを整え、子どもの主体性を支える指導・支援を行いたい。

次に、常に目の前の子どもと真摯に向き合い、共に学校生活を送る中で、その子らしさを見取り、子どもの苦手なことばかりではなく、「得意なこと」「できること」を伸ばしていく肯定的な姿勢を大切にしたい。

最後に、評価は教師に帰する。もし、教師の目標どおりに子どもたちが取り組んでくれなかったら、子どものせいにするのではなく、教師自身の手だてに帰すと考え、その目標のあり方や過程を見直し、次の手がかりとする。

ここに本年度の研究の成果をまとめることができました。次年度は今まで培った研究成果を生かし、今まで以上に授業実践の充実を目指す所存です。

結びに、御指導いただきました井上昌士先生（県立袖ケ浦特別支援学校教頭）、全体講師の大南英明先生（全国特別支援教育推進連盟理事長）に心から御礼申し上げます。

教　頭　　細　川　貴　規

研　究　同　人

○佐藤　弘行（校長）　○細川　貴規（教頭）　○市川　正人（教頭）
小山　和広（事務長）　○築井　康（主幹教諭　初任者指導）○松村　雅彦（教務主任）
伊藤　文子（特別支援教育コーディネーター）　須鎌　ひろみ（特別支援教育コーディネーター）
中川　博子（養護教諭）　木村　奈穂子（養護教諭）　佐々木　文（養護教諭）

＜小学部＞

○渡邉　久美	堀　富美恵	鈴木　早苗	内村　五月	福山　典子
嶋田　あゆみ	峯岸　妙子	草野　理津子	池田　昌敏	宮本　杏里
齋藤　智子	手塚　夏美	松岡　亜樹	中谷　有紀	梁田　鈴子
○長岡　里実子	大嶋　美友紀	山崎　まゆみ	宜保　義人	山崎　幹夏
河村　淑子	沼沢　絵梨佳	鈴木　有貴	正岡　大	野本　有紀
○稲垣　淳	○鈴木　香津美	○谷藤　佳歩	○尾下　眞理子	○櫻井　貴幸
小西　雄基	竪山　景子	田子　裕之	田邉　友希子	大門　賢次
佐藤　千帆	神田　実咲	佐瀬　雄二	小出　瑞紀	

＜中学部＞

○佐川　千栄	青木　琴音	今村　洋大	髙山　知也	芹田　桂子
伊藤　由佳里	磯山　正巳	太田　逸子	山口　麻衣	宮下　和洋
松本　佳代子	勝俣　栄太	稲葉　萌子	○上見　篤史	菊池　亜耶
中田　典宏	○佐藤　奈穂美	早川　聡太	河野　典彦	畝本　実咲
廣瀬　美智子	佐藤　恵美子			

＜高等部＞

○篠田　久美子	平野　明美	池田　和也	高橋　司行	宇田川　美恵
黒澤　範子	山本　美紗	横沢　宏和	中島　歩未	加瀬部　芽ぐむ
加納　佳子	齋藤　信昭	松丸　修二	市原　輝	海宝　元
○野村　功美	別府　利博	江澤　一男	日沼　千枝	池田　満明
○澤口　順子	塚本　和子	篠原　千尋	齋藤　勝義	臼井　真紀江
実広　泰史	羽田　智子	矢口　周	谷口　育男	齊木　智子
江原　菜摘	安蒜　文雄	廣明　純子	博山　伸子	吉田　二郎
堀江　佳代	尾林　桃果	伊藤　友祐	○増田　賀子	小林　雄大
中谷　明子	南雲　瑞穂	阿部　恵美子	村山　高一	小野塚　早紀
阿部　佑亮	小谷　まり	熊倉　直子	高島　則子	

＜事務部＞

小野寺　達也	吉田　大起	狩野　友紀子	永田　久実子	花澤　道雄
大堀　佳子	植村　美紀子	桑原　ルミ子	大瀧　陽子	佐藤　史世
奥山　智恵	高橋　佳奈美	西谷　啓子	川畑　伸二	浅井　桂子
大井　雅行	大津　久美子	中野　弓子	森田　友代	村本　哲二
猪狩　由美子	根本　幸次	竹田　優	佐藤　隆正	齊藤　栄蔵
坂中　興栄	濱田　梢	濱本　寿子		

※○印は、研究推進委員